

アカマンボウ目 Order Lampriformes

アカマンボウ科 Family Lampridae Gill 1862

アカマンボウ属 Genus *Lampris* Retzius 1799

アカマンボウ
Lampris megalopsis
 Underkoffler, Luers, Hyde
 & Craig 2018

全世界の熱帯から温帯域，日本では北海道から沖縄県まで分布する。写真は尾鷲市の定置網で漁獲されたもの。このほか熊野灘のまき網で幼魚が採集された。広く太平洋で操業するマグロ延縄船で水揚げされることもある。
 (笹木大地)



アカマンボウ *Lampris megalopsis*
 左 成魚，尾鷲市（山下訓右氏撮影）
 右 幼魚，FRLM 47953, 82 mm SL, 熊野灘（頭部－背部損傷）

クサアジ科 Family Veliferidae Bleeker 1859

ヒメクサアジ属 Genus *Metavelifer* Walters 1960

ヒメクサアジ
Metavelifer multiradiatus
 (Regan 1907)

ハワイ諸島，20°S以南のオーストラリア沿岸，ニュージーランド，モザンビーク，日本では千葉県から鹿児島県，東シナ海北東部大陸棚斜面域，沖縄島に分布する。三重県では熊野灘の定置網や刺し網で混獲される。本種は臀鰭棘数が17-18であること，背鰭軟条下に黒色斑があること，背鰭が狭いことで同科のクサアジ *Velifer hypselopterus* Bleeker 1879と区別できる。
 (笹木大地)



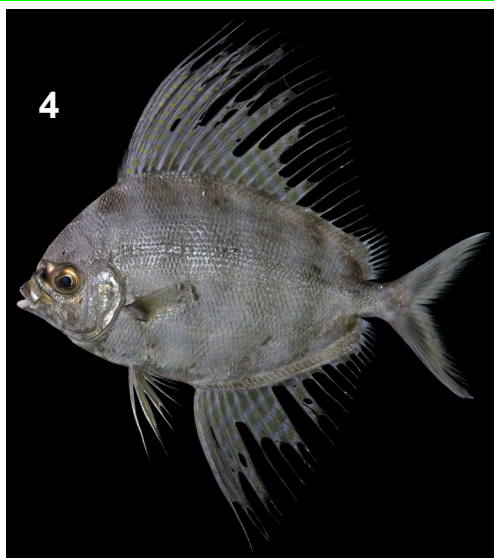
ヒメクサアジ *Metavelifer multiradiatus*,
 FRLM 40533, 233 mm SL, 志摩市大王町波切

ヒメクサアジ FRLM 61651,
 86 mm SL, 御浜町阿田和

クサアジ属 Genus *Velifer* Temminck & Schlegel 1850

クサアジ
Velifer hypselopterus
 Bleeker 1879

韓国浦項，オマーン湾，マダガスカル南部，日本では青森県牛滝，新潟県佐渡および宮城県以南の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する。三重県では熊野灘の定置網や刺し網で混獲される。本種は臀鰭棘数が1であること，背鰭軟条下に黒色斑がないこと，背鰭が広いことが特徴。
 (笹木大地)



クサアジ *Velifer hypselopterus*
 FRLM 49398, 230 mm SL
 志摩市志摩市和具

フリソデウオ科 Family Trachipteridae Swainson 1839

フリソデウオ属 Genus *Desmodema* Walters & Fitch 1960

フリソデウオ *Desmodema polystictum* (Ogilby 1898)

太平洋，西大西洋，日本では北海道釧路以南の太平洋，兵庫県から鹿児島県の日本海，東シナ海に分布する．三重県では熊野灘のまき網で稀に混獲される．本種は吻長が眼径より小さいこと，尾鰭条数が通常8であることで同属のオキフリソデウオ *Desmodema lorum* Rosenblatt & Butler 1977 から区別できる．（笹木大地）



フリソデウオ *Desmodema polystictum*, FRLM 35968, 1010+ mm TL, 熊野灘 (尾鰭破損)

サケガシラ属 Genus *Trachipterus* Goüan 1770

サケガシラ *Trachipterus ishikawae* Jordan & Snyder 1901

北太平洋西部および中部，日本では北海道から沖縄県に分布する．三重県では熊野灘のまき網で稀に混獲される．本種は体側に5個の黒斑がないこと，尾鰭および腹鰭が小さいことで同属のテンガイハタ *Trachipterus trachipterus* (Gmelin 1789) から区別できるとされきた．しかし，瀬能（2018）によるとテンガイハタは本種の稚魚期に相当する可能性が高いとした．一方で「サケガシラ」とされる種には複数種が混同されている可能性も示唆されている（瀬能，2018）．（笹木大地）



サケガシラ *Trachipterus ishikawae*, 尾鷲市早田町
上 FRLM 65846, 311 mm SL
下 FRLM 65836, 146 mm SL

ユキフリソデウオ属 Genus *Zu* Walters & Fitch 1960

ユキフリソデウオ *Zu cristatus* (Bonelli 1820)

全世界の熱帯から温帯域，日本では北海道から沖縄県まで分布する．三重県では鳥羽市答志島から採集された．本種は尾部上の側線は波状であること，背鰭の前部6軟条は後方軟条と離れること（ただし幼魚では接近する）で同科他種と区別できる．（笹木大地）



ユキフリソデウオ *Zu cristatus*
FRLM 57035, 143 mm SL, 鳥羽市答志島

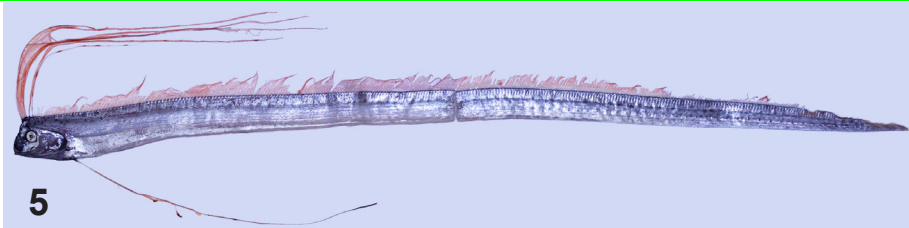
リュウグウノツカイ科 Family Regalecidae Gill 1884

リュウグウノツカイ属 Genus *Regalecus* Ascanius 1772

リュウグウノツカイ *Regalecus russellii* (Cuvier 1816)

インドー太平洋, 南アフリカ, 地中海東部, 日本では北海道から沖縄県まで分布する. 主生活域は沖合中深層で, 稀に沿岸域に漂着する. 三重県では南伊勢町宿浦の定置網から標本が得られている. 体は著しく細長いことや背鰭前部の6棘は太く著しく伸長するなどの特徴をもつ.

(笹木大地)



リュウグウノツカイ *Regalecus russellii*, FRLM 60757, 1240+ mm TL, 南伊勢町宿浦 (尾鰭破損)

ギンメダイ目 Order Polymixiiformes

ギンメダイ科 Family Polymixiidae Bleeker 1859

ギンメダイ属 Genus *Polymixia* Lowe 1836

アラメギンメ *Polymixia berndti* Gilbert 1905

中沙群島西南海域, ジャワ島, オーストラリア北東岸, ハワイ諸島, 南アフリカ東岸, 日本からは房総半島東岸から宮崎県, 九州西方, 奄美大島, 沖縄県, 与那国島, 沖縄舟状海盆, 九州ーパラオ海嶺, 中・西マリアナ海嶺に分布する. 本種は側線上方横列鱗数が9-11であること, 吻端が上顎より前方に突出すること, 臀鰭第4棘が細く短く頭長の36%以下であること, 頭部背縁から吻部にかけては緩やかに曲がることなどから同属他種と区別できる.

(笹木大地)



アラメギンメ *Polymixia berndti*, FRLM 33574, 147 mm SL, 熊野灘

ギンメダイ *Polymixia japonica* Günther 1877

北西太平洋, 北部中央太平洋, 南太平洋, 日本では福島県以南の太平洋, 東シナ海, 種子島, 奄美大島に分布する. 本種は側線上方横列鱗が12-16であること, 吻端が上顎より前方に突出しないこと, 腹鰭と臀鰭が白色であること, 吻の皮膚は柔らかい寒天質であることから同属他種と区別できる.

(笹木大地)



ギンメダイ *Polymixia japonica*, FRLM 54519, 155 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

オカムラギンメ
Polymixia sazonovi
Kotlyar 1992

中・西マリアナ海嶺，日本では静岡県，愛知県渥美半島沖，種子島，奄美大島，沖縄県，九州－パラオ海嶺に分布する．三重県では志摩市和具沖から標本が得られている．本種は側線上方横列鱗が12-16であること，吻端が上顎より前方に突出しないこと，腹鰭と臀鰭が黒いこと，吻の皮膚は肥厚して微小皮弁があることから同属他種と区別できる．

(笹木大地)



オカムラギンメ *Polymixia sazonovi*, FRLM 63063, 184 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

マトウダイ目 Order Zeiformes

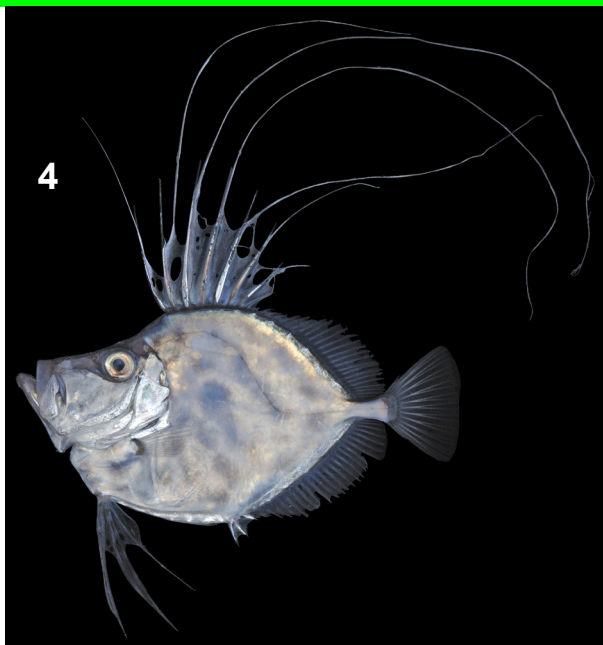
マトウダイ科 Family Zeidae Rafinesque 1815

カガミダイ属 Genus Zenopsis Gill 1862

イトヒキカガミダイ
Zenopsis filamentosa
Kai & Tashiro 2019

台湾，オーストラリア，フィジー，トンガおよびニュージーランドで記録される．国内では東京都，神奈川県，三重県，土佐湾，宮崎県，および九州沖で記録される．主に200 m以深に生息する．本種は背鰭棘条部の鰭膜が体長の2倍以上に伸長することで後述のカガミダイ *Zenopsis nebulosa* (Temminck & Schlegel 1845) と区別できる．本種は2019年に新種記載された種で，それまではのカミダイと混同されていた (Kai and Tashiro, 2019)．

(大島夢加)

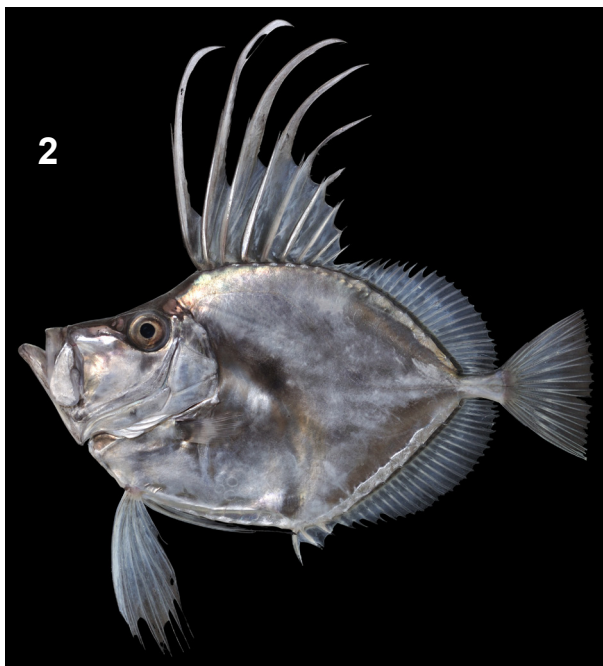


イトヒキカガミダイ
Zenopsis filamentosa
 FRLM 63007, 171 mm SL
 熊野灘

カガミダイ
Zenopsis nebulosa
(Temminck & Schlegel 1845)

朝鮮半島南岸からニュージーランドにかけて分布する．国内では北海道以南に生息する．本種は主に水深100-200 mとイトヒキカガミダイ *Zenopsis filamentosa* Kai & Tashiro 2019より浅所に生息し，定置網に入ることもある．しかし熊野灘沖の底曳網では，両種が同一操業で採集されることもあり，生息域は重複している可能性が高い．

(大島夢加)



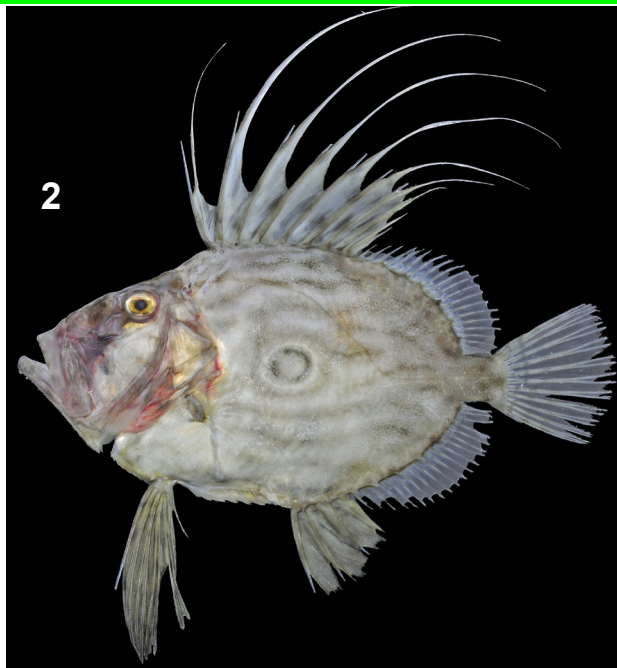
カガミダイ
Zenopsis nebulosa
 FRLM 44140, 235 mm SL
 志摩市志摩町御座

マトウダイ属 Genus *Zeus* Linnaeus 1758

マトウダイ *Zeus faber* Linnaeus 1758

東大西洋，地中海，アフリカ東岸からニュージーランドまでのインド-太平洋に広く分布する．国内では北海道以南に生息する．三重県では熊野灘に分布し，伊勢湾からも標本が得られている．本種は体色が茶褐色で体側中央に顕著な大黒斑があることから同科他種と容易に区別できる．
(大島夢加)

マトウダイ *Zeus faber*, FRLM 50952
139 mm SL, 志摩市志摩町御座



ベニマトウダイ科 Family Parazenidae McAllister 1968

カゴマトウダイ属 Genus *Cyttopsis* Gill 1862

イッテンカゴマトウダイ *Cyttopsis cypho* (Fowler 1934)

オーストラリア，南シナ海，台湾，日本では遠州灘から土佐湾に分布する（水町ほか，2022）．三重県では紀伊長島-古和浦間沖の熊野灘で採集され，これは日本から3個体目の標本である．本種は体側後半部の側線上に1黒色斑があること，側線鱗数が59-64であること，腹部の第4稜鱗と第5稜鱗上の棘の間隔が著しく狭いことなどにより，同属のカゴマトウダイ *Cyttopsis rosea* (Lowe 1843) と区別できる（水町ほか，2022）．
(笹木大地)



カゴマトウダイ *Cyttopsis rosea* (Lowe 1843)

東太平洋を除く全世界に分布する．日本では東北から宮崎県の太平洋沿岸，五島列島近海，宇治群島，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の中間海域，大隅諸島黒島，東シナ海大陸棚縁辺，九州-パラオ海嶺に分布する．本種は体側後半部の側線上に黒色斑がないこと，側線鱗数が73-82であること，腹部の第4稜鱗と第5稜鱗上の棘の間隔がやや広いことなどにより，同属のイッテンカゴマトウダイ *Cyttopsis cypho* (Fowler 1934) と区別できる（水町ほか，2022）．
(笹木大地)

イッテンカゴマトウダイ *Cyttopsis cypho*, FRLM 61358, 69 mm SL, 熊野灘



カゴマトウダイ *Cyttopsis rosea*, FRLM 58350, 87 mm SL, 熊野灘

ベニマトウダイ属 Genus *Parazen* Kamohara 1935

ベニマトウダイ *Parazen pacificus* Kamohara 1935

インドー西太平洋, 東大西洋, 日本では房総半島東岸から九州南岸の太平洋沿岸, 屋久島, 鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域, 大隅諸島黒島, 東シナ海に分布する. 本種は体高が低いこと, 胸鰭基底上端は眼の下端よりはるかに下位であること, 腹側の稜鱗に棘はないことで同科他種と区別できる. (笹木大地)



ベニマトウダイ *Parazen pacificus*, FRLM 64601, 93 mm SL, 熊野灘

ソコマトウダイ科 Family Zeniontidae Myers 1960

ソコマトウダイ属 Genus *Zenion* Jordan & Evermann 1896

ソコマトウダイ *Zenion japonicum* Kamohara 1934

海南島東方海域, 天皇海山, オーストラリア東岸・南東岸, 日本では仙台湾沖から宮崎県の太平洋沿岸, 富山県, 五島列島, 宇治群島, 鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域, 大隅諸島黒島, 東シナ海, 九州ーパラオ海嶺に分布する. 本種は口がほぼ垂直位であること, 前鰓蓋骨隅角部に1本の大きな後向棘があること, 腹鰭棘の前縁は鋸歯状であることから同属のアオマトウダイ *Cyttomimus affinis* Weber 1913 から区別できる. (笹木大地)



ソコマトウダイ *Zenion japonicum*, FRLM 61363, 55 mm SL, 熊野灘

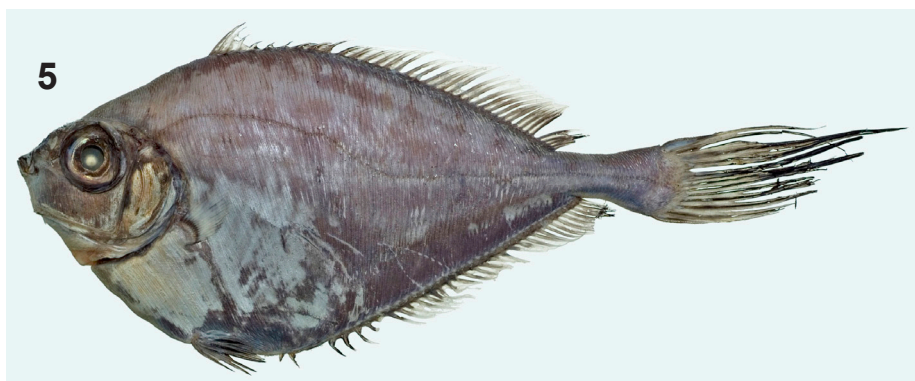
ヒシマトウダイ科 Family Grammicolepididae Poey 1873

オオヒシマトウダイ属 Genus *Grammicolepis* Poey 1873

オオヒシマトウダイ *Grammicolepis brachiuscula* Poey 1873

全世界の熱帯域に広く分布する. 国内では駿河湾, 熊野灘, 土佐湾, 東シナ海で記録される. 三重県では熊野灘で操業する沖合底曳網から1標本が得られている. 口は小さく後端は眼の前縁に達しない. 背鰭臀鰭基底に棘の列がある. 日本産同科他種であるヒシマトウダイ *Xenolepidichthys dalgleishi* Gilchrist 1922 とは口は顕著ではなく僅かに斜めに上に向くこと, 背鰭軟条が32以上であることで区別できる.

(大島夢加)



オオヒシマトウダイ *Grammicolepis brachiuscula*, FRLM 34504, 306 mm SL, 熊野灘 (左右反転)

ヒシマトウダイ属 Genus *Xenolepidichthys* Gilchrist 1922

ヒシマトウダイ *Xenolepidichthys dalgleishi* Gilchrist 1922

東部太平洋を除く全世界。日本では鹿児島から北海道の太平洋沿岸。三重県では熊野灘で採集された。背鰭・臀鰭基底に棘の列がある。頭部背縁は眼の上方で湾入する。背鰭IV-VI, 27-31, 腹鰭I, 6. (木村清志)



ヒシマトウダイ
Xenolepidichthys dalgleishi
FRLM 9108, 67 mm SL
熊野灘 (固定標本)

タラ目 Order Gadiformes

サイウオ亜目 (新称) Suborder Bregmacerotoidei

サイウオ科 Family Bregmacerotidae Gill 1872

サイウオ属 Genus *Bregmaceros* Thompson 1840

ヒトスジサイウオ *Bregmaceros anchovia* Ho, Endo & Lee 2020

西太平洋の暖海域。日本ではこれまでに山口県日本海側、高知県から鹿児島県で記録されている。三重県では熊野灘から標本が得られている。吻端は両顎からかなり突出する。臀鰭基底に黒色素胞が列をなす。尾鰭基底に1黒色横帯がある。頭部や軀幹部の腹面に黒色素胞はない (Ho et al., 2020). (岡田 誠)



ヒトスジサイウオ *Bregmaceros anchovia*, FRLM 55738, 57 mm SL, 熊野灘

セイヨウサイウオ *Bregmaceros atlanticus* Goode & Bean 1886

東太平洋を除く全世界の暖海域。日本では小笠原諸島沖から記録されている。第2背鰭起部は臀鰭起部と同じか少し前。腹部には一様に黒色素胞がある。体側横列鱗数は11-13。第2背鰭は47-56軟条。臀鰭は49-58軟条。本州からの初記録。 (岡田 誠)



セイヨウサイウオ *Bregmaceros atlanticus*, FRLM 42204, 64 mm SL, 志摩市志摩町御座 (固定標本)

サイウオ
Bregmaceros japonicus
Tanaka 1908

西・中央太平洋の暖海域。日本では宮城県以南に分布する。第2背鰭起部は臀鰭起部より後ろ。頭も体も全体的に黒っぽい。体側横列鱗数は14-15。第2背鰭は53-60軟条、臀鰭は56-64軟条。
 (岡田 誠)



サイウオ *Bregmaceros japonicus*, 熊野灘
 上 成魚, FRLM 53669, 45 mm SL
 左 稚魚, FRLM 28305, 19 mm SL

トヤマサイウオ
Bregmaceros nectabanus
Whitley 1941

大西洋・インド洋・西太平洋の暖海域。日本では新潟県以南の日本海・東シナ海および駿河湾以南に分布する。第2背鰭起部は臀鰭起部より後ろ。頭や体は背部のみ黒っぽい。体側横列鱗数は15-17。第2背鰭は46-55軟条、臀鰭は47-57軟条。胸鰭は16-19軟条。
 (岡田 誠)



トヤマサイウオ *Bregmaceros nectabanus*, FRLM 46529, 48 mm SL, 志摩市志摩町御座

クロハラサイウオ
Bregmaceros neonectabanus
Masuda, Ozawa & Tabeta 1986

西太平洋の暖海域。日本では房総以南に分布する。第2背鰭起部は臀鰭起部と同じか少し前。頭も体も背側がより黒っぽい。体側横列鱗数は15-17。第2背鰭は43-50軟条、臀鰭は43-50軟条。
 (岡田 誠)



クロハラサイウオ *Bregmaceros neonectabanus*, 尾鷲市
 上 FRLM 63081, 56 mm SL
 左 FRLM 54474, 42 mm SL

タラ亜目 Suborder Gadoidei

タラ科 Family Gadidae Rafinesque 1810

マダラ属 Genus *Gadus* Linnaeus 1758スケトウダラ
Gadus chalcogrammus
Pallas 1814

太平洋，大西洋の寒帯域，日本では北海道沿岸，山口県以北日本海沿岸，和歌山県以北太平洋沿岸に分布する．三重県では熊野灘で稀に採集される．本種は下顎が上顎より前に突出することが特徴．（榊原弘陸）

5

スケトウダラ *Gadus chalcogrammus*, FRLM 33842, 407 mm SL, 尾鷲市

ソコダラ亜目（新称） Suborder Macrouroidei

カワリヒレダラ科 Family Melanonidae Goode & Bean 1896

カワリヒレダラ属 Genus *Melanonus* Günther 1878カワリヒレダラ
Melanonus zugmayeri
Norman 1930

北大西洋，太平洋東部，日本ではオホーツク海，青森県以南の太平洋沖に分布する．深海性．三重県では熊野灘から標本が得られている．（榊原弘陸）

5

カワリヒレダラ *Melanonus zugmayeri*, FRLM 7335, 41 mm SL, 熊野灘（固定標本）

チゴダラ科 Family Moridae Moreau 1881

イトヒキダラ属 Genus *Laemonema* Günther 1862イトヒキダラ
Laemonema longipes
Schmidt 1938

北海道－駿河湾の太平洋沿岸に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．腹鰭軟条が根本から分離することが特徴．（榊原弘陸）

5

イトヒキダラ *Laemonema longipes*, HUMZ 231550, 404 mm SL, 北海道ソコクロダラ属 Genus *Lepidion* Swainson 1838ソコクロダラ
Lepidion inosimae
(Günther 1887)

西部および中部太平洋に広く分布，日本では天皇海山からハンコック海山，相模湾以南の太平洋側，東シナ海，硫黄島に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．口腔上側の鋤骨歯帯が小円形であること，臀鰭は49-55軟条であることで同属のキタノクロダラ *Lepidion schmidtii* Svetovidov 1936 と区別できる．（榊原弘陸）

ソコクロダラ *Lepidion inosimae*
BSKU 133066, 704 mm SL, 静岡県

5



キタノクロダラ
Lepidion schmidtii
Svetovidov 1936

北大西洋，西部太平洋，日本では千島列島北部，東北地方太平洋沖，天皇海山，房総半島沖，相模湾に分布する。三重県では熊野灘から標本が得られた。本種は鋤骨歯帯が逆V字形または三角形であること，臀鰭は39-42軟条であることが特徴。
(榊原弘陸)

キタノクロダラ *Lepidion schmidtii*
KPM-NI 36535, 730 mm SL, 静岡県
(瀬能 宏氏撮影)

5



イソアイナメ属 Genus *Lotella* Kaup 1858

イソアイナメ
Lotella phycis
(Temminck & Schlegel 1846)

西太平洋，日本では東北地方から九州南岸の太平洋沿岸，新潟県から九州北岸の日本海沿岸に分布する。写真の個体は志摩市の定置網で採集された。本種は鋤骨に歯がないこと，側線が尾柄部まで達することが特徴。
(榊原弘陸)

4



イソアイナメ *Lotella phycis*, FRLM 36875, 211 mm SL, 志摩市志摩町御座

チゴダラ属 Genus *Physiculus* Kaup 1858

チゴダラ
Physiculus japonicus
Hilgendorf 1879

北海道から九州の日本海・東シナ海・太平洋－高知県柏島の太平洋沿岸，北海道－山口県の日本海沿岸，東シナ海，西七島海嶺，大隅諸島九州－パラオ海嶺，済州島，台湾に分布する。本種に近縁とされたエゾイソアイナメ *Physiculus maximowiczi* (Herzenstein 1896) は本種の新参シノニムとされた (Chow et al., 2019)。写真の個体は志摩半島沖の釣りで採

2



チゴダラ *Physiculus japonicus*, FRLM 41599, 279 mm SL, 志摩市志摩町和具沖
集された。本種は第1背鰭が9-10が狭いことが特徴。
軟条であること，吻端近くの無鱗域
(榊原弘陸・笹木大地)

ソコダラ科 Family Macrouridae Bonaparte 1831

トウジン属 Genus *Coelorinchus* Giorna 1809

ネズミヒゲ
Coelorinchus anatirostris
Jordan & Gilbert 1904

西太平洋，日本では相模湾から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。本種に近縁とされたテングヒゲ *Coelorinchus productus* Gilbert & Hubbs 1916 は本種の新参シノニムと

5



ネズミヒゲ *Coelorinchus anatirostris*, FRLM 34140, 304 mm TL, 熊野灘
された (Nakayama, 2020).
(榊原弘陸)

オニヒゲ
Coelorinchus gilberti
Jordan & Hubbs 1925

北海道から土佐湾の太平洋沿岸，東シナ海，九州－パラオ海嶺，台湾に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭部下面は無鱗で，丸い肉質皮弁や黒色



オニヒゲ *Coelorinchus gilberti*, FRLM 37475, 173 mm TL, 宮城県

絨毛状皮弁が多くあることが特徴。

(榎原弘陸)

カタヒゲ
Coelorinchus hige
Matsubara 1943

神奈川県から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，東シナ海，台湾に分布する。深海性。ホシヒゲ *Coelorinchus asteroides* Okamura 1963 は本種の新参シノニムとされた (Nakayama, 2020)。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。

(榎原弘陸)



カタヒゲ *Coelorinchus hige*, FRLM 34770, 320 mm TL, 熊野灘

モヨウヒゲ
Coelorinchus hubbsi
Matsubara 1936

福島県から九州南部の太平洋沿岸，東シナ海，台湾に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。体の中央部に1本の暗色帯がある。

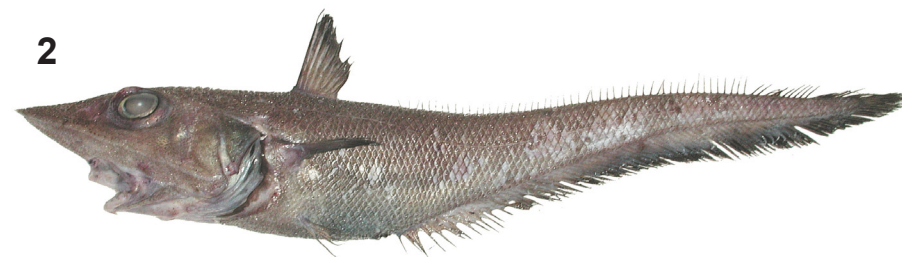
(榎原弘陸)



モヨウヒゲ *Coelorinchus hubbsi*, FRLM 34297, 161 mm TL, 熊野灘

トウジン
Coelorinchus japonicus
(Temminck & Schlegel 1846)

岩手県から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，富山湾から長崎県の日本海沿岸，東シナ海，台湾に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭部下面は鱗で被われること，頭部の背面



トウジン *Coelorinchus japonicus*, FRLM 27658, 555 mm TL, 熊野灘
と腹面の鱗に1本の隆起線があることが特徴。

(榎原弘陸)

キュウシュウヒゲ
Coelorinchus jordani
Smith & Pope 1906

茨城県から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，東シナ海に分布する。腹部の発光器の前縁は腹鰭基底部前端を超える。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。

(榎原弘陸)



キュウシュウヒゲ *Coelorinchus jordani*, FRLM 61378, 252 mm TL, 熊野灘

イチモンジヒゲ
Coelorinchus kamoharai
Matsubara 1943

台湾南部，インドネシア南部からオーストラリア北西岸，日本では宮城県から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，東シナ海に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭部下面に多くの褐色小皮弁があること，体側鱗の小棘は粗いことが特徴。

(榎原弘陸)



イチモンジヒゲ *Coelorinchus kamoharai*, FRLM 54468, 163 mm TL, 熊野灘

ムグラヒゲ
Coelorinchus kishinouyei
Jordan & Snyder 1900

青森県から九州南部の太平洋沿岸，東シナ海，台湾南部に分布する。胸鰭上部に1大円形黒斑がある。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。（榑原弘陸）



ムグラヒゲ *Coelorinchus kishinouyei*, BSKU 110139, 205 mm TL, 高知県

トンガリヒゲ
Coelorinchus longissimus
Matsubara 1943

房総半島から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，東シナ海，台湾北東部に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭部下面に褐色小皮弁がないこと，体側鱗の小棘は密であることが特徴。（榑原弘陸）



トンガリヒゲ *Coelorinchus longissimus*, FRLM 33785, 343 mm TL, 熊野灘

テナガダラ
Coelorinchus macrochir
(Günther 1877)

北海道から土佐湾の太平洋沿岸，新潟県，福井県の日本海沿岸，沖縄舟状海盆，東シナ海，韓国に分布する。吻端は鈍く，胸鰭が長い。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。（榑原弘陸）



テナガダラ *Coelorinchus macrochir*, FRLM 34768, 193 mm TL, 熊野灘

ヤリヒゲ
Coelorinchus multispinulosus
Katayama 1942

福島県から九州南部の太平洋沿岸，新潟県から長崎県の日本海沿岸，東シナ海，朝鮮半島南部，濟州島，台湾に分布する。体側に明瞭な蠕虫状斑紋がある。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。（榑原弘陸）



ヤリヒゲ *Coelorinchus multispinulosus*, FRLM 32912, 367 mm TL, 熊野灘

キシウヒゲ
Coelorinchus smithi
Gilbert & Hubbs 1920

房総半島から九州南部の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆，東シナ海，フィリピンからオーストラリアに分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭部の背面と腹面の鱗は2-5本の放射状隆起線をもつことが特徴。（榑原弘陸）



キシウヒゲ *Coelorinchus smithi*, BSKU 101167, 275+ mm TL, 高知県（尾部破損）

ミヤコヒゲ
Coelorinchus tokiensis
(Steindachner & Döderlein 1887)

房総半島から九州南部の太平洋沿岸，九州－パラオ海嶺，沖縄舟状海盆，台湾に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭頂鱗の棘状隆起線はほとんど



ミヤコヒゲ *Coelorinchus tokiensis*, BSKU 157368, 584 mm TL, 静岡県

1本であること，鰓膜は淡色であることが特徴。（榑原弘陸）

ホカケダラ属 Genus *Coryphaenoides* Gunnerus 1765

ヘリダラ

Coryphaenoides marginatus
Steindachner & Döderlein 1887

台湾から朝鮮半島南東岸の東シナ海、沖縄舟状海盆、日本では土佐湾から茨城県、三重県では熊野灘の深海カゴ網で漁獲された。第2背鰭始部は臀鰭始部よりはるかに後方に位置し、腹鰭は7-8軟条。(木村清志)



ヘリダラ *Coryphaenoides marginatus*, BSKU 103046, 413 mm TL, 静岡県

ハナソコダラ

Coryphaenoides nasutus
Günther 1877

北海道から九州南部の太平洋沿岸、沖縄舟状海盆、東シナ海、千島列島に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。頭部前方部は強く側扁しないこと、腹鰭は9-10軟条であることが特徴。(榊原弘陸)



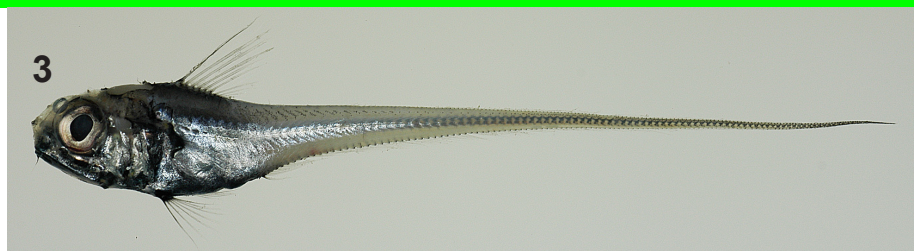
ハナソコダラ *Coryphaenoides nasutus*, BSKU 103042, 383 mm TL, 静岡県

スジダラ属 Genus *Hymenocephalus* Giglioli 1884

スジダラ

Hymenocephalus striatissimus
Jordan & Gilbert 1904

福島県から九州南部の太平洋沿岸、九州-パラオ海嶺、台湾、フィリピンに分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で漁獲される。下顎のひげは短く眼径の約1/2であることが特徴。(榊原弘陸)



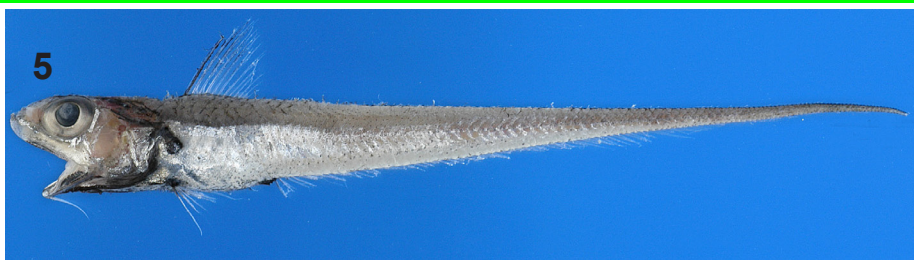
スジダラ *Hymenocephalus striatissimus*, BSKU 92222, 157 mm TL, 高知県

オニスジダラ属 Genus *Hymenogadus* Gilbert & Hubbs 1920

オニスジダラ

Hymenogadus gracilis
(Gilbert & Hubbs 1920)

地中海を含む世界中から知られる。日本では伊豆半島以南の太平洋岸に分布する。三重県では尾鷲産の標本が知られている(本川ほか, 2023)。体は円筒形で、両背鰭間の間隔は広く、鰓条骨は6本、背鰭2棘前縁は鋸歯状、吻端の突起は尖る。



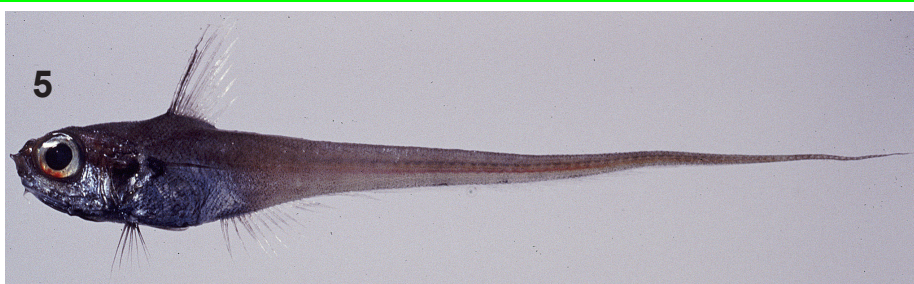
オニスジダラ *Hymenogadus gracilis*, BSKU 91754, 117+ mm TL, 高知県 (尾部破損)

(木村清志)

カガミヒゲ属 Genus *Kumba* Marshall 1973

カガミヒゲ
Kumba japonica
(Matsubara 1943)

日本および台湾の北西太平洋、日本では東北地方から東シナ海北部、九州-パラオ海嶺に分布する(Nakayama, 2020)。本種は熊野灘から得られた標本に基づいてMatsubara (1943)によって記載された。腹鰭が11-12軟条であること、発光器のレンズは2個であること、肛門は腹鰭起部と臀鰭起部の中間点より後ろにあることが特徴。



カガミヒゲ *Kumba japonica*, BSKU 44189, 140 mm TL, 熊野灘

(笹木大地)

マンジュウダラ属 Genus *Malacocephalus* Günther 1862

ニホンマンジュウダラ *Malacocephalus nipponensis* Gilbert & Hubbs 1916

千葉県から宮崎県の太平洋沿岸、九州－パラオ海嶺、沖縄舟状海盆、台湾に分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。鰓条膜に鱗があること、第2背鰭・臀鰭の基底付近の鱗が肥大しないことなどが特徴。
(榊原弘陸)



ニホンマンジュウダラ *Malacocephalus nipponensis*, FRLM 40506, 285+ mm TL
熊野灘（尾部破損）

ネズミダラ属 Genus *Nezumia* Jordan 1904

ヒゴソコダラ *Nezumia proxima* (Smith & Radcliffe 1912)

フィリピンから日本、本邦では沖縄県から岩手県の太平洋岸に分布する。本種の新参シノニムである *Lionurus abei* Matsubara 1943 は熊野灘で漁獲された標本に基づいて記載された。本種は腹鰭軟条が8-10軟条であること、吻はやや長く先端は尖り上顎よりかなり前方に位置すること、吻の腹縁は斜めであること、眼の中央より前方の吻の腹面に鱗がないことなどによって日本産同属他種と区別できる。
(木村清志)



ヒゴソコダラ *Nezumia proxima*, BSKU 45547, 264+ mm TL, 千葉県（尾部破損）

ニホンソコダラ属 Genus *Pseudonezumia* Okamura 1970

チドリヒゲ *Pseudonezumia cetonuropsis* (Gilbert & Hubbs 1916)

遠州灘から高知県沖ノ島南東海域の太平洋、豊後水道、八丈島東方、沖縄島に分布し、三重県では熊野灘沖合から記録されている (Nakayama 2020)。本種はニホンソコダラ *Pseudonezumia japonica* Okamura 1970 とよく似るが、吻端から上顎先端までの距離 (Preoral length) が頭長の26-29% (ニホンソコダラでは20-26%) であることから区別できる



チドリヒゲ *Pseudonezumia cetonuropsis*, BSKU 47908, 345+ mm TL, 熊野灘（尾部破損）
(Nakayama, 2020). (笹木大地)

ミサキシコダラ属 Genus *Ventrifossa* Gilbert & Hubbs 1920

サガミソコダラ *Ventrifossa garmani* (Jordan & Gilbert 1904)

岩手県から九州南部の太平洋沿岸、山口県日本海側、沖縄舟状海盆、台湾、フィリピンに分布する。深海性。三重県では熊野灘の底曳網で得られている。側線上方横列鱗数が5-6であること、腹鰭起部が胸鰭起部よりわずかに後ろであることが特徴。
(榊原弘陸)



サガミソコダラ *Ventrifossa garmani*, FRLM 33597, 180+ mm TL, 熊野灘（尾部破損）

ヒウチダイ目 (新称) Order Trachichthyiformes

マツカサウオ科 Family Monocentridae Gill 1859

マツカサウオ属 Genus *Monocentris* Bloch & Schneider 1801

マツカサウオ *Monocentris japonica* (Houttuyn 1782)

紅海・アフリカ東岸からケルマデク諸島（ニュージーランド）に至るインド-西太平洋の広い範囲に分布する。日本では琉球列島から北海道まで、ほぼ日本全土で見られる。熊野灘では主に刺網で漁獲された。本種は胸鰭基底直後に小鱗をもつことで同属のヤマブキマツカサウオ *Monocentris chrysadamas* Su, Lin & Ho 2022 から区別できる (Su et al., 2022b). (木村清志)

マツカサウオ *Monocentris japonica*
FRLM 36940, 84 mm SL
志摩市志摩町御座



ヒウチダイ科 Family Trachichthyidae Bleeker 1856

ハリダシエビス属 Genus *Aulotrachichthys* Fowler 1938

ハリダシエビス *Aulotrachichthys prothemius* (Jordan & Fowler 1902)

台湾、日本、韓国、ハワイ諸島、フィジー (Matsunuma et al., 2023). 日本では鹿児島県から千葉県に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網で特に幼魚がしばしば採集される。本種は後側頭骨後端が尖ること、尾柄部腹縁に沿った発光器の後端は尾柄の中央より後方に達し、腹鰭基底後端からの距離が尾柄長の55%以上であることで日本産同属のミナミハリダシエビス *Aulotrachichthys titan* Matsunuma, Ujihara & Endo 2023 やネジトゲハリダシエビス *Aulotrachichthys spiralis* Matsunuma, Ujihara & Endo 2023 と区別できる。 (木村清志)



ハリダシエビス *Aulotrachichthys prothemius*, FRLM 50673, 56 mm SL, 紀北町長島

ネジトゲハリダシエビス *Aulotrachichthys spiralis* Matsunuma, Ujihara & Endo 2023

九州南部から駿河湾に分布する。本種のアロタイプやパラタイプが志摩市大王崎東沖で採集された。本種は後側頭骨後端が丸いこと、尾柄部腹縁に沿った発光器の後端は尾柄の中央に達せず、腹鰭基底後端からの距離が尾柄長の25.2-39.7%であることで同属のハリダシエビスやミナミハリダシエビスと区別できる。 (木村清志)



ネジトゲハリダシエビス *Aulotrachichthys spiralis*, KAUM-I. 181054, 77 mm SL
志摩市大王町波切沖

ハシキンメ属 Genus *Gephyroberyx* Boulenger 1902

ハシキンメ *Gephyroberyx japonicus* (Döderlein 1883)

日本近海からハワイ海嶺。日本では奄美大島から青森県に分布。三重県では熊野灘の沖合底曳網や巻網、沿岸の定置網で漁獲されている。本種は肛門が臀鰭の直前にあること、背鰭棘条部と軟条部の間に欠刻があることで、同科他種と区別できる。
(木村清志)



ハシキンメ *Gephyroberyx japonicus*, FRLM 48289, 125 mm SL, 尾鷲市早田町

ヒウチダイ属 Genus *Hoplostethus* Cuvier 1829

ヒウチダイ *Hoplostethus japonicus* Hilgendorf 1879

台湾および日本。日本では鹿児島県から茨城県に分布する。三重県では熊野灘の沖合底曳網で漁獲されている。本種は頭部や体がほぼ一様に淡色であることで同属のクロヒウチ *Hoplostethus melanopus* (Weber 1913) と区別され、また胸鰭軟条数が 16–18、腹部稜鱗数が 12–14、幽門垂数が 73、尾鰭両葉の後端が黒いことでマルヒウチダイ *Hoplostethus* sp. と区別できる (Su et al., 2022a)。
(木村清志)



ヒウチダイ *Hoplostethus japonicus*, FRLM 34152, 114 mm SL, 熊野灘

キンメダイ目 Order Beryciformes

イトウダイ亜目 (新称) Suborder Holocentroidei

イトウダイ科 Family Holocentridae Bonaparte 1833

アカマツカサ属 Genus *Myripristis* Cuvier 1829

アメマツカサ *Myripristis amaena* (Castelnau 1873)

琉球列島から小笠原諸島、ハワイ諸島、ピトケアン諸島の西部および中部太平洋に分布する。日本ではこのほか宮崎県からも知られている。本標本は尾鷲市から得られたもので、本種の北限記録である。背鰭 $X + I$, 13–15, 臀鰭 $IV + 12$ –13, 胸鰭 14–16, 鰓耙数 13–15, 側線有孔鱗数 32–34, 成魚では各鰭に黒斑がない。鰓蓋膜の暗色部は鰓蓋棘の下方まで拡がる。
(木村清志)

アメマツカサ *Myripristis amaena*,
FRLM 63371, 50 mm SL, 尾鷲市九鬼町



ナミマツカサ
Myripristis kochiensis
Randall & Yamakawa 1996

奄美大島から三浦半島，八丈島に分布する。三重県では熊野灘沿岸に広く分布している。鰓蓋膜の暗色域は主鰓蓋骨棘の下方に広がる。側線有孔鱗数は 28–29，鰓耙数は 32–36。
 (木村清志)



ナミマツカサ *Myripristis kochiensis*, FRLM 42361, 81 mm SL, 英虞湾内座賀島

クロオビマツカサ
Myripristis kuntee
Valenciennes 1831

南アフリカからハワイ，マルケサス諸島に至るインドー太平洋の熱帯，亜熱帯域に広く分布する。日本では琉球列島から三重県まで記録がある。本種は主鰓蓋骨から鰓蓋膜の暗色域が胸鰭基底まで拡がること，側線有孔鱗数が 38–43 であることで，日本産同属他種と区別できる。
 (木村清志)



クロオビマツカサ *Myripristis kuntee*, FRLM 55364, 97 mm SL, 英虞湾内座賀島

ウケグチイトウダイ属 Genus Neoniphon Castelnau 1875

ウケグチイトウダイ
Neoniphon sammara
(Fabricius 1775)

アフリカ東岸からハワイ，トンガに至るインドー太平洋の熱帯域，亜熱帯域に広く分布する。日本では琉球列島から三浦半島に生息する。三重県では英虞湾で稚幼魚が，熊野灘沿岸で成魚が採集されている。背鰭の前方に大きな黒斑がある。
 (木村清志)

ウケグチイトウダイ

Neoniphon sammara

上 FRLM 63569, 102 mm SL

尾鷲市九鬼町

下 FRLM 51141, 36 mm SL

英虞湾内座賀島



エビスダイ属 Genus *Ostichthys* Cuvier 1829

エビスダイ *Ostichthys japonicus* (Cuvier 1829)

ミャンマーからバヌアツまでの東インド洋，西太平洋に分布する。日本では本州以南に生息する。北海道でもごく稀に出現する。三重県では熊野灘沿岸で見られる。本種は背鰭棘条部基底中央と側線間の鱗列数が3.5であること，背鰭最後棘はその前の棘よりも長いことで，日本産同属他種と区別できる。（木村清志）

エビスダイ *Ostichthys japonicus*
FRLM 60797, 249 mm SL
南伊勢町奈屋浦



カイエビス *Ostichthys kaianus* (Günther 1880)

レユニオンからサモアまでのインドー太平洋に広く分布する。日本では琉球列島から伊豆半島に生息する。三重県では熊野灘沿岸で見られる。本種は背鰭棘条部基底中央と側線間の鱗列数が2.5であること，頭部背面がやや丸く突出することで日本産同属他種と区別できる。（木村清志）

カイエビス *Ostichthys kaianus*
FRLM 53227, 219 mm SL
志摩市志摩町和具



ヤセエビス属 Genus *Pristilepis* Randall, Shimizu & Yamakawa 1982

ヤセエビス *Pristilepis oligolepis* (Whitley 1941)

コモロ諸島からイースター島のインドー太平洋の広い範囲に分布している。日本では奄美大島から三浦半島，八丈島，小笠原諸島に生息する。三重県では志摩市志摩町沖の刺網で採集された。本種は左右の鼻骨間の溝が菱形であること，涙骨に上顎骨に重なる突起があることで，類似した形態を示すリュウキュウエビス *Plectrypops lima* (Valenciennes 1831) やエビスダイ属の種と区別できる。（木村清志）

ヤセエビス *Pristilepis oligolepis*
FRLM 26736, 174 mm SL
志摩市志摩町神ノ島



イトウダイ属 Genus *Sargocentron* Fowler 1904 1982

クラカケエビス

Sargocentron caudimaculatum
(Rüppell 1838)

紅海、アフリカ東岸からハワイ、日本、オーストラリア、トンガに至るインドー太平洋に広く分布する。日本では琉球列島から種子島、和歌山県、三重県、千葉県に分布する（秋山・川瀬, 2025）。三重県では尾鷲市九鬼町と志摩市志摩町で採集された。本種は背鰭棘条部中央下の側線上方横列鱗数が2.5であること、後鼻孔の縁辺に棘があること、側線有孔鱗数が40-43であることなどの特徴をもつ。（木村清志）



クラカケエビス *Sargocentron caudimaculatum*, FRLM 64499, 74 mm SL
尾鷲市九鬼町

ニジエビス

Sargocentron diadema
(Lacepède 1802)

紅海やアフリカ東岸からハワイ、フレンチポリネシアに至るインドー太平洋の広い範囲に分布する。日本では琉球列島から静岡県にかけて生息する。三重県では尾鷲市九鬼町で採集された。本種は背鰭棘条部が先端を除いて黒色で、その黒色部に棘条部基底の中央付近で途切れた細い白色縦帯があることが特徴。

（木村清志）



ニジエビス *Sargocentron diadema*, FRLM 63373, 106 mm SL, 尾鷲市九鬼町

テリエビス

Sargocentron ittodai
(Jordan & Fowler 1902)

アフリカ東岸からフレンチポリネシアに至るインドー太平洋の広い範囲に分布する。日本では琉球列島から千葉県にかけて生息する。三重県では尾鷲市や志摩市で採集された。本種は背鰭棘条部が先端を除いて黒色で、その黒色部に連続した細い白色縦帯があることが特徴である。

（木村清志）

テリエビス *Sargocentron ittodai*

上 FRLM 63374, 101 mm SL

尾鷲市九鬼町

下 FRLM 51114, 50 mm SL

英虞湾内座賀島



スミツキカノコ
Sargocentron melanospilos
(Bleeker 1858)

アフリカ東岸からトンガに至るインドー西太平洋に分布する。日本では琉球列島から三重県にかけて生息する。三重県からは南伊勢町奈屋浦で撮影された写真記録、および尾鷲市産の標本が知られている。本種は背鰭軟条部基底付近および尾鰭基底中央付近に黒斑があること、上顎先端が下顎先端よりも明瞭に突出していることが特徴である。(木村清志)

クロオビエビス
Sargocentron praslin
(Lacepède 1802)

アフリカ東岸からフレンチポリネシアに至るインドー太平洋の広い範囲に分布する。日本では琉球列島から静岡県にかけて生息する。三重県では英虞湾で幼魚が採集された。本種は背鰭棘条部に暗赤色の縦帯があること、背鰭基底に沿って幅狭い暗色縦帯があること、頬鱗は4列であることで、類似したアヤメエビス *Sargocentron rubrum* (Forsskål 1775) と区別できる。(木村清志)

クロオビエビス *Sargocentron praslin*
 上 FRLM 53271, 129 mm SL
 鹿児島県口永良部島
 下 FRLM 51898, 49 mm SL
 英虞湾内座賀島



スミツキカノコ *Sargocentron melanospilos*, FRLM 64554, 128 mm SL, 尾鷲市九鬼町



アヤメエビス
Sargocentron rubrum
(Forsskål 1775)

紅海やアフリカ東岸からトンガに至るインドー西太平洋、南東大西洋、地中海（紅海から進入）に分布する。日本では琉球列島から茨城県にかけて生息する。三重県では尾鷲市や英虞湾で採集された。本種は背鰭棘条部に暗赤色の縦帯がないこと、体背側面の暗色縦帯は背鰭基底の下方にあること、頬鱗は5列であることが特徴。(木村清志)



アヤメエビス *Sargocentron rubrum*, FRLM 61717, 167 mm SL, 尾鷲市

トガリエビス
Sargocentron spiniferum
(Forsskål 1775)

紅海, アフリカ東岸からハワイ諸島, 日本, ニューカレドニアのインド太平洋に広く分布する。日本では琉球列島から熊野灘。三重県からの確実な記録は写真のみで(日比野・長野, 2020), 標本は得られていない。背鰭棘条部中央下の側線上方横列鱗数 3.5, 主鰓蓋骨に 2 棘をもつ。

(木村清志)



トガリエビス *Sargocentron spiniferum*, 熊野市遊木町 (長野 淳氏撮影)

イットウダイ
Sargocentron spinosissimum
(Temminck & Schlegel 1843)

台湾から日本およびハワイ諸島に分布。日本では沖縄県から静岡県で見られる。三重県では志摩市や南伊勢町の熊野灘沿岸で採集された。本種成魚は体に暗色縦帯がなく, 背鰭棘間の鰭膜は鮮やかな緋色で第3棘から第9棘の後縁に沿って白色帯がある。

(木村清志)



イットウダイ *Sargocentron spinosissimum*, FRLM 63311, 176 mm SL
 志摩市志摩町御座

キンメダイ亜目 Suborder Berycoidei

キンメダイ科 Family Berycidae Lowe 1839

キンメダイ属 Genus *Beryx* Cuvier 1829

ナンヨウキンメ
Beryx decadactylus
Cuvier 1829

北東太平洋を除く全世界の亜熱帯から温帯域に分布。日本では沖縄県から青森県で記録がある。三重県では熊野灘で得られた。本種は背鰭棘が 4 本, 体高が高く標準体長の 45-53% であることによって, 日本産同科他種と区別できる。

(木村清志)



ナンヨウキンメ *Beryx decadactylus*, FRLM 39883, 297 mm SL, 志摩市志摩町和具

フウセンキンメ
***Beryx mollis* Abe 1959**

インドー西太平洋に広く分布する。北西太平洋では南シナ海から日本。日本では琉球列島から相模湾。三重県では熊野灘の底曳網で漁獲される。本種は背鰭棘が4本、体高が低く標準体長の34-40%であること、体背面の鱗の後縁が鋸歯状であることによって、日本産同科他種と区別できる。
(木村清志)

キンメダイ
Beryx splendens
Lowe 1834

世界中の熱帯から温帯冷水域に分布する。日本では沖縄県から北海道でみられる。三重県では熊野灘の釣りや底曳網で漁獲される。本種は背鰭棘が4本、体高が低く標準体長の34-40%であること、体背面の鱗の後縁が円滑であることによって、日本産同科他種と区別できる。幼魚は第1軟条が伸長する。
(木村清志)



フウセンキンメ *Beryx mollis*, FRLM 33750, 133 mm SL, 熊野灘



キンメダイ *Beryx splendens*
上 FRLM 53653, 162 mm SL, 熊野市遊木町
左 幼魚, FRLM 34310, 150 mm SL, 熊野灘



キンメダマシ属 Genus Centroberyx Gill 1862

キンメダマシ
Centroberyx druzhinini
(Busakhin 1981)

アフリカ東岸からインドネシア、フィリピン、日本までのインドー西太平洋に広く分布する。日本では沖縄県から神奈川県、小笠原諸島に生息する。三重県では熊野灘の定置網や刺し網で漁獲される。本種は背鰭棘が5-7本であることによって、日本産同科他種と区別できる。
(木村清志)



キンメダマシ *Centroberyx druzhinini*, FRLM 61243, 118 mm SL, 志摩市志摩町和具

カブトウオ科 Family Melamphaidae Gill 1893

ホンカブトウオ属 Genus *Melamphaes* Günther 1864

マルカブトウオ *Melamphaes longivelis* Parr 1933

北半球の寒帯域を除く全世界の水
深800–1500 mに生息する。日本では、
熊野灘のほか、宮崎県沖、高知県沖、
小笠原諸島近海から知られている。
本標本は三重大学の練習船勢水丸に
よる熊野灘の深海魚類調査で得られ
た。本種は眼下幅が狭く、眼径とほ
ぼ等しいこと、鰓耙が棒状であるこ
とにより同属他種と区別できる。

(木村清志)



マルカブトウオ *Melamphaes longivelis*, FRLM 28347, 12 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

タテカブトウオ属 Genus *Scopeloberyx* Zugmayer 1911

ヒメタテカブトウオ *Scopeloberyx opisthopterus* (Parr 1933)

全世界の熱帯から温帯域の中深
層から深海層に広く生息する。本
標本は三重大学の練習船勢水丸に
よる熊野灘の深海魚類調査で得られ
た。本種は鰓耙数が13–17であるこ
とによって、鰓耙数が22–25である
タテカブトウオ *Scopeloberyx rossicus*
Kotlyar 2004 と区別できる。

(木村清志)



ヒメタテカブトウオ *Scopeloberyx opisthopterus*, FRLM 7192, 22 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

タテカブトウオ *Scopeloberyx rossicus* Kotlyar 2004

アラスカ以西の北太平洋中深層か
ら深海層に生息する。日本では太平
洋側の中深層・深海層から多くの標
本が得られている。三重県では熊野
灘での深海魚類調査や三重県水産研
究所による志摩市阿児町安乗沖の調
査で得られた。

(木村清志)



タテカブトウオ *Scopeloberyx rossicus*, FRLM 24078, 77 mm SL, 熊野灘 (左右反転, 固定標本)

カンムリキンメダイ亜目 Suborder Stephanoberycoidei

アンコウイワシ科 Family Rondeletiidae Goode & Bean 1895

アンコウイワシ属 Genus *Rondeletia* Goode & Bean 1895

アカチョッキクジラウオ *Rondeletia loricata* Abe & Hotta 1963

全世界の深海。日本では太平洋側
の深海域。三重県では熊野灘の底曳
網で漁獲された。口は大きい。上
顎後端は眼の後縁をとる垂線を越
えない。頭部に棘がない。体は無
鱗。

(木村清志)



アカチョッキクジラウオ *Rondeletia loricata*, FRLM 9428, 34 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

アシロ目 Order Ophidiiformes

イタチウオ科 Family Brotulidae Swainson 1838

イタチウオ属 Genus *Brotula* Cuvier 1829

イタチウオ

Brotula multibarbata
Temminck & Schlegel 1846

インドー太平洋, 日本では本州以南沿岸の浅所から水深 650 m に分布する。三重県では熊野灘沿岸域に分布し刺網などで採集される。本種は吻に 3 対のひげをもつ。(榎原弘陸)



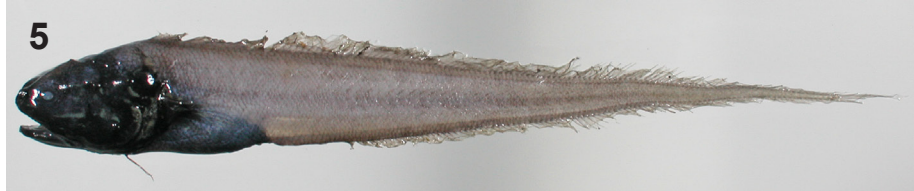
イタチウオ *Brotula multibarbata*, FRLM 44084, 382 mm SL, 志摩市志摩町和具

アシロ科 Family Ophidiidae Rafinesque 1810

フクメンイタチウオ属 Genus *Bassozetus* Gill 1883

ナンヨウフクメンイタチウオ
Bassozetus glutinosus
(Alcock 1890)

インドー太平洋, 日本では房総半島, 駿河湾, 熊野灘, 伊豆諸島, 沖縄舟状海盆, 東シナ海 (沖縄島北西), 琉球海溝に分布する (富山ほか, 2011; Tomiyama et al., 2021). 本種は背鰭条数が 120–130 であること, 臀鰭条数が 98–108 であること, 胸鰭条数が 24–30 であること, 腹椎



ナンヨウフクメンイタチウオ *Bassozetus glutinosus*, MSM-09-6, 148 mm SL, 静岡県

骨数が 13–15 であること, 第 1 鰓弓の長い鰓耙数が 15–21 であること, 横列鱗数が 23–35 であること, 腹鰭長は標準体長の 13.6–19.0% であるこ

と, 基鰓骨に明瞭な 1 歯帯があることなどによって同属他種と区別できる (Nielsen and Merrett, 2000; 富山ほか, 2011). (笹木大地)

ヨロイイタチウオ属 Genus *Hoplobrotula* Gill 1863

ヨロイイタチウオ
Hoplobrotula armata
(Temminck & Schlegel 1846)

青森県以南の沿岸, 韓国, ベトナム, フィリピンからオーストラリアに分布する。水深 70–440 m に見られる。三重県では熊野灘で操業する底曳網などで採集される。本種は体側腹側が淡色であること, 吻端が角張ることなどが特徴。(榎原弘陸)



ヨロイイタチウオ *Hoplobrotula armata*, FRLM 64604, 182 mm SL, 熊野灘

シオイタチウオ属 Genus *Neobythites* Goode & Bean 1885

シオイタチウオ
Neobythites sivicola
(Jordan & Snyder 1901)

青森県から九州南岸の日本海沿岸, 福島県から九州南岸の太平洋沿岸, 東シナ海, 朝鮮半島, 台湾に分布する。三重県では熊野灘で採集される。背鰭に暗色斑が無いことで同属他種と区別できる。(榎原弘陸)



シオイタチウオ *Neobythites sivicola*, FRLM 33411, 169 mm SL, 熊野灘

シマイタチウオ
Neobythites stigmosus
Machida 1984

茨城県から九州南部の太平洋沿岸，東シナ海，台湾に分布する．三重県では熊野灘で採集される．本種は尾鷲沖で得られた標本に基づいて記載された (Machida, 1984)．背鰭と臀鰭に数個の暗色斑があることで同属他種と区別できる．(榎原弘陸)

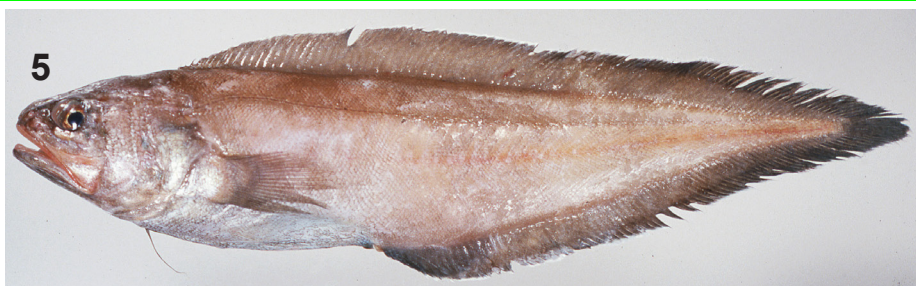


シマイタチウオ *Neobythites stigmosus*, FRLM 56664, 151 mm SL, 南伊勢町沖

ヒメイタチウオ属 Genus *Pycnocraspedum* Alcock 1889

ヒメイタチウオ
Pycnocraspedum microlepis
(Matsubara 1943)

熊野灘から日向灘の太平洋，九州－パラオ海嶺，南シナ海から記録されている．本種は熊野灘から得られた標本に基づいて記載された (Matsubara, 1943)．前鰓蓋骨棘が3本であること，背鰭は95-104軟条であること，臀鰭は66-77軟条であることなどによって同属のオオヒメイタチウオ *Pycnocraspedum fulvum*



ヒメイタチウオ *Pycnocraspedum microlepis*, BSKU 36435, 277 mm SL, 高知県

Machida 1984 と区別できる．
 (笹木大地)

カクレウオ科 Family Carapidae Poey 1867

クマノカクレウオ属 Genus *Echiodon* Thompson 1837

クマノカクレウオ
Echiodon anchipterus
(Williams 1984)

フィリピン，オーストラリア，日本に分布する．日本では宮古島北方の東シナ海および熊野灘からそれぞれ1個体が記録されている．本種は



クマノカクレウオ *Echiodon anchipterus*, FRLM 10909, 172+ mm TL, 熊野灘 (尾部破損，固定標本)

腹鰭がないこと，両顎に弱い犬歯があり，鰓蓋棘をもち，肛門が胸鰭基底直下に位置することによって，類似種と区別できる． (木村清志)

ソコカクレウオ属 Genus *Eurypleuron* Markle & Olney 1990

ソコカクレウオ
Eurypleuron owasianum
(Matsubara 1953)

全世界の暖海域．日本からは三重県熊野灘，駿河湾，丹後半島沖から記録がある．本種は腹鰭がないこと，両顎に弱い犬歯があり，鰓蓋棘をもち，肛門が胸鰭基底より後方に位置することによって，類似種と区別できる．本種は尾鷲で採集された標本に基づいて新種記載されたもので，種小名は尾鷲に因んだものである．しかし，われわれの調査では未だ本種の標本は得られていない．

(木村清志)



ソコカクレウオ *Eurypleuron owasianum*, KAUM-I. 150363, 175+ mm TL, 台湾 (尾部破損)

フサイタチウオ科 Family Bythitidae Gill 1861

コンニャクオクメウオ属 Genus *Aphyonus* Gill 1861

コンニャクオクメウオ *Aphyonus gelatinosus* Günther 1878

東太平洋を除く全世界の熱帯から温帯域に分布し、日本では伊豆諸島鳥島の南東沖および熊野灘から記録されている（大橋ほか，2013）。本種は背鰭軟条数が93–116であること、背鰭前長は標準体長の28.0–30.5%

5



コンニャクオクメウオ *Aphyonus gelatinosus*, NSMT-P 97055, 147 mm SL, 熊野灘（固定標本）

であることで同属他種と区別できる（Nielsen, 1999）。（笹木大地）

フサイタチウオ属 Genus *Cataetix* Günther 1887

フサイタチウオ *Cataetix lepidogenys* (Smith & Radcliffe 1913)

駿河湾，熊野灘，土佐湾，フィリピン諸島に分布する。三重県では熊野灘から標本が得られている。背鰭，臀鰭と尾鰭は連続し，頭部に鱗があること，口蓋歯があることが特徴。（榑原弘陸）

5



フサイタチウオ *Cataetix lepidogenys*, FRLM 8882, 111 mm SL, 熊野灘（固定標本）

ニセイタチウオ属 Genus *Parabrotula* Zugmayer 1911

ニセイタチウオ *Parabrotula plagiophthalma* Zugmayer 1911

世界中に分布する。日本では本州太平洋沖から知られており，三重県では熊野灘で採集された。同属のサガミニセイタチウオ *Parabrotula tanseimaru* Miya & Nielsen 1991 とは

5



ニセイタチウオ *Parabrotula plagiophthalma*, FRLM 10566, 27 mm SL, 和歌山県沖（固定標本）

背鰭始部が臀鰭始部より少し前に位置すること，背鰭が34–43軟条であること，脊椎骨数が54–64であることで区別できる。（笹木大地）

ハゼ目 Order Gobiiformes

テンジクダイ亜目（新称） Suborder Apogonoidei

テンジクダイ科 Family Apogonidae Günther 1859

コミナトテンジクダイ属 Genus *Apogon* Lacepède 1801

コミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis* Ebina 1935

インドー西太平洋，日本では千葉県小湊から琉球列島，伊豆・小笠原諸島に分布する。三重県では志摩市和具，尾鷲市九鬼から標本が得られている。本種は吻端がやや尖ること，体側鱗は全体に暗赤褐色であること，尾柄部と尾鰭下葉は黒くないことで同属他種と区別できる。（笹木大地）

4



コミナトテンジクダイ *Apogon kominatoensis*, FRLM 63392, 41 mm SL, 尾鷲市九鬼町

ハナイシモチ
Apogon unicolor
Steindachner & Döderlein 1883

本種は日本、台湾、南シナ海、フィジー諸島ロツマ島、およびオーストラリア・カーペンタリア湾から記録されており（萩本ほか，2022），日本では山口県、千葉県から八重山諸島に分布する。三重県では志摩市御座、尾鷲市尾鷲港から標本が得られている。本種は体色が赤いこと、前鰓蓋骨後縁上方が強い鋸歯状であること、体側および尾柄に斑紋や縦帯を欠くこと、吻がやや尖ること、背鰭前方鱗数は8-11であることから同属他種と区別できる（萩本ほか，2022）。（笹木大地）



ハナイシモチ *Apogon unicolor*, FRLM 55550, 101 mm SL, 尾鷲市

カクレテンジクダイ属 Genus *Apogonichthyoides* Smith 1949

クロイシモチ
Apogonichthyoides niger
(Döderlein 1883)

日本からベトナムおよびフィリピンの北西太平洋，日本では山口県日本海側，九州北岸，長崎県，千葉県から九州南岸の太平洋沿岸，瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾，熊野灘から標本が得られている。本種は体が全体的に黒っぽいこと，腹鰭が大きいこと，体高が高いことが特徴。体側の横帯と尾柄の黒色斑は明瞭な個体と不明瞭な個体があり差が大きい。（笹木大地）



クロイシモチ *Apogonichthyoides niger*, FRLM 45576, 79 mm SL, 熊野市新鹿町

ヨコスジイシモチ
Apogonichthyoides sialis
(Jordan & Thompson 1914)

インドからフィリピン，日本のインド洋および西太平洋，日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸，奄美大島，慶良間諸島，八重山諸島に分布する。三重県では熊野灘から採集されている。本種は体側に2本の暗色横帯があること，尾柄に黒色斑があることから同属他種と区別できる。（笹木大地）



ヨコスジイシモチ *Apogonichthyoides sialis*, FRLM 61680, 109 mm SL, 紀北町三浦

マダラテンジクダイ
Apogonichthyoides umbratilis
Fraser & Allen 2010

西オーストラリア, インドネシア, ブルネイ, パラオ, および日本に分布し, 国内では和歌山県串本, 高知県柏島, 愛媛県愛南, 鹿児島県本土, 上甕島, 大隅諸島, 奄美大島から記録されている. 三重県では尾鷲市の定置網で採集された. 本種はカクレテンジクダイ *Apogonichthyoides timorensis* (Bleeker 1854) に似るが, 胸鰭は14軟条であること, 体側や尾柄部の横帯が不明瞭であること, 頬部の暗色斜帯は不明瞭であることから区別できる. (笹木大地)



マダラテンジクダイ *Apogonichthyoides umbratilis*, FRLM 62973, 29 mm SL, 尾鷲市

ナンヨウマトイシモチ属 Genus *Apogonichthys* Bleeker 1854

マトシボリ
Apogonichthys ocellatus
(Weber 1913)

インドー西太平洋, 日本では八丈島, 大隅諸島黒島, 奄美諸島以南に分布する. 三重県では津市白塚漁港で幼魚が採集された. 本標本は側線が尾柄まで達すること, 第1背鰭に1黒色斑があることから本種に同定された. (笹木大地)



マトシボリ *Apogonichthys ocellatus*, FRLM 64548, 24 mm SL, 津市白塚漁港

サクラテンジクダイ属 Genus *Cercamia* Randall & Smith 1988

サクラテンジクダイ
Cercamia eremia
(Allen 1987)

分布域はインドー西太平洋とされているが, 日本産は未記載種である可能性が指摘されている (Fraser et al., 2021). 日本では静岡県から鹿児島県本土, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘の定置網で混獲される. 本種は体が薄いピンク色であること, 後側頭骨に顕著な棘があること, 体に側線がないか, あっても鰓蓋上方に数枚の側線有孔鱗があるのみであること, 頭部や体に孔器列があることが特徴. (笹木大地)



サクラテンジクダイ *Cercamia eremia*, FRLM 58346, 35 mm SL, 尾鷲市

ヤライイシモチ属 Genus *Cheilodipterus* Lacepède 1801

スダレヤライイシモチ *Cheilodipterus intermedius* Gon 1993

西太平洋，日本では相模湾，日向灘，大隅諸島以南に分布する．三重県では志摩市御座から標本が得られている．本種は前鰓蓋骨縁が鋸歯状であること，体側に8本の細い暗褐色縦帯があること，幼魚の尾柄部に小さな1黒色斑がありその周囲が黄色いことから同属他種と区別できる．（笹木大地）



スダレヤライイシモチ *Cheilodipterus intermedius*, FRLM 42396, 85 mm SL
志摩市志摩町御座

リュウキュウヤライイシモチ *Cheilodipterus macrodon* (Lacepède 1802)

インドー太平洋，日本では相模湾から琉球列島，伊豆・小笠原諸島に分布する．三重県では尾鷲市から標本が得られている．本種は前鰓蓋骨縁が鋸歯状であること，体側に8本の細い暗褐色縦帯があること，成魚の尾柄は黒斑が消失して白くなるが，尾鰭基底付近は黒ずむこと，幼魚は尾柄に1黒色斑があることから同属他種と区別できる．（笹木大地）



リュウキュウヤライイシモチ *Cheilodipterus macrodon*, FRLM 34075, 107 mm SL
尾鷲市

ヤライイシモチ *Cheilodipterus quinquelineatus* Cuvier 1828

インドー太平洋，日本では相模湾から琉球列島，伊豆・小笠原諸島に分布する．三重県では英虞湾の座賀島から採集された．本種は体側に5本の黒色縦帯があることから同属他種と区別できる．（笹木大地）



ヤライイシモチ *Cheilodipterus quinquelineatus*, FRLM 45915, 41 mm SL
英虞湾内座賀島

タイワンマトイシモチ属 Genus *Foa* Jordan & Evermann 1905

タイワンマトイシモチ *Foa fo* Jordan & Seale 1905

インドー西太平洋，日本では静岡県下田，三重県英虞湾，和歌山県白浜，日向灘以南に分布する．本種は側線が不完全で第2背鰭下までしか達しないこと，口蓋骨に歯があること，主鰓蓋骨上方に1黒色円斑がないことが特徴．（笹木大地）

タイワンマトイシモチ *Foa fo*
FRLM 61222, 17 mm SL, 志摩市浜島町



クダリボウズギス属 Genus *Gymnapogon* Regan 1905

クダリボウズギス *Gymnapogon japonicus* Regan 1905

韓国済州島から日本、台湾、フィリピンまでの西太平洋、日本では新潟県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、千葉県銚子から宮崎県までの太平洋沿岸、瀬戸内海、種子島、奄美大島に分布する。三重県では英虞湾の座賀島から標本が得られている。本種は臀鰭軟条数が9であること、頭頂に黒色斑がないこと、尾柄



クダリボウズギス *Gymnapogon japonicus*, FRLM 52944, 36 mm SL, 英虞湾内座賀島に黒色斑がないこと、胸鰭が12軟条であることから同属他種と区別で (笹木大地)

ツマグロイシモチ属 Genus *Jaydia* Smith 1961

マトイシモチ *Jaydia carinata* (Cuvier 1828)

オーストラリア北西岸および西太平洋、日本では若狭湾から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海大陸棚縁辺域に分布する。三重県では熊野灘から標本が得られている。本種は第2背鰭に1大黒色斑があること、臀鰭外縁が黒いことから同属他種と区別できる。 (笹木大地)



マトイシモチ *Jaydia carinata*, FRLM 38946, 84 mm SL, 尾鷲市

テンジクダイ *Jaydia lineata* (Temminck & Schlegel 1843)

インドー西太平洋、日本では新潟県から五島列島・天草の日本海・東シナ海沿岸、北海道室蘭、宮城県石巻湾、千葉県館山湾から鹿児島県本土、瀬戸内海、八重山諸島に分布する。本種は体側の暗色横帯は8-11本で幅が狭いこと、頬部の暗色帯は不明瞭であることから同属他種と区別できる。 (笹木大地)



テンジクダイ *Jaydia lineata*, FRLM 51087, 62 mm SL, 志摩市志摩町御座

ツマグロイシモチ *Jaydia truncata* (Bleeker 1855)

インドー西太平洋、日本では長崎県天草、和歌山県白浜から鹿児島県本土、奄美大島、慶良間諸島、八重山諸島に分布する。三重県では尾鷲湾の定置網で2個体が同時に採集された。本種は第2背鰭に黒色斑がないこと、臀鰭外縁が黒くないこと、体側の暗色横帯は6-7本で幅が広いことから同属他種と区別できる。 (笹木大地)



ツマグロイシモチ *Jaydia truncata*
FRLM 63017, 53 mm SL, 尾鷲市

スジイシモチ属 Genus *Ostorhinchus* Lacepède 1802

アオスジテンジクダイ *Ostorhinchus aureus* (Lacepède 1802)

インドー西太平洋, 日本では三浦半島から九州南岸, 八丈島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では尾鷲市九鬼から1標本が得られている. 本種は体側に縦帯がないこと, 尾柄に顕著な黒色横帯があること, 瞳の上下方に青色縦線があることで同属他種と区別できる. (笹木大地)



アオスジテンジクダイ *Ostorhinchus aureus*, FRLM 64572, 70 mm SL, 尾鷲市九鬼町

オオスジイシモチ *Ostorhinchus doederleini* (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島南岸から南シナ海, フィリピン諸島, オーストラリアに分布する. 日本では島根県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸, 茨城県久慈川河口沖, 房総半島から鹿児島県本土, 大隅諸島から琉球列島に分布する. 三重県では熊野灘で普通に見られる. 本種は尾柄に黒色斑があること, 体側の暗色縦帯は背鰭基底のものを除き4本であること, 体側中央の縦帯は尾柄部の円斑に達しないことが特徴. (笹木大地)



オオスジイシモチ *Ostorhinchus doederleini*, FRLM 63368, 93 mm SL, 尾鷲市九鬼町

コスジイシモチ *Ostorhinchus endekataenia* (Bleeker 1852)

日本からオーストラリア北岸の西太平洋, 日本では兵庫県香住から五島列島の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から鹿児島県本土, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南の琉球列島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体側に7本の縦帯があること, 尾柄中央の黒色円斑は大きく, 眼径に等しいことで同属他種と区別できる. (笹木大地)



コスジイシモチ *Ostorhinchus endekataenia*, FRLM 41019, 76 mm SL
志摩市志摩町越賀沖

フタスジイシモチ
Ostorhinchus fukuui
 (Hayashi 1990)

インドー西太平洋, 日本では静岡県から日向灘, 八丈島, 小笠原諸島, 鹿児島県硫黄島に分布する. 三重県では志摩市和具から採集された. 本種は主鰓蓋骨外縁の後方に1黒点はないこと, 体側中央にある縦線の幅は広く, 瞳孔径とほぼ同大であることなどから同属他種と区別できる.

(笹木大地)



フタスジイシモチ *Ostorhinchus fukuui*, FRLM 16013, 98 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

テッポウイシモチ
Ostorhinchus kiensis
 (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島南西岸からオーストラリアまでの西太平洋, 日本では富山湾および千葉県小湊から鹿児島県本土までの日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海大陸棚域, 沖縄島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種はフウライイシモチ *Ostorhinchus fasciatus* (Shaw 1790) に類似するが, 第1背鰭が6棘であることから区別できる.

(笹木大地)



テッポウイシモチ *Ostorhinchus kiensis*, FRLM 63181, 39 mm SL, 尾鷲市

クロホシイシモチ
Ostorhinchus notatus
 (Houttuyn 1782)

東インド洋から西太平洋の熱帯から温帯まで広く分布し, 日本では千葉県および山口県以南に分布する. 三重県では熊野灘で普通に見られる. 本種は頭頂部に左右1対の黒色円斑があること, 体側に暗色横帯がないことで同属他種と区別できる.

(笹木大地)



クロホシイシモチ *Ostorhinchus notatus*, FRLM 42368, 44 mm SL, 英虞湾内座賀島

ネンブツダイ
Ostorhinchus semilineatus
 (Temminck & Schlegel 1843)

日本からオーストラリアまでの熱帯から温帯まで広く分布し, 日本では北海道南部 (根来・宗原, 2024) 宮城県万石浦, 茨城県久慈川河口沖, 山形県および千葉県館山湾から鹿児島県本土までの日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 種子島, 慶良間諸島, 宮古島に分布する. 本種は眼を通る縦帯が鰓蓋後縁で終わること, 尾柄上の黒色円斑は瞳より小さいことが特徴.

(笹木大地)



ネンブツダイ *Ostorhinchus semilineatus*, FRLM 32878, 84 mm SL, 志摩市志摩町和具

ミスジテンジクダイ
Ostorhinchus taeniophorus
(Regan 1908)

インドー太平洋, 日本では千葉県小湊・館山湾から和歌山県串本, 五島列島, 小笠原諸島, 大隅諸島以南の琉球列島に分布する。三重県では英虞湾の座賀島から採集された。本種は第2縦帯が鰓蓋起部付近で終わること, 体側にあるすべての縦帯は暗褐色または濃褐色であること, 体側中央の第3縦帯は尾柄後端で終わり, 末端は1暗色斑状になることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ミスジテンジクダイ *Ostorhinchus taeniophorus*, FRLM 54907, 46 mm SL
 英虞湾内座賀島

キンセンイシモチ
Ostorhinchus wassinki
(Bleeker 1860)

インドー西太平洋, 日本では三浦半島から琉球列島, 小笠原諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体に5本の橙黄色縦帯をもつこと, 第3橙黄色縦帯は尾柄の後端で終わることと同属他種と区別できる。(笹木大地)



キンセンイシモチ *Ostorhinchus wassinki*, FRLM 61665, 53 mm SL, 尾鷲市

ヤマトイシモチ
Ostorhinchus yamato
Yoshida, Hayashi &
Motomura 2018

日本固有種で静岡県, 高知県, 愛媛県, 鹿児島県から記録されている。三重県では南伊勢町賛浦で採集された。体高は低く, 体は一様に淡いピンク色で斑紋はみられず, スカシテンジクダイ属の種と混同されやすい。本種は第1背鰭が7棘であること(スカシテンジクダイ属は6), 臀鰭軟条数が8であること(9以上)であることから区別することができる。(笹木大地)



ヤマトイシモチ *Ostorhinchus yamato*, FRLM 56016, 42 mm SL, 南伊勢町賛浦

ヒトスジイシモチ属 Genus *Pristiapogon* Klunzinger 1870

カスリイシモチ
Pristiapogon kallopterus
(Bleeker 1856)

インドー太平洋, 日本では和歌山県から琉球列島, 伊豆・小笠原諸島から記録されている。三重県では尾鷲市九鬼および尾鷲湾で採集された。本種は体が淡褐色であることでスミヒキイシモチ *Pristiapogon taeniopterus* (Bennett 1836) によく似るが, 尾鰭両葉および臀鰭に明瞭な黒い縞模様がないことで区別できる(Abe et al., 2023)。(笹木大地)

カスリイシモチ *Pristiapogon kallopterus*
 FRLM 63366, 66 mm SL, 尾鷲市九鬼町



ヌメリテンジクダイ属 Genus *Pseudamia* Bleeker 1865

サビクダリボウズギスモドキ *Pseudamia hayashii* Randall, Lachner & Fraser 1985

インドー西太平洋, 日本では静岡県富戸, 薩摩半島沿岸, 奄美大島, 沖縄諸島, 宮古島に分布する. 三重県では尾鷲市の定置網で2個体採集されている. 本種は尾鰭に黒色斑がないこと, 眼の後方に1黒色円斑がないこと, 発達した鰓耙数が8であることから同属他種と区別できる. (笹木大地)



サビクダリボウズギスモドキ *Pseudamia hayashii*, FRLM 62946, 42 mm SL, 尾鷲市

クダリボウズギスモドキ属 Genus *Pseudamiops* Smith 1954

クダリボウズギスモドキ属 の一種 *Pseudamiops* sp.

英虞湾口, 志摩市志摩町御座の定置網で2個体採集された. 背鰭 VI+I, 8-9, 臀鰭 II, 8, 胸鰭 i+15-16, 鰓耙 (2-3) 11+6-7 (6) 括弧内は未発達の鰓耙, 前鼻孔後縁に皮弁はない. 上顎後端付近の下縁に棘はない. 鱗は脱落しやすい円鱗で1個体に鰓孔上端直後の2側線有孔鱗が確認できた. 尾柄はさほど細長くはない. 外見の類似性からクダリボウズギスモドキ属の一種としたが, 属についても検討が必要である. (木村清志)



クダリボウズギスモドキ属の一種 *Pseudamiops* sp., FRLM 14345, 39 mm SL
志摩市志摩町御座

スカシテンジクダイ属 Genus *Rhabdamia* Weber 190

スカシテンジクダイ *Rhabdamia gracilis* (Bleeker 1856)

セイシェルから東はニューカレドニア, 北は日本までのインドー西太平洋, 日本では, 三重県から鹿児島県本土, 薩南諸島以南に分布する. 本種は総鰓耙数が23-27であること, 吻端から眼にかけて黒色素胞が密に分布しないこと, 尾鰭後端が黒いことで近縁のソウリュウスカシテンジクダイ *Rhabdamia spilota* Allen and Kuiter 1994 から区別できる (Yoshida and Motomura, 2018). (笹木大地)



スカシテンジクダイ *Rhabdamia gracilis*, FRLM 63021, 41 mm SL, 尾鷲市

ソウリュウスカシテンジクダイ *Rhabdamia spilota* Allen & Kuiter 1994

インドー太平洋, 日本では和歌山県串本, 宮崎県門川, 鹿児島県本土, 種子島, 奄美大島に分布する. 三重県では尾鷲市の定置網で採集され, これは標本に基づく三重県初記録である. 本種は総鰓耙数が27-33であること, 吻端から眼にかけて黒色素胞が密に分布すること, 尾鰭縁に黒色素胞が密に分布すること



ソウリュウスカシテンジクダイ *Rhabdamia spilota*, FRLM 63020, 54 mm SL, 尾鷲市
からスカシテンジクダイ *Rhabdamia gracilis* (Bleeker 1856) から区別できる (Yoshida and Motomura, 2018). (笹木大地)

アトヒキテンジクダイ属 Genus *Taeniamia* Fraser 2013

スミツキアトヒキテンジクダイ *Taeniamia kagoshimana* (Döderlein 1883)

インドー西太平洋, 日本では静岡県大瀬崎, 愛媛県愛南, 宮崎県, 大隈半島, 伊豆・小笠原諸島, 薩南諸島以南に分布する. 三重県では古和浦の定置網で採集された. 本種はアトヒキテンジクダイ *Taeniamia macroptera* (Cuvier 1828) に似るが, 臀鰭軟条数は16-18であること, 成魚で尾柄部の黒色斑が明瞭であることで区別できる. (笹木大地)



スミツキアトヒキテンジクダイ *Taeniamia kagoshimana*, FRLM 61234, 31 mm SL
南伊勢町古和浦

ベラギンポ亜目 (新称) Suborder Trichonotoidei

ベラギンポ科 Family Trichonotidae Günther 1861

ベラギンポ属 Genus *Trichonotus* Bloch & Schneider 1801

クロエリギンポ *Trichonotus filamentosus* (Steindachner 1867)

ニューギニア島, ニューカレドニア, 南シナ海, 日本の西太平洋, 日本では新潟県佐渡, 山口県, 九州北岸, 長崎県野母崎の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から高知県柏島の太平洋沿岸, 愛媛県愛南町, 小笠原諸島に分布する. 三重県では鳥羽市, 志摩市から標本が得られている. 本種は体側に無鱗域がないこと, 雌雄ともに背鰭棘は伸長しないこと, 背鰭軟条数は43-44であること,



クロエリギンポ *Trichonotus filamentosus*, BSKU 66273, 79 mm SL, 高知県

臀鰭軟条数は36-38であることから同属他種と区別できる. (笹木大地)

ベラギンポ *Trichonotus setiger* Bloch & Schneider 1801

アフリカ東岸からフィジー, 日本, ニューカレドニアに至るインドー西太平洋. 日本では琉球列島から千葉県および九州の西岸に分布する. 三重県では南伊勢町で採集された. 背鰭 V-VII, 39-41, 臀鰭 I, 34-36.

(木村清志)



ベラギンポ *Trichonotus setiger*, FRLM 31538, 112 mm SL, ベトナム, ニャチャン

的矢湾干潟, 2022 年 4 月 (武藤 滉撮影)



ハゼ亜目 Suborder Gobioidae

ドンコ科 Family Odontobutidae Hoese & Gill 1993

ドンコ属 Genus *Odontobutis* Bleeker 1874

ドンコ

***Odontobutis obscurus*
(Temminck & Schlegel 1845)**

朝鮮半島の一部と日本列島。自然分布は富山県・愛知県以西の本州、四国、九州。国内外来種として新潟県や長野県、関東地方に侵入している。河川中流部や水路などに生息する。
(淀 太我)

ドンコ *Odontobutis obscurus*, FRLM 52150, 61 mm SL, 伊勢市大倉町

カワアナゴ科 Family Eleotridae Bonaparte 1835

カワアナゴ属 Genus *Eleotris* Bloch & Schneider 1801

チチブモドキ

***Eleotris acanthopoma*
Bleeker 1853**

日本列島から南太平洋西部、南アフリカ。日本での自然分布は千葉県以南の太平洋側、小笠原諸島や琉球列島など。河川下流部－河口域に生息。両側回遊魚。胸鰭基部と尾鰭基底に上下2個の黒斑がある。眼下域に鱗が無い。
(淀 太我)

チチブモドキ *Eleotris acanthopoma*, FRLM 45631, 40 mm SL, 尾鷲市

オカメハゼ

***Eleotris melanosoma*
Bleeker 1853**

太平洋西部、インド洋に広く分布する。日本での自然分布は静岡県以西の本州太平洋側、四国・九州太平洋側から琉球列島、小笠原諸島。河川下流域に生息する。両側回遊魚。三重県からは山川ほか(2020)の報告がある。胸鰭基部と尾鰭基底部の黒色斑は1個、頬の横列孔器列数が6である。
(淀 太我)

オカメハゼ *Eleotris melanosoma*, FRLM 50527, 82 mm SL, 西表島

カワアナゴ

***Eleotris oxycephala*
Temminck & Schlegel 1845**

済州島、日本列島および中国からベトナム北部の東シナ海沿岸。日本での自然分布は栃木県・茨城県以南の本州太平洋側、福井県以西の本州、四国、九州、屋久島、種子島。河川下流域から汽水域に生息する。両側回遊魚。胸鰭基部に2黒色斑がある。眼下域は有鱗。小卵多産で仔魚が広く分散するため、三重県でも仔稚魚は多くの河川河口域で確認されるが、成魚の生息河川数は多くない。
(淀 太我)

カワアナゴ *Eleotris oxycephala*, FRLM 53215, 146 mm SL, 伊勢市五十鈴川

オクスデルクス科 Family Oxudercidae Gill 1859

マハゼ属 Genus *Acanthogobius* Bleeker 1874

マハゼ

Acanthogobius flavimanus (Temminck & Schlegel 1845)

朝鮮半島，河北省，山東省，海南島，ビョートル大帝湾，日本では北海道から屋久島にかけての沿岸域に分布。内湾や河川河口域の砂泥底に生息。同所的に見られるアシシロハゼ *Acanthogobius lactipes* (Hilgendorf 1879) に似るが，頬と鰓蓋上部に鱗があること，体側に白色横線がない



マハゼ *Acanthogobius flavimanus*, FRLM 51900, 152 mm SL, 英虞湾内座賀島
こと，第1背鰭棘は伸長しないことで区別される。(武藤 滉)

アシシロハゼ

Acanthogobius lactipes (Hilgendorf 1879)

遼寧省から浙江省の中国沿岸，朝鮮半島，日本では北海道から大隅諸島，瀬戸内海，隠岐，対馬，五島列島に分布。三重県では内湾や河川河口域の砂泥底に生息。頬と鰓蓋上部に鱗がないこと，体側に数本の白色横線があること，尾鰭基底の黒色斑は二分すること，雄の第1背鰭棘は伸長することにより，日本産同属他種と区別される。(武藤 滉)



アシシロハゼ *Acanthogobius lactipes*, FRLM 37698, 53 mm SL, 桑名市揖斐川

アカハゼ属 Genus *Amblychaeturichthys* Bleeker 1874

アカハゼ

Amblychaeturichthys hexanema (Bleeker 1853)

渤海から南シナ海，済州島，日本国内からは北海道から宮崎県の太平洋沿岸，長崎県，有明海，瀬戸内海に分布。内湾の泥底に生息。下顎に3対のひげがあることでコモチジャコ *Amblychaeturichthys sciistius* (Jordan & Snyder 1901) に似るが，第1背鰭に黒斑がなく，尾鰭は一樣に暗色であることで区別される。環境省準絶滅危惧。(武藤 滉)



アカハゼ *Amblychaeturichthys hexanema*, FRLM 45463, 105 mm SL, 三重県

コモチジャコ

Amblychaeturichthys sciistius (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島南西部，日本では北海道室蘭，宮城県から鹿児島県の太平洋沿岸，青森県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海に分布。三重県では伊勢湾，英虞湾および尾鷲湾から生息が確認されている。特に伊勢湾では少なくとも1950年代には食用として底曳網で漁獲されていたが，湾奥の急激な環境変化により



コモチジャコ *Amblychaeturichthys sciistius*, FRLM 52334, 49 mm SL, 三重県

個体数が激減したことが示唆されている。下顎に3対のひげがあること，

第1背鰭に黒斑があること，尾鰭に横帯があることで区別される。環境省準絶滅危惧。(武藤 滉)

タビラクチ属 Genus *Apocryptodon* Bleeker 1874

タビラクチ *Apocryptodon punctatus* Tomiyama 1934

朝鮮半島西岸，台湾，日本では三重県から鹿児島県の太平洋沿岸，京都府から鹿児島県までの日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海に分布．三重県では志摩半島を中心とした熊野灘沿岸の内湾で生息が確認されている．内湾や河口域の泥底や砂泥底に



タビラクチ *Apocryptodon punctatus*, FRLM 24374, 58 mm SL, 三重県

生息し，テッポウエビ類の巣穴を利用することが示唆されている．第1背鰭と第2背鰭はほぼ同じ高さであること，上顎後端は眼の後端をはるかに超えることで区別される．環境省絶滅危惧Ⅱ類．（武藤 滉）

シロクラハゼ属 Genus *Astrabe* Jordan & Snyder 1901

キマダラハゼ *Astrabe flavimaculata* Akihito & Meguro 1988

千葉県から高知県の太平洋沿岸，長崎県から鹿児島県，男女群島，伊豆大島に分布．三重県からは志摩市から1標本が得られている．岩礁性海岸の潮間帯下部の転石下に生息．眼の後縁上部に皮弁を持たないこと，頭頂部の白色帯は狭く，鮮時の



キマダラハゼ *Astrabe flavimaculata*, FRLM 7819, 38 mm SL, 志摩市志摩町和具

体側の斑紋は淡黄色であることにより同属他種と区別される．（武藤 滉）

シロクラハゼ *Astrabe lactisella* Jordan and Snyder 190

宮城県から鹿児島県までの太平洋沿岸に分布．三重県では Akihito and Meguro (1988) によって志摩市から報告されている．眼の後縁上部に皮弁があること，頭頂部の白色横帯は広いこと，第2背鰭基部の白色横帯は腹中線まで伸びないことにより同属他種と区別される．（武藤 滉）



シロクラハゼ *Astrabe lactisella*, KPM-NI 78654, 33 mm SL, 静岡県（瀬能 宏氏撮影）

セジロハゼ属 Genus *Clariger* Jordan & Snyder 1901

シロヒゲセジロハゼ *Clariger* sp.

青森県から宮崎県の太平洋沿岸，山形県，長崎県，瀬戸内海に分布．岩礁性海岸の転石下や礫中に生息．三重県では主に志摩半島沿岸の潮間帯中下部以深で見られる．尾柄部の鱗域は広いこと，眼下のひげは白く，ひげの下方に暗色斑がないことで



シロヒゲセジロハゼ *Clariger* sp., FRLM 57069, 23 mm SL, 英虞湾内座賀島

近似のセジロハゼ *Clariger cosmurus* Jordan & Snyder 1901 やシモフリセジロハゼ *Clariger exilis* Snyder 1911 と区別される．（武藤 滉）

ヒモハゼ属 Genus *Eutaeniichthys* Jordan & Snyder 1901

ヒモハゼ *Eutaeniichthys gilli* Jordan & Snyder 1901

朝鮮半島，渤海，黄海，日本では青森県から九州南部の太平洋沿岸と日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，対馬，五島列島，大隅諸島に分布．三重県では伊勢湾の河川河口域や内湾の泥底や砂泥底に生息．スナモグリ類やアナジャコ類の巣穴を利用する．体は細長



ヒモハゼ *Eutaeniichthys gilli*, FRLM 45157, 31 mm SL, 三重県

く，体側に明瞭な1黒色縦帯を有する．大隅諸島以南には両背鰭間隔の狭く，体側の縦帯が途切れることで特徴づけられる未記載種の存在が明らかとなっている（Mukai et al., 2003）．環境省準絶滅危惧．（武藤 滉）

ウキゴリ属 Genus *Gymnogobius* Gill 1863

ビリンゴ

Gymnogobius breunigii (Steindachner 1879)

サハリン南部，ウルップ島，朝鮮半島，日本では北海道から九州南部の太平洋沿岸，北海道から九州南部の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，屋久島，種子島に分布．三重県では伊勢湾流入河川や一部の熊野灘流入河川の河口域で見られる．春から夏にかけての雌は婚姻色を呈し，体側や背鰭，臀鰭，腹鰭が黒くなる．近似のシンジコハゼ *Gymnogobius taranetzi* (Pinchuk 1978) とは両眼間



ビリンゴ *Gymnogobius breunigii*, FRLM 52599, 40 mm SL, 川越町高松干潟

隔域に孔器列がなく，眼上管の開孔は3対であることで区別される．
(武藤 滉)

キセルハゼ

Gymnogobius cylindricus (Tomiyama 1936)

日本固有種．伊勢湾，瀬戸内海，有明海，博多湾，対馬，五島列島に分布．三重県では伊勢湾流入河川の河口干潟や汐湖干潟に堆積する軟泥底で見られる．アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴を利用する．峡部に肉質皮弁がないこと，尾鰭下部の軟条に黒色点列がないこと，第1背鰭



キセルハゼ *Gymnogobius cylindricus*, FRLM 63250, 23 mm SL, 三重県

起点と第2背鰭起点の長さは第2背鰭基底の長さより短いことで区別される．環境省絶滅危惧IB類．
(武藤 滉)

ニクハゼ

Gymnogobius heptacanthus (Hilgendorf 1879)

沿海州，朝鮮半島，済州島，渤海，黄海，日本では北海道から九州南部の太平洋沿岸，北海道から九州南部の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，対馬に分布．三重県では伊勢湾の河川河口域やアマモ場で見られる．ヘビハゼ *Gymnogobius mororanus* (Jordan & Snyder 1901) に似るが，



ニクハゼ *Gymnogobius heptacanthus*, FRLM 57243, 29 mm SL, 英虞湾内座賀島

眼下の縦列孔器は3列であること，斑紋があることで区別される．婚姻色を呈した雌の第1背鰭に白色
(武藤 滉)

エドハゼ

Gymnogobius macrognathos (Bleeker 1860)

朝鮮半島，山東省，ピョートル大帝湾，日本では北海道，宮城県から徳島県の太平洋沿岸，京都府，兵庫県，福岡県から熊本県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海に分布．三重県では伊勢湾を中心に河川河口域の砂泥底や泥底で見られる．峡部に肉質皮弁がないこと，尾鰭下部の軟条に黒色点列がないこと，第1背鰭起点と第2背鰭起点の長さは第2背鰭基底の長さより長いと同長であることで区別される．環境省絶滅危惧II類．
(武藤 滉)



エドハゼ *Gymnogobius macrognathos*, 三重県
上 FRLM 64567, 41 mm SL
下 FRLM 63262, 23 mm SL

スミウキゴリ
Gymnogobius petschiliensis
(Rendahl 1924)

朝鮮半島, 済州島, 河北省, 北海道, 青森県から九州南部の太平洋沿岸, 青森県から九州南部の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 屋久島, 種子島に分布。河川の中流域から下流域に生息。近似のウキゴリ *Gymnogobius urotaenia* (Hilgendorf 1879), シマウキゴリ *Gymnogobius operiens* (Stevenson 2002) とは第1背鰭後部に黒色斑がなく, 体側に黒



スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis*, FRLM 32699, 84 mm SL, 伊勢市五十鈴川

褐色横帯が並び尾部で明瞭であることにより区別される。(武藤 滉)

クボハゼ
Gymnogobius scrobiculatus
(Takagi 1957)

日本固有。静岡県から鹿児島県の太平洋沿岸, 福井県から鹿児島県の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 対馬, 五島列島に分布。三重県では伊勢湾および熊野灘流入河川に分布する。河川河口域の砂礫底や砂底にアナジャコ類やスナモグリ類の巣穴を利用して生息。体側に腹まで伸び



クボハゼ *Gymnogobius scrobiculatus*, FRLM 64589, 34 mm SL, 三重県

る数本の褐色横帯があることで区別される。環境省絶滅危惧 IB 類。

(武藤 滉)

チクゼンハゼ
Gymnogobius uchidai
(Takagi 1957)

日本固有。北海道, 岩手県から鹿児島県までの太平洋沿岸, 京都府から鹿児島県までの日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 五島列島に分布。三重県では主に伊勢湾流入河川に生息。アナジャコ類やスナモグリ類の巣穴を利用する。近似のエドハ



チクゼンハゼ *Gymnogobius uchidai*, FRLM 64570, 34 mm SL, 三重県

ゼ *Gymnogobius macrognathos* (Bleeker 1860) より砂礫の底質を好み, 峡部に肉質皮弁があることで区別される。環境省絶滅危惧 II 類。(武藤 滉)

ウキゴリ
Gymnogobius urotaenia
(Hilgendorf 1879)

朝鮮半島, ウルップ島, 河北省, 浙江省, サハリン, 日本では択捉島から色丹島, 北海道, 本州, 四国, 九州, 大隅諸島, 佐渡, 隠岐, 壱岐, 対馬に分布。河川中流域から下流域に生息。近似のスミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis* (Rendahl 1924) やシマウキゴリ *Gymnogobius operiens* (Stevenson 2002) とは第1背鰭後部に黒色斑があり, 尾鰭基底



ウキゴリ *Gymnogobius urotaenia*, FRLM 52592, 85 mm SL, 伊勢市汁谷川

の黒色斑の後端は二又しないことにより区別される。(武藤 滉)

シロウオ属 Genus *Leucopsarion* Hilgendorf 1880

シロウオ
Leucopsarion petersii
Hilgendorf 1880

朝鮮半島, 東沙諸島, 日本では北海道から九州の太平洋沿岸と日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海に分布する。三重県では志摩半島を中心に生息し, 四つ手網を用いた漁が行われている。春に河川下流域に産卵の



シロウオ *Leucopsarion petersii*, FRLM 64568, 41 mm SL, 三重県

ため遡上する。体は半透明で側扁し, 第1背鰭がない。日本海と太平洋で遺伝的に異なることが知られている

(Kokita and Nohara, 2011)。環境省準絶滅危惧 II 類。(武藤 滉)

ミミズハゼ属 Genus *Luciogobius* Gill 1859

カワリミミズハゼ *Luciogobius adapel* Okiyama 2001

日本固有種。青森県および三重県に分布する。三重県では熊野灘海域の水深 50 m 付近の砂底ないし砂礫底からパラタイプ標本を含む 2 標本が得られている。同属他種と比べて生息水深が深く、背鰭、腹鰭、臀鰭



カワリミミズハゼ *Luciogobius adapel*, FRLM 41787, 29 mm SL, 志摩市阿児町安乗を欠き、総脊椎骨数が 49-50 と多いことで区別される。(武藤 滉)

ユウスイミミズハゼ *Luciogobius fonticola* Kanagawa, Itai & Senou 2011

静岡県、三重県、和歌山県に分布する。三重県では熊野灘に流入する 1 河川に生息。河川下流域の湧水や伏流水の豊富な砂礫中で見られる。体は白く、眼が皮膚に埋没することで特徴づけられる。タイプ産地である静岡県の個体群と比べ、一部の個体で脊椎骨数が少ない等の形態的特徴があるが、ここでは平嶋



ユウスイミミズハゼ *Luciogobius fonticola*, FRLM 57092, 39 mm SL, 三重県

ほか (2018) に従い、本種として扱った。また、ドウクツミミズハゼ *Luciogobius albus* Regan 1940 との明確な識別形質は乏しく、更なる分類学的な検討を要する。環境省準絶滅危惧。(武藤 滉)

ミミズハゼ *Luciogobius guttatus* Gill 1859

朝鮮半島、済州島、中国遼寧省から浙江省、日本では北海道から屋久島までの各地の沿岸に分布。内湾の沿岸域や河川下流域の転石下や礫中に生息。体は細長く、第 1 背鰭を欠くこと、胸鰭上部に短い遊離軟条を持つことで特徴づけられる。



ミミズハゼ *Luciogobius guttatus*, FRLM 40935, 44 mm SL, 英虞湾内座賀島

ミナミヒメミミズハゼ *Luciogobius ryukyuensis* Chen, Suzuki & Senou 2008 との識別形質は乏しく、分類学的な検討を要する。(武藤 滉)

イソミミズハゼ *Luciogobius martellii* Di Caporiacco 1948

中国上海、ピョートル大帝湾、日本では北海道から屋久島の各地の沿岸域に分布。内湾の沿岸域や河川河口域、淡水流入の見られる岩礁性海岸の転石下や礫中に見られる。近似のミミズハゼ *Luciogobius guttatus* Gill 1859 と比べ、海水の影響の強い



イソミミズハゼ *Luciogobius martellii*, FRLM 55952, 49 mm SL, 英虞湾内座賀島

場所に多く、背鰭基底長が背鰭基底より長いことで区別される。後端から下尾骨後端までの水平長よ (武藤 滉)

イドミミズハゼ *Luciogobius pallidus* Regan 1940

済州島、日本では茨城県から宮崎県までの太平洋沿岸、新潟県から鹿児島県までの日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、五島列島、対馬、奄美大島に分布。河川中流域から下流域の礫中に生息。形態的に区別される 2 型の存在が明らかとなっており、生息環境の違いから「河川型」と「汽水型」と称されている。三重県では何れのタイプも確認されており、前者は比較的大河川の感潮域より上流に集中する。環境省準絶滅危惧。(武藤 滉)



イドミミズハゼ *Luciogobius pallidus*, 三重県
上 FRLM 57091, 54 mm SL
下 FRLM 55991, 48 mm SL

アベハゼ属 Genus *Mugilogobius* Smitt 1900

アベハゼ *Mugilogobius abei* (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島, 渤海, 黄海, 東シナ海, 台湾, 南シナ海, 日本では宮城県から種子島の太平洋沿岸, 新潟県から熊本県の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 隠岐, 対馬, 壱岐, 五島列島に分布。河川河口域の転石下や牡蠣礁に多く, 有機汚濁の進んだ環境にも生息。尾鰭に黒褐色縦線があり, 尾柄部に2黒褐色縦線があることで特徴づけられる。(武藤 滉)



アベハゼ *Mugilogobius abei*, FRLM 42584, 30 mm SL, 尾鷲市

ノボリハゼ属 Genus *Oligolepis* Bleeker 1874

ノボリハゼ *Oligolepis acutipennis* (Valenciennes 1837)

インドー太平洋, 日本では千葉県から種子島・屋久島までの太平洋沿岸, 福岡県, 五島列島に分布。三重県では熊野灘に流入する河川河口域の軟泥底から標本が得られている。尾鰭後縁が尖ることでクチサケハゼ *Oligolepis stomias* (Smith 1941) に似るが, 上顎後端が眼の後端を超えないこと, 眼下の黒色帯は細いことで区別される。(武藤 滉)



ノボリハゼ *Oligolepis acutipennis*, FRLM 64551, 23 mm SL, 尾鷲市賀田町

クチサケハゼ *Oligolepis stomias* (Smith 1941)

台湾, 中国, サモア諸島, 日本では茨城県から種子島・屋久島の太平洋沿岸, 熊本県, 琉球列島, 小笠原諸島に分布。三重県では熊野灘に流入する河川河口域の軟泥底から標本が得られている。ノボリハゼ *Oligolepis acutipennis* (Valenciennes 1837) に似



クチサケハゼ *Oligolepis stomias*, FRLM 51582, 34 mm SL, 尾鷲市

るが, 上顎後端が眼の後端を超える 折れ曲がることで区別される。
こと, 眼下の黒色帯は太く, L 字に (武藤 滉)

サルハゼ属 Genus *Oxyurichthys* Bleeker 1857

カマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus* McCulloch & Waite 1918

中・西部太平洋, 日本では千葉県以南の太平洋沿岸, 大隅諸島, 琉球列島に分布。三重県では熊野灘流入河川の河口域に堆積する軟泥に生息。南方性魚類であるが, 少なくとも越冬が示唆される大型の個体も確認されている。マツゲハゼ *Oxyurichthys ophthalmonema* (Bleeker 1856) に似るが, 体側背部に明瞭な小黑点が散在すること, 第1背鰭の第1-2棘条は著しく伸長することで区別される。(武藤 滉)



カマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus*, FRLM 42581, 57 mm SL, 尾鷲市

ミナミサルハゼ
Oxyurichthys lonchotus
(Jenkins 1903)

西部太平洋，日本では千葉県以南の太平洋沿岸，大隅諸島，琉球列島，小笠原諸島に分布．三重県では主に熊野灘流入河川の河口域に堆積する軟泥に生息し，しばしば伊勢湾流入河川でも加入直後の幼魚が採集される．眼上に細長い皮弁は無く，第1背鰭前方側面に鱗がないこと，体側



ミナミサルハゼ *Oxyurichthys lonchotus*, FRLM 45638, 27 mm SL, 尾鷲市

後半に細い暗色横帯があることで区別される．

(武藤 滉)

ゴマハゼ属 Genus *Pandaka* Herre 1927

ゴマハゼ *Pandaka* sp.

日本固有．三重県から宮崎県の太平洋沿岸，五島列島から鹿児島県の東シナ海沿岸，対馬，種子島，屋久島に分布．三重県では英虞湾や五ヶ所湾の沿岸域でサツキハゼ *Parioglossus dotui* Tomiyama 1958 と共によく見られる．最大でも 15 mm 程度と小型で，群れで生活する．第1背鰭の黒色斑は前端が欠けた台形で，先端部が青白く縁どられることで近似種と区別される．(武藤 滉)



ゴマハゼ *Pandaka* sp., FRLM 52934, 15 mm SL, 英虞湾内座賀島

アカウオ属 Genus *Paratrypauchen* Murdy 2008

アカウオ
Paratrypauchen microcephalus
(Bleeker 1860)

西部太平洋，日本では東京湾から宮崎県の太平洋沿岸，新潟県から熊本県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，有明海に分布．内湾の 5-10 m の泥底に生息．体は細長く，鱗に覆われる．眼が小さく退化的で皮膚に



アカウオ *Paratrypauchen microcephalus*, FRLM 57312, 98 mm SL, 愛知県

埋没する．2型の存在(microcephalus 境省, 2017)．環境省準絶滅危惧．型, wakae 型)が知られている(環

(武藤 滉)

トビハゼ属 Genus *Periophthalmus* Bloch & Schneider 1801

トビハゼ
Periophthalmus modestus
Cantor 1842

東・南シナ海，朝鮮半島，日本では千葉県から屋久島・種子島の太平洋沿岸，福岡県から九州南部の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，有明海，八代海，奄美大島，沖縄島に分布．三重県では伊勢湾流入河川の限られた地点にのみ分布する．ミナミトビハゼ *Periophthalmus argentilineatus* Valenciennes 1837 に似るが，第1背鰭は尖らず，上縁に暗色帯がないことで区別される．環境省準絶滅危惧．(武藤 滉)



トビハゼ *Periophthalmus modestus*, FRLM 52658, 79 mm SL, 三重県

スナゴハゼ属 Genus *Pseudogobius* Popta 1922

マサゴハゼ *Pseudogobius masago* (Tomiyama 1936)

朝鮮半島，台湾，澎湖諸島，日本では宮城県から宮崎県の太平洋沿岸，京都府から熊本県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，老岐，対馬，五島列島，種子島，奄美大島，沖縄島に分布．三重県では主に伊勢湾流入河川の河口干潟や塩性湿地で見られる．第1背鰭に黒色斑がないこと



マサゴハゼ *Pseudogobius masago*, FRLM 64569, 20 mm SL, 三重県
で日本産同属他種と区別される．環境省絶滅危惧Ⅱ類．（武藤 滉）

キヌバリ属 Genus *Pterogobius* Gill 1863

キヌバリ *Pterogobius elapoides* (Günther 1872)

朝鮮半島，济州島，日本では千葉県から三重県の太平洋沿岸，大分県，宮崎県，北海道から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，対馬に分布．三重県では熊野灘沿岸の岩礁域のガラモ場でよく見られる．チャガラ *Pterogobius zonoleucus* Jordan & Snyder 1901 に似るが体側の横帯が黒色であることで区別される．日本



キヌバリ *Pterogobius elapoides*, FRLM 55939, 59 mm SL, 英虞湾内座賀島
海の個体は黒色横帯が7本，太平洋・瀬戸内海の個体は6本であることが知られている．（武藤 滉）

ニシキハゼ *Pterogobius virgo* (Temminck & Schlegel 1845)

朝鮮半島，济州島，日本では千葉県から三重県の太平洋沿岸，秋田県から九州までの日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海に分布．三重県では熊野灘沿岸の岩礁域で見られる．同属他種と比べて大型になり，体側中央



ニシキハゼ *Pterogobius virgo*, FRLM 45172, 97 mm SL, 英虞湾内座賀島
に1 橙色縦帯があることで特徴づけられる．（武藤 滉）

リュウグウハゼ *Pterogobius zacalles* Jordan & Snyder 1901

朝鮮半島，济州島，黄海，日本では北海道から三重県の太平洋沿岸，青森県から九州南部の日本海・東シナ海沿岸，津軽海峡に分布．岩礁性海岸の水深45 m 以浅に生息し，中層を群れで浮遊する．体側に黒色横帯が並ぶことでキヌバリ *Pterogobius elapoides* (Günther 1872) に似るが，



リュウグウハゼ *Pterogobius zacalles*, FRLM 47505, 53 mm SL, 志摩市志摩町御座
尾鰭に黒色帯があることで区別される．（武藤 滉）

チャガラ *Pterogobius zonoleucus* Jordan & Snyder 1901

朝鮮半島南部および济州島，日本では青森県から鹿児島県の沿岸域に分布する．三重県では志摩半島を中心とした熊野灘沿岸に分布する．主に中層を群れで浮遊し，特に幼魚でその傾向が強い．体側に6本の淡色横線があることで同属他種と区別される．（武藤 滉）



チャガラ *Pterogobius zonoleucus*, FRLM 52935, 49 mm SL, 英虞湾内座賀島

ヒナハゼ属 Genus *Redigobius* Herre 1927

ヒナハゼ *Redigobius bikolanus* (Herre 1927)

インド洋・西部太平洋，日本では東京湾から九州南部の太平洋沿岸，福井県から九州南部の日本海・東シナ海沿岸，隠岐，対馬，五島列島に分布．三重県では志摩半島以南の内湾や河川河口域の淀んだ環境に多い．日本産同属のタスキヒナハゼ *Redigobius balteatus* (Maeda, Saeki & Satoh 1935) とは体側と第1背鰭に明瞭な黒色横帯がないことで区別される．
(武藤 滉)



ヒナハゼ *Redigobius bikolanus*, FRLM 45849, 23 mm SL, 紀北町片上池

ヨシノボリ属 Genus *Rhinogobius* Gill 1859

クロヨシノボリ *Rhinogobius brunneus* (Temminck & Schlegel 1845)

日本固有種．自然分布は秋田県・千葉県以南の本州，四国，九州，南西諸島．両側回遊魚．外海に流入する小河川に他のヨシノボリ類とは排他的に生息する傾向がある．体側中央に破線状の縦線があり，尾鰭基底にハの字状の黒斑をもつこと，眼から吻にかけて走る朱線の幅が太いことなどで他の日本産ヨシノボリ類から区別できる．
(淀 太我)



クロヨシノボリ *Rhinogobius brunneus*, FRLM 54847, 43 mm SL
志摩市志摩町越賀あづり川

カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus* (Mizuno 1960)

日本固有種．自然分布は静岡県・富山県以西の本州，四国，九州．純淡水魚．河川の渓流域から中流域に生息する．オスの第1背鰭は伸長し烏帽子状を呈する．頬にえんじ色の小点が散在する．体や鰭の模様には変異がある．胸鰭条数が17以下と少ないことで他の日本産ヨシノボリ類から容易に区別できる．大卵を産み，孵化仔魚は浮遊期を経ず直ちに着底する．多くの伊勢湾流入河川では多産し優占種となる．
(淀 太我)



カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus*
上 ♂, FRLM 52655, 36 mm SL, 玉城町汁谷川
下 ♀, FRLM 41127, 31 mm SL, 多気町片野

オオヨシノボリ
Rhinogobius fluviatilis
 Tanaka 1925

日本固有種。自然分布は青森県以南の本州，四国，九州。大・中規模河川の上中流域に生息する。特に急流の早瀬域に多い。両側回遊魚だがダム湖等に陸封されることもある。全長 10 cm 以上とヨシノボリ類の中では大型になる。胸鰭基底上部に顕著な黒斑があり，尾柄基底に太い暗色横帯を有すること，尾鰭後縁が白く縁取られることなどで他の日本産ヨシノボリ類から区別できる。

(淀 太我)



オオヨシノボリ *Rhinogobius fluviatilis*

上 ♂, FRLM 63581, 69 mm SL, 度会町一ノ瀬川

下 ♀, FRLM 32657, 66 mm SL, 伊勢市神路川

ルリヨシノボリ
Rhinogobius mizunoi
 Suzuki, Shibukawa & Aizawa 2017

済州島および日本列島。日本での自然分布は北海道西部・房総半島以南の本州，四国，九州。大・中規模河川の上中流域に生息する。特に急流の早瀬域に多い。両側回遊魚だがダム湖等に陸封されることもある。全長 10 cm 以上とヨシノボリ類の中では大型になる。頬と体側にルリ色の斑点を持つことが大きな特徴。尾柄が太く背が盛り上がらない寸胴な体型。尾鰭基底に特徴的な太い八の字状の斑紋をもち，尾鰭が暗色で点列を持たないことなどで他の日本産ヨシノボリ類から区別できる。

(淀 太我)



ルリヨシノボリ *Rhinogobius mizunoi*

上 ♂, FRLM 64566, 65 mm SL, 南伊勢町押渕

下 紀北町銚子川 (松尾 怜撮影)

シマヨシノボリ
Rhinogobius nagoyae
 Jordan & Seale 1906

朝鮮半島および日本列島。日本での自然分布は本州，四国，九州，南西諸島。ただし琉球列島の集団は形態や遺伝的特徴が大きく異なっている。両側回遊魚。中・小規模河川の中下流域の平瀬域に生息する。繁殖期のメスの腹部は鮮やかなコバルトブルーを呈する。頬に明瞭なミミズ状斑をもつこと，胸鰭基部に明色と暗色の横帯が交互に並ぶことで他の日本産ヨシノボリ類から区別できる。

(淀 太我)



シマヨシノボリ *Rhinogobius nagoyae*, 伊勢市汁谷川

上 ♂, FRLM 52622, 42 mm SL

下 ♀, FRLM 52706, 40 mm SL

ゴクラクハゼ
Rhinogobius similis
 Gill 1859

中国大陸，朝鮮半島，日本列島，台湾，日本での自然分布は秋田県・茨城県以南の本州，四国，九州，南西諸島。両側回遊魚だが，ダム湖等に陸封されたり，自然河川でも降海しない個体がいる。主に河川の中下流域から汽水域に生息する。頭部が大きく，体側中央に黒斑が並び，成魚では青い小斑点が散在する。眼から吻にかけて走る朱色の線をもたないこと，頭部背面の鱗域が眼の後端付近まで達することなどで他の日本産ヨシノボリ属から区別できる。

(淀 太我)

トウヨシノボリ
***Rhinogobius* sp.**

分類が混沌を極めているトウヨシノボリについて，ここでは他の日本産種に同定されない本州産ヨシノボリ属とした。これらは核 DNA から単系統ではなく，複数種が混在していると考えられている (Yamasaki et al., 2015)。三重県には，全長 8 cm 程度まで成長し，オスの第 1 背鰭が伸長して烏帽子状を呈し，尾鰭基部に橙色斑を持つタイプが生息する。なお，mtDNA 解析の結果から，琵琶湖産と判断される集団（旧オウミヨシノボリ）が国内外来種として広く侵入しているが，他に在来種のトウヨシノボリが存在するのかどうかなど不明な点が多い。

(淀 太我)

トウヨシノボリ *Rhinogobius* sp.

津市一身田

上 ♂，FRLM 46623, 46 mm SL

下 ♀あるいは幼魚，FRLM 46617
29 mm SL

トウカイヨシノボリ
Rhinogobius telma
 Suzuki, Kimura & Shibukawa 2019

日本固有種。自然分布は愛知県，岐阜県，三重県の伊勢湾・三河湾流入河川水系。池沼や水路，河川中下流域のワンドなど流れがほとんど無く植生の豊富な環境に生息する。吻が短く，第 1 背鰭に黒色斑があり，尾鰭基底に不定形の暗色斑があり，オスの第 1 背鰭は伸長せず，背鰭上縁が橙黄色で縁取られること，通常前鰓蓋管を欠くことで他の日本産ヨシノボリ類から区別できる。三重県下では国内外来種のヨシノボリ属との交雑が進んでおり，非交雑個体群はごくわずかし確認されていない。環境省準絶滅危惧。(淀 太我)

トウカイヨシノボリ

Rhinogobius telma, 三重県

上 ♂，FRLM 41051, 35 mm SL

下 ♀，FRLM 41052, 29 mm SL



ゴクラクハゼ *Rhinogobius similis*, 伊勢市汁谷川

上 ♂，FRLM 52603, 52 mm SL

下 ♀，FRLM 52602, 40 mm SL



シマヒレヨシノボリ
Rhinogobius tyoni
Suzuki, Kimura & Shibukawa 2019

日本固有種。自然分布は和歌山県北部から広島県までの本州瀬戸内側、四国瀬戸内側。静岡県、愛知県、岐阜県。三重県にも生息するが、自然分布か否かは不明。池沼や水路、河川中下流域のワンドなど流れがほとんど無く植生の豊富な環境に生息する。形態的にトウカイヨシノボリ *Rhinogobius telma* Suzuki, Kimura & Shibukawa 2019 と酷似するが、前鰓蓋管を持つこと、第2背鰭と尾鰭の点列が明瞭で縞状に見えること、腹鰭前方鱗がない事、オスの尾鰭下部が赤色を呈することなどで区別できる。環境省準絶滅危惧。(淀 太我)



シマヒレヨシノボリ *Rhinogobius tyoni*, 三重県
 上 ♂, FRLM 54662, 45 mm SL
 下 ♀, FRLM 54663, 33 mm SL

サビハゼ属 Genus *Sagamia* Jordan & Snyder 1901

サビハゼ
Sagamia geneionema
(Hilgendorf 1879)

朝鮮半島、濟州島、日本では青森県から豊後水道の太平洋沿岸、青森県から鹿児島県の日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海に分布。内湾の砂泥底や砂礫底に成魚は単独で、幼魚は群れで見られる。胸鰭上部に複数の遊離軟条があること、頭部腹面に多数のひげがあること、両眼間隔は狭いことで特徴づけられる。

(武藤 滉)



サビハゼ *Sagamia geneionema*, FRLM 52945, 42 mm SL, 英虞湾内座賀島

ボウズハゼ属 Genus *Sicyopterus* Gill 1860

ボウズハゼ
Sicyopterus japonicus
(Tanaka 1909)

台湾、日本では福島県から九州南岸の太平洋沿岸、兵庫県、長崎県、五島列島、大隅諸島、琉球列島、八丈島、小笠原諸島に分布。三重県では伊勢湾、熊野灘沿岸の河川に分布。春から夏にかけて着底直前の仔魚が川に加入する。ルリボウズハゼ *Sicyopterus lagocephalus* (Pallas 1770) に似るが尾鰭の上方と下方に暗色縦線はなく、第2背鰭は1棘10軟条であることで区別される。(武藤 滉)



ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus*
 上 FRLM 30564, 68 mm SL, 志摩市磯部町池田川
 下 FRLM 40916, 29 mm SL, 英虞湾内座賀島

ヤミハゼ属 Genus *Suruga* Jordan & Snyder 1901

ヤミハゼ

Suruga fundicola
Jordan & Snyder 1901

宮城県から高知県の太平洋沿岸、青森県から山口県の日本海・東シナ海沿岸、沖縄舟状海盆に分布。水深50–400 mの砂底や砂泥底に生息。第1背鰭は8棘であること、体側に不明瞭な褐色斑が並ぶこと、眼が大きく、眼径は吻長より大きいことで特徴づけられる。
(武藤 滉)



ヤミハゼ *Suruga fundicola*, FRLM 42018, 57 mm SL, 熊野灘

チワラスボ属 Genus *Taenioides* Lacepède 1800

コガネチワラスボ
Taenioides gracilis
(Valenciennes 1837)

ベンガル湾、トンキン湾、台湾、日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸、鹿児島県の東シナ海沿岸、種子島、琉球列島に分布。三重県では伊勢湾と熊野灘に流入する河川の少数地点で標本が得られているが、大型個体は熊野灘流入河川に集中



コガネチワラスボ *Taenioides gracilis*, FRLM 42585, 113 mm SL, 尾鷲市

する。チワラスボ *Taenioides snyderi* Jordan & Hubbs 1925 に似るが、体は黄褐色で金色の反照帯があるこ

と、前鰓蓋の後縁を沿って上向する皮褶の発達が弱いこと等で区別される。
(武藤 滉)

チワラスボ
Taenioides snyderi
Jordan & Hubbs 1925

東京湾から高知県の太平洋沿岸、福岡県、佐賀県、鹿児島県、瀬戸内海、有明海、八代海に分布。三重県では主に伊勢湾流入河川の河口域に堆積した軟泥底に生息。コガネチワラスボ *Taenioides gracilis* (Valenciennes 1837) に似るが、体は暗い灰みのピンクであること、前鰓蓋の後縁を沿って上向する皮褶の発達が強く、頬中央を縦走する皮褶に接近すること等で区別される。
(武藤 滉)

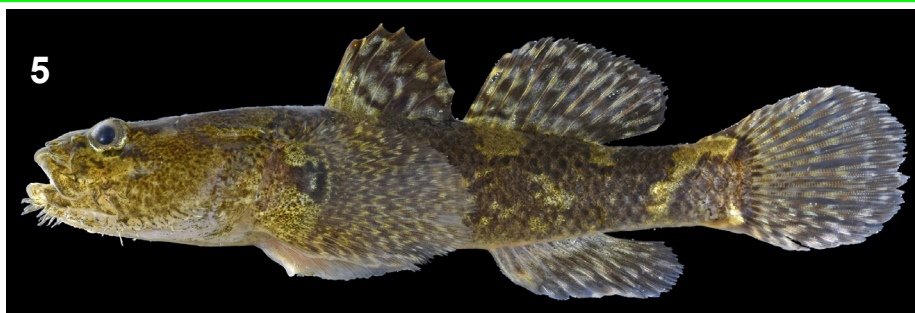


チワラスボ *Taenioides snyderi*
上 FRLM 55321, 183 mm SL, 津市白塚漁港
下 FRLM 60562, 27 mm SL, 津市安濃川

チチブ属 Genus *Tridentiger* Gill 1859

ショウキハゼ
Tridentiger barbatus
(Günther 1861)

朝鮮半島、中国、台湾、国内では伊勢湾、瀬戸内海、有明海、八代海に分布する。三重県では木曽三川の河口干潟のみで採集されている。河川河口域泥底の牡蠣礁でよく見られる。口は大きく、上顎後端は眼の後縁に達すること、頭側や下顎に多数のヒゲが発達することで特徴づけられる。環境省準絶滅危惧種。
(武藤 滉)



ショウキハゼ *Tridentiger barbatus*, FRLM 64555, 66 mm SL, 三重県

シモフリシマハゼ
Tridentiger bifasciatus
Steindachner 1881

朝鮮半島, 東シナ海, 日本では青森県から高知県の太平洋沿岸, 石川県から九州北西の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 有明海に分布. 三重県では内湾や河川河口域の転石下や牡蠣礁によく見られる. アカオビシマハゼ *Tridentiger trigonocephalus* (Gill 1858) によく似るが, 胸鰭最上軟条は遊離しないこと, 頭部腹面に白色点が密に散在することで区別される. (武藤 滉)



シモフリシマハゼ *Tridentiger bifasciatus*, FRLM 37700, 49 mm SL
 桑名市長島町揖斐川

ヌマチチブ
Tridentiger brevispinis
Katsuyama, Arai & Nakamura 1972

サハリン, 朝鮮半島, 千島列島, 日本では北海道から九州, 奄岐, 対馬に分布. 河川中流域から下流域, 池, 湖沼に生息. チチブ *Tridentiger obscurus* (Temminck & Schlegel 1845) やナガノゴリ *Tridentiger kuroiwae* Jordan & Tanaka 1927 に似るが, 幼魚や雌の第1背鰭の棘条は糸状に伸びないこと, 頭部に比較的大きな白色点がまばらに散在すること, 胸鰭基部に薄茶色の横帯があり, その中に明瞭な枝分かれした橙色線があることで区別される. (武藤 滉)



ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis*, 伊勢市汁谷川
 上 ♂, FRLM 52562, 68 mm SL
 下 ♀, FRLM 52563, 46 mm SL

チチブ
Tridentiger obscurus
(Temminck & Schlegel 1845)

朝鮮半島, 北海道から九州南部の太平洋沿岸, 青森県から九州南部の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 隠岐, 奄岐, 五島列島, 対馬に分布. 主に内湾や河川河口域に生息. ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis* Katsuyama, Arai & Nakamura 1972 やナガノゴリ *Tridentiger kuroiwae* Jordan & Tanaka 1927 に似るが, 雌雄ともに第1背鰭の棘条は糸状に伸びること, 頭部に比較的大きな白色点が密に散在すること, 胸鰭基部に薄茶色の横帯があり, その中にふつうは明瞭な橙色線がないことで区別される. (武藤 滉)



チチブ *Tridentiger obscurus*, FRLM 54622, 58 mm SL, 志摩市志摩町越賀あづり川

アカオビシマハゼ
Tridentiger trigonocephalus
(Gill 1859)

渤海, 黄海, 東・南シナ海, 日本では青森県から高知県の太平洋沿岸, 北海道から鹿児島県の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 隠岐, 対馬に分布. 内湾や河川河口域の転石下や牡蠣礁に生息. シモフリシマハゼによく似るが, 胸鰭最上軟条は遊



アカオビシマハゼ *Tridentiger trigonocephalus*, FRLM 50656, 35 mm SL
 英虞湾内座賀島

離すること, 頭部腹面に白色点はないことで区別される. (武藤 滉)

ヒゲワラスボ属 Genus *Trypauchenopsis* Volz 1903

マバラヒゲワラスボ *Trypauchenopsis intermedia* Volz 1903

三重県、高知県、種子島、沖縄島、石垣島に分布。三重県では熊野灘流入河川河口域の泥底から1標本が得られている。従来のヒゲワラスボ *Trypauchenopsis intermedia* は本種とホシドメヒゲワラスボ *Trypauchenopsis limicola* (Smith 1964)



マバラヒゲワラスボ *Trypauchenopsis intermedia*, FRLM 64571, 51 mm SL
尾鷲市賀田町

に分けられた。国内から得られている本属の標本は未検討のものも多く、本種の分布域は不透明である。

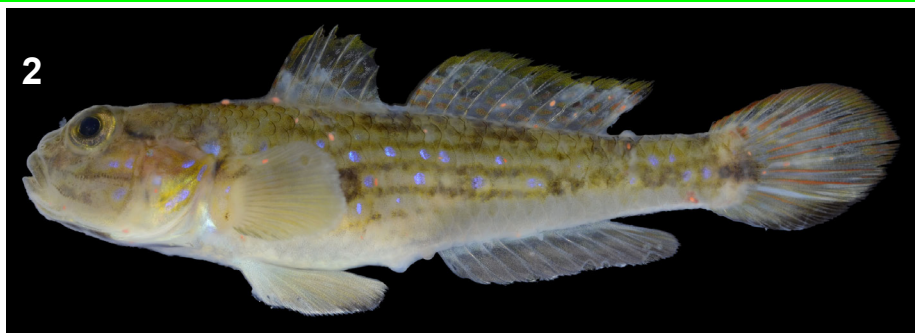
ホシドメヒゲワラスボとは、第2背鰭軟条数および臀鰭軟条数が多いことで区別できる。(武藤 滉)

ハゼ科 Family Gobiidae Cuvier 1816

キララハゼ属 Genus *Acentrogobius* Bleeker 1874

モヨウハゼ *Acentrogobius pflaumii* (Bleeker 1853)

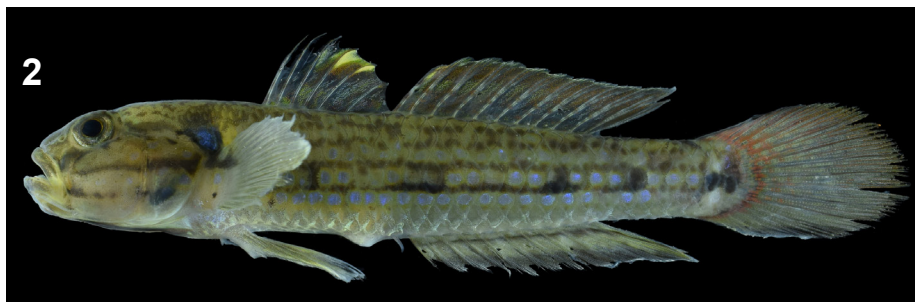
青森県から鹿児島県の太平洋沿岸、北海道から鹿児島県の日本海と東シナ海沿岸、瀬戸内海に分布。オーストラリア南東部、ニュージーランド北部に外来分布。内湾のやや深い砂泥底に生息。頤の孔器列は散在すること、頭部背側の鱗域は前鰓蓋部を超えること、尾鰭の暗色斑は円形であることで同属他種と区別される。(武藤 滉)



モヨウハゼ *Acentrogobius pflaumii*, FRLM 52952, 55 mm SL, 英虞湾内座賀島

ツマグロスジハゼ *Acentrogobius* sp.

朝鮮半島、台湾、日本国内からは宮城県から鹿児島県の太平洋沿岸、秋田県から鹿児島県の日本海と東シナ海沿岸、瀬戸内海、琉球列島に分布。内湾の河口干潟やアマモ場の砂泥底に生息。テッポウエビ類の巣穴を利用すること、頭部背側の鱗域は前鰓蓋部を



ツマグロスジハゼ *Acentrogobius* sp., FRLM 64588, 47 mm SL, 鳥羽市浦村苔ヶ瀬川

超えないこと、腹鰭の後端は黒いこと、尾鰭の暗色斑は「イ」の形であ

ることで同属他種と区別される。

(武藤 滉)

スジハゼ *Acentrogobius virgatus* (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島、岩手県から鹿児島県の太平洋沿岸、北海道から鹿児島県の日本海と東シナ海沿岸、瀬戸内海に分布。内湾の河口域やアマモ場などの泥底や砂泥底に生息。テッポウエビ類の巣穴を利用することがある。頤の孔器列は散在すること、頭部背側の鱗域は前鰓蓋部を超えること、尾鰭の暗色斑は三角形であることで同属他種と区別される。(武藤 滉)



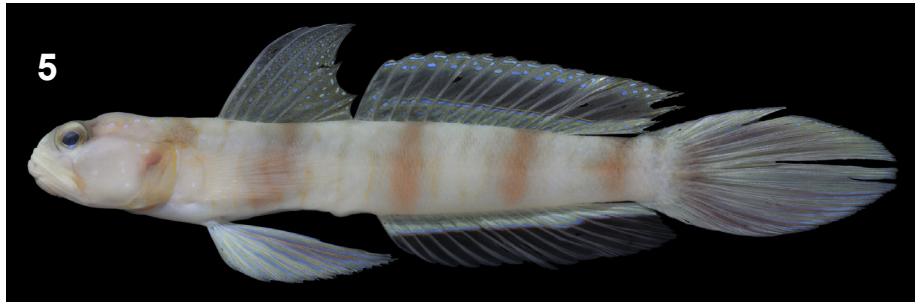
スジハゼ *Acentrogobius virgatus*, FRLM 50810, 45 mm SL, 英虞湾内座賀島

ダテハゼ属 Genus *Amblyeleotris* Bleeker 1874

ダテハゼ *Amblyeleotris japonica* Takagi 1957

千葉県から屋久島までの太平洋沿岸，島根県，長崎県，伊豆諸島に分布。内湾の砂泥底，礫混じりの砂底や砂泥底に生息し，テッポウエビ類と共生する。第1背鰭は烏帽子型で体側に5本の横帯がある。近似のミナミダテハゼ *Amblyeleotris ogasawarensis* Yanagisawa 1978 とは眼下に褐色の垂線がないことで区別される。

(武藤 滉)



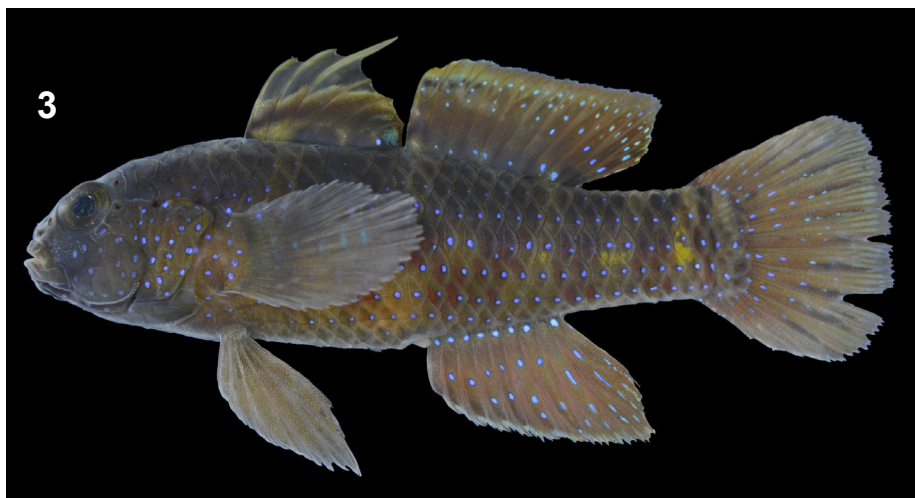
ダテハゼ *Amblyeleotris japonica*, FRLM 45822, 69 mm SL, 熊野市二木島町

ホシハゼ属 Genus *Asterropteryx* Rüppell 1830

ホシハゼ *Asterropteryx semipunctata* Rüppell 1830

インドー太平洋に分布。日本では千葉県以南の太平洋沿岸，京都府以南の日本海・東シナ海沿岸，琉球列島，伊豆諸島，小笠原諸島に分布。三重県では熊野灘沿岸の内湾の牡蠣礁やガレ場などで見られる。腹鰭に膜蓋が無く左右に分かれること，頭部や体側に青点があること，腹部下方に暗色斑があることが特徴。

(武藤 滉)



ホシハゼ *Asterropteryx semipunctata*, FRLM 56089, 40 mm SL, 英虞湾内座賀島

クモハゼ属 Genus *Bathygobius* Bleeker 1878

クロヤハズハゼ *Bathygobius coalitus* (Bennett 1832)

インドー太平洋に分布。日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸，大隅諸島，琉球列島，伊豆諸島，小笠原諸島に分布。河川河口域，岩礁性海岸，サンゴ礁域に生息。頭部背側の鱗域は前鰓蓋部を超えること，4本の胸鰭遊離分岐軟条があること，第1背鰭に黒色点が散在すること，腹部に3つの暗色斑が並ぶことで区別される。

(武藤 滉)



クロヤハズハゼ *Bathygobius coalitus*, FRLM 45640, 45 mm SL, 熊野市遊木浦

スジクモハゼ *Bathygobius cocosensis* (Bleeker 1854)

インドー太平洋に分布。千葉県から大隅諸島の太平洋沿岸，男女群島，琉球列島，伊豆諸島，小笠原諸島に分布。三重県では熊野灘沿岸の岩礁性海岸で見られる。頭部背側の鱗域は前鰓蓋部に達すること，第1背鰭



スジクモハゼ *Bathygobius cocosensis*, FRLM 63579, 21 mm SL, 尾鷲市行野浦

に黒色縦線があること，腹部に2黒斑があることで同属他種と区別される。黒色斑があること，鰓蓋部に1黒色斑があること。(武藤 滉)

ヤハズハゼ

Bathygobius cyclopterus
(Valenciennes 1837)

インドー太平洋に分布。日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸、男女群島、大隅諸島、琉球列島、伊豆諸島に分布。三重県では熊野灘沿岸の岩礁性海岸の転石下で見られる。前鼻孔に皮弁があり、鰓蓋上部に鱗がある。クサビハゼ *Bathygobius cotticeps* (Steindachner 1880) に似るが、頬に鱗がなく、明色時に頭部から体前部と尾柄前部に幅広い白色鞍状斑があることで区別される。

(武藤 滉)

ヤハズハゼ *Bathygobius cyclopterus*, FRLM 63578, 35 mm SL, 尾鷲市行野浦

クモハゼ

Bathygobius fuscus
(Rüppell 1830)

インドー太平洋に分布。日本では千葉県から屋久島の太平洋沿岸、石川県から鹿児島県の日本海・東シナ海沿岸、トカラ列島、琉球列島、伊豆諸島、小笠原諸島に分布。三重県では主に熊野灘沿岸の河川河口域や岩礁性海岸の転石下で見られる。クロヤハズハゼ *Bathygobius coalitus* (Bennett 1832) に似るが、第1背鰭上縁に太い黄色帯と黒褐色帯があることで区別される。

(武藤 滉)

クモハゼ *Bathygobius fuscus*, FRLM 51923, 40 mm SL, 英虞湾内座賀島

クロホシヤハズハゼ

Bathygobius hongkongensis
Lam 1986

西部太平洋に分布し、日本では神奈川県から屋久島の太平洋沿岸、長崎県、淡路島、琉球列島、小笠原諸島に分布。内湾の砂底・砂泥底に単独で生息。前鼻孔に皮弁があること、鰓蓋上部に鱗が無いこと、第2背鰭と尾鰭に小黑点があることで特徴づけられる。

(武藤 滉)

クロホシヤハズハゼ *Bathygobius hongkongensis*, FRLM 56593, 55 mm SL, 英虞湾内座賀島オキナワハゼ属 Genus *Callogobius* Bleeker 1874

オキナワハゼ

Callogobius hasseltii
(Bleeker 1851)

インドー太平洋に分布。日本では千葉県から屋久島までの太平洋沿岸、長崎県、琉球列島に分布。三重県では熊野灘海域の内湾の転石下で見られる。腹鰭は左右が癒合し後縁が湾入すること、尾鰭上方に暗色斑があることで同属他種と区別される。

(武藤 滉)

オキナワハゼ *Callogobius hasseltii*, FRLM 64564, 38 mm SL, 尾鷲市九鬼町

タネハゼ
Callogobius tanegasimae
(Snyder 1908)

フィリピン, 台湾, 日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸, 福井県, 京都府, 長崎県, 熊本県, 瀬戸内海, 琉球列島に分布. 三重県では熊野灘沿岸の内湾や河川河口域のガレ場や牡蠣礁に単独で見られる. 頭長が胸鰭長に対して明らかに短いこと, 尾鰭に暗色斑は無く, 先が尖る



タネハゼ *Callogobius tanegasimae*, FRLM 55777, 43 mm SL, 英虞湾内座賀島
 ことで同属他種と区別される.
 (武藤 滉)

アゴハゼ属 Genus *Chaenogobius* Gill 1859

アゴハゼ
Chaenogobius annularis
Gill 1859

朝鮮半島南岸, 北海道から屋久島までの太平洋沿岸, 北海道から熊本県までの日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海に分布. 三重県では主に熊野灘沿岸の河川河口域や岩礁性海岸で見られる. 春から夏にかけて浮遊する幼魚の群れがタイドプール等で観察される. ドロメ *Chaenogobius*



アゴハゼ *Chaenogobius annularis*, FRLM 45470, 44 mm SL, 英虞湾内座賀島

gulosus (Sauvage 1882) に似るが, 胸鰭に黒色点列があり, 尾鰭が半透明で白い縁取りがないことで区別される.
 (武藤 滉)

ドロメ
Chaenogobius gulosus
(Sauvage 1882)

朝鮮半島, 済州島, 黄海, 日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸, 北海道から鹿児島県の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海に分布. 三重県では主に熊野灘沿岸の河川河口域や岩礁性海岸に生息. 近似のアゴハゼ *Chaenogobius annularis* Gill 1859 と比べ, 閉鎖的な内湾環境でよく見られる. アゴハゼとは胸鰭に黒色点



ドロメ *Chaenogobius gulosus*, FRLM 39907, 76 mm SL, 英虞湾内座賀島

列がなく, 尾鰭に白い縁取りがあることで区別される.
 (武藤 滉)

クロコハゼ属 Genus *Drombus* Jordan & Seale 1905

クロコハゼ
***Drombus* sp.**

西太平洋に分布. 日本では神奈川県から大隅諸島, 五島列島, 琉球列島に分布. 三重県では熊野灘流入河川の河口域でよく見られる. 胸鰭基部上部に三角形の白色斑があること, 第1背鰭中央に透明帯があること, 雄の第1背鰭に黒色斑があることなどで特徴づけられる.

(武藤 滉)

クロコハゼ *Drombus* sp.
 上 FRLM 64556, 23 mm SL
 尾鷲市賀田町
 下 紀北町銚子川 (松尾 怜撮影)



イソハゼ属 Genus *Eviota* Jenkins 1903

イソハゼ *Eviota abax* (Jordan & Snyder 1901)

済州島, 台湾, 日本では千葉県から屋久島の太平洋沿岸, 青森県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸, 琉球列島, 伊豆諸島, 小笠原諸島に分布. 三重県では志摩半島の岩礁性海岸の転石下や岩の窪みに生息. 胸鰭軟条は分岐すること, 腹鰭の鰭膜はよく発達すること, 鰓蓋下方と頭部背面に多数の暗色点があること, 胸鰭基部に2つの明瞭な黒色斑があることで区別される. (武藤 滉)



イソハゼ *Eviota abax*, FRLM 53540, 28 mm SL, 英虞湾内座賀島

ミナミイソハゼ *Eviota japonica* Jewett & Lachner 1983

台湾, 日本では三重県以南の太平洋沿岸, 大隅諸島, 琉球列島に分布. 三重県では熊野灘流入河川の河口域の牡蠣礁に生息する. 腹鰭の鰭膜は発達しないこと, 尾柄部に大きな黒色斑がないこと, 臀鰭基底に3暗色斑があること等で特徴づけられる. (武藤 滉)



ミナミイソハゼ *Eviota japonica*, FRLM 64559, 20 mm SL, 尾鷲市九鬼町

コジカイソハゼ *Eviota pellucida* Larson 1976

中・西部太平洋. 日本では口永良部島, 奄美大島, 喜界島, 石垣島, 西表島に分布する. 三重県では熊野灘海域の内湾から1標本が得られ, 本種の分布の北限を更新する記録である. 近似のアオイソハゼ *Eviota prasina* Jordan and Seale 1906 とは, 小赤色点が体背側に偏らず, 体側全体に規則的に分布すること等で区別できる. (武藤 滉)



コジカイソハゼ *Eviota pellucida*, FRLM 64560, 15 mm SL, 尾鷲市九鬼町

ナンヨウミドリハゼ *Eviota prasina* (Klunzinger 1871)

インドー西太平洋に分布. 日本では千葉県から屋久島の太平洋沿岸, 長崎県, 琉球列島, 伊豆諸島, 小笠原諸島に分布. 三重県では熊野灘沿岸の岩礁性海岸の転石下や岩の窪みに生息. 第2背鰭は通常9軟条であること, 尾柄部後方に1暗色斑があることで区別される. (武藤 滉)

ナンヨウミドリハゼ *Eviota prasina*
上 FRLM 63582, 19 mm SL
尾鷲市行野浦
下 FRLM 64573, 25 mm SL
志摩市志摩町片田



ヒメハゼ属

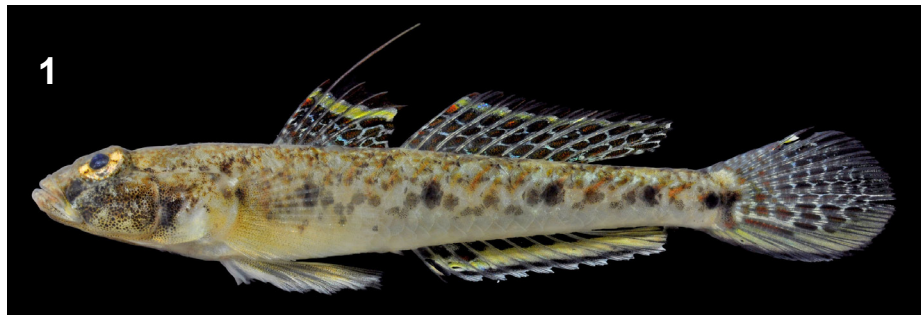
Genus *Favonigobius* Whitley 1930

ヒメハゼ

Favonigobius gymnauchen
(Bleeker 1860)

中国河北省, 朝鮮半島, 日本では北海道から鹿児島県までの太平洋沿岸, 日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 琉球列島に分布。河川河口域や内湾の砂底に生息。三重県では伊勢湾の沿岸域でふつうに見られる。雄の第1背鰭第2棘は伸長する。尾鰭基底中央にある黒斑は後方で二又することによって特徴づけられる。

(武藤 滉)

ヒメハゼ *Favonigobius gymnauchen*, FRLM 45469, 44 mm SL, 英虞湾内座賀島

ミナミヒメハゼ

Favonigobius reichei
(Bleeker 1854)

インドー西太平洋, 日本では静岡県, 三重県, 和歌山県, 高知県, 大分県, 大隅諸島, 沖縄諸島, 宮古諸島, 八重山諸島に分布。三重県では熊野灘流入河川の河口域の砂泥底か

ミナミヒメハゼ *Favonigobius reichei*, FRLM 64557, 23 mm SL, 尾鷲市賀田町

ら1標本が得られている。尾鰭基底に後縁が丸みを帯びる黒斑があること, 頬の黒斑が帯状であること, 下

顎の黒斑の幅が狭いことで特徴づけられる。(武藤 滉)

ヒメハゼ属の一種 D

Favonigobius sp. D
sensu Momose (2024)

台湾, 日本では神奈川県から鹿児島県の太平洋沿岸, 京都府, 長崎県に分布。三重県では熊野灘流入河川の河口域に生息する(百瀬, 2024)。ミナミヒメハゼ *Favonigobius reichei* (Bleeker 1854) やヒメハゼ属の一種 C *Favonigobius* sp. C (百瀬, 2024) によく似るが, 背鰭前方鱗の最多枚数

ヒメハゼ属の一種 D *Favonigobius* sp. D, FRLM 65804, 21 mm SL, 紀北町白浦

は4以上であること, 頬の黒斑は不明瞭で不規則であること, 頭高は体

長の13.7-15.8%であることで区別できる(百瀬, 2024)。(武藤 滉)

ウロハゼ属

Genus *Glossogobius* Gill 1859

ウロハゼ

Glossogobius olivaceus
(Temminck & Schlegel 1845)

東シナ海, 南シナ海, 台湾, 日本では福島県から九州南岸の太平洋沿岸, 新潟県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 五島列島, 種子島に分布。河川河口域や内湾の砂泥底や泥底に生息。三重県では伊勢湾の沿岸域でふつうに見られる。虹彩皮膜はなく, 後頭部背面に黒色点が散在することで区別される。

(武藤 滉)

ウロハゼ *Glossogobius olivaceus*, FRLM 29804, 127 mm SL, 英虞湾内座賀島

ユカタハゼ属 Genus *Hazeus* Jordan & Snyder 1901

ユカタハゼ *Hazeus otakii* Jordan & Snyder 1901

西部太平洋，日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸，長崎県，対馬，五島列島に分布．内湾の水深15–30 mの泥底や砂泥底に生息．第1背鰭と第2背鰭の第1棘は太くて硬く，頬や鰓蓋，背鰭前方は大型の鱗で覆われる，体側に5黒色斑が並ぶことで特徴づけられる．

(武藤 滉)



ユカタハゼ *Hazeus otakii*, FRLM 28178, 47 mm SL, 志摩市志摩町御座

ニラミハゼ属 Genus *Heteroplopomus* Tomiyama 1936

ニラミハゼ *Heteroplopomus barbatus* (Tomiyama 1934)

日本固有．青森県から九州南部の太平洋沿岸，青森県から九州南部の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海に分布．遠浅の海岸のやや深い砂泥底に見られる．ヒメハゼ属 *Favonigobius* Whitley 1930 に似るが，頭部がより縦扁し，下顎はそれほど前に突出しない．下顎覆面に明瞭な突起がある．

(武藤 滉)



ニラミハゼ *Heteroplopomus barbatus*, FRLM 58300, 36 mm SL, 伊勢市村松町沖

クツワハゼ属 Genus *Istigobius* Whitley 1932

クツワハゼ *Istigobius campbelli* (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島，済州島，東・南シナ海，日本では千葉県から屋久島までの太平洋沿岸，山形県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，琉球列島，小笠原諸島に分布．岩礁性海岸に堆積する砂礫底や砂底に単独で見られる．前鰓蓋下方に黒色斑はないこと，体側中央の暗色斑は円形であること，眼の後方から鰓蓋後方にかけて黒色



クツワハゼ *Istigobius campbelli*, FRLM 54649, 69 mm SL, 英虞湾内座賀島

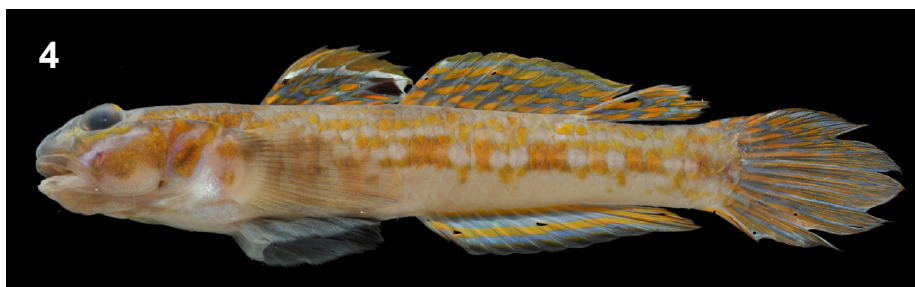
縦線があることで区別される．

(武藤 滉)

ホシノハゼ *Istigobius hoshinonis* (Tanaka 1917)

朝鮮半島，済州島，日本では千葉県から高知県の太平洋沿岸，秋田県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，奄美大島，沖縄島，伊豆諸島に分布．岩礁性海岸に堆積する砂礫底や砂底に単独で見られる．体側中央の暗色斑は四角形に近く，生鮮時に頬と前鰓蓋に青白色斜体があることで区別される．

(武藤 滉)



ホシノハゼ *Istigobius hoshinonis*, FRLM 38899, 67 mm SL, 尾鷲市九鬼町

カスリハゼ属 Genus *Mahidolia* Smith 1932

カスリハゼ *Mahidolia mystacina* (Valenciennes 1837)

インドー太平洋, 日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸, 島根県, 長崎県, 屋久島, 琉球列島, 八丈島に分布. 三重県では熊野灘沿岸の内湾から標本が得られている. 口は大きく, 上顎後端は眼の後端をはるかに超え, 特に雄で著しい. 日本では琉球列島で確認されているカスリハゼ属の一種 *Mahidolia* sp. 1 sensu Suzuki (2004) とは臀鰭の黒色縦帯は直線であること等により区別される. (武藤 滉)

カスリハゼ *Mahidolia mystacina*
上 ♂, FRLM 39891, 42 mm SL
尾鷲市賀田町
下 幼魚, FRLM 26589, 22 mm SL
志摩市志摩町御座



ハゴロモハゼ属 Genus *Myersina* Herre 1934

イトヒキハゼ *Myersina filifer* (Valenciennes 1837)

インドー西太平洋の温帯域に分布する. 国内では新潟県から熊本県にかけての日本海沿岸, 千葉県から高知県にかけての太平洋沿岸および瀬戸内海に分布する. 内湾の砂泥底に生息し, テッポウエビ類と単独で共生する. (武藤 滉)



イトヒキハゼ *Myersina filifer*, FRLM 55367, 92 mm SL, 英虞湾内座賀島

サツキハゼ属 Genus *Parioglossus* Regan 1912

サツキハゼ *Parioglossus dotui* Tomiya 1958

済州島, 香港, 日本では千葉県から種子島・屋久島の太平洋沿岸, 石川県から九州北西部の日本海・東シナ海沿岸, 対馬, 五島列島, 琉球列島, 八丈島に分布. 三重県では志摩半島以南の内湾や河川河口域に群れで生息. 体側中央に黒色縦帯が走ることでベニツケサツキハゼ *Parioglossus philippinus* (Maeda, Saeki & Satoh 1945) に似るが, 尾鰭の黒色斑は前後に長く, 後端は真後ろへ伸びることで区別される. (武藤 滉)

サツキハゼ *Parioglossus dotui*
英虞湾内座賀島
上 ♂, FRLM 41444, 33 mm SL
下 ♀, FRLM 55972, 35 mm SL



イレズミハゼ属 Genus *Priolepis* Valenciennes 1837

ミサキシジハゼ *Priolepis borea* (Snyder 1909)

済州島，台湾，日本では千葉県から愛媛県の太平洋沿岸，青森県から熊本県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，屋久島に分布．岩礁域の岩の隙間に単独で見られる．第1背鰭棘は糸状に伸長しないこと，頭部と胸鰭基底にのみ白色横帯があることで特徴づけられる．（武藤 滉）



ミサキシジハゼ *Priolepis borea*, KAUM-I. 172856, 24 mm SL, 鹿児島県

ヒトミハゼ属 Genus *Psammogobius* Smith 1935

ヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* (Valenciennes 1837)

インドー西太平洋，日本では静岡県から鹿児島県，大隅諸島，琉球列島に分布．三重県では熊野灘流入河川河口域の泥底に生息する．ウロハゼ属に似るが，虹彩被膜があること，腹鰭に黒色斜体があることで区別できる．（武藤 滉）



ヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus*, FRLM 64553, 60 mm SL, 尾鷲市賀田町

クロユリハゼ属 Genus *Ptereleotris* Gill 1863

クロユリハゼ *Ptereleotris evides* (Jordan & Hubbs 1925)

インドー太平洋，日本では千葉県から屋久島の太平洋沿岸，トカラ列島，琉球列島，伊豆諸島，小笠原諸島に分布．三重県では熊野灘沿岸の岩礁域に生息．成魚は体の後半部は黒青色で尾鰭の上下縁に黒色線がある．幼魚は尾鰭基底下部に1黒色斑があることで特徴づけられる．（武藤 滉）



クロユリハゼ *Ptereleotris evides*, KAUM-I. 82482, 65 mm SL, 鹿児島県徳之島

ハナハゼ *Ptereleotris hanae* (Jordan & Snyder 1901)

朝鮮半島，済州島，日本では千葉県から屋久島の太平洋沿岸，富山県から九州北西部の日本海・東シナ海沿岸，奄美大島，伊豆大島に分布．三重県では熊野灘沿岸の内湾に生息．リュウキュウハナハゼ *Ptereleotris* sp. やスミゾメハナハゼ *Ptereleotris rubristigma* Allen, Erdmann & Cahyani 2012 に似るが，第1背鰭が伸長しないこと，尾鰭の約6軟条が伸長すること，幼魚の尾鰭下葉基底に黒色斑がないことで区別される．（武藤 滉）



ハナハゼ *Ptereleotris hanae*, FRLM 46485, 78 mm SL, 志摩市志摩町御座

ベニハゼ属 Genus *Trimma* Jordan & Seale 1906

イチモンジハゼ *Trimma grammistes* (Tomiyama 1936)

韓国, 日本, 台湾に分布し, 日本では山形県から長崎県の日本海・東シナ海, 千葉県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆諸島, 屋久島に分布する. 三重県からは尾鷲市九鬼で水中撮影された記録がある. 本種は吻から頭部背面と尾鰭にかけて各々1本の黒色縦帯が走ることで同属他種と区別できる. (笹木大地)



イチモンジハゼ
Trimma grammistes
尾鷲市九鬼町
(松尾 怜撮影)

ヨウジウオ目 Order Syngnathiformes

セミホウボウ亜目 Suborder Dactylopteroidei

ウミテング科 Family Pegasidae Bonaparte 1831

テングノオトシゴ属 Genus *Pegasus* Linnaeus 1758

テングノオトシゴ *Pegasus laternarius* Cuvier 1829

インド南端からインドネシアの東インド洋, 西太平洋. 日本では鹿児島県から神奈川県に分布. 三重県では志摩市志摩町御座で稚魚が採集された. 吻は比較的短く, 尾輪数 11.
(木村清志)



テングノオトシゴ *Pegasus laternarius*, FRLM 55093, 45 mm SL, マレーシア

セミホウボウ科 Family Dactylopteridae Gill 1861

セミホウボウ属 Genus *Dactyloptena* Jordan & Richardson 1908

オキセミホウボウ *Dactyloptena gilberti* Snyder 1909

タイランド湾, ベンガル海, アラビア海に生息する. 国内では駿河湾, 三重県, 山口県, 九州, 沖縄で記録される. 本種は長い遊離棘と棘条背鰭の間に1本の短い遊離棘があること, 両眼間隔は非常に広く体長の16%以上であること, 吻は短く吻端はほぼ平坦であることから日本産同科他種と区別できる. (大島夢加)



オキセミホウボウ *Dactyloptena gilberti*, FRLM 33360, 125 mm SL, 尾鷲市

セミホウボウ
Dactyloptena orientalis
(Cuvier 1829)

紅海からツアモツ諸島、ハワイまでのインドー太平洋に広く分布する。国内では青森県以南、瀬戸内海および小笠原諸島に生息する。本種は長い遊離棘と棘条背鰭の間に1本の短い遊離棘があること、両眼間隔は中庸で体長の16%以下であること、吻は比較的長く吻端はやや尖ることによって日本産同科他種と区別できる。なお、臀鰭後端付近は暗色斑は変異が大きく、性徴の可能性もある。
 (大島夢加)



セミホウボウ *Dactyloptena orientalis*, FRLM 25968, 118 mm SL, 志摩市志摩町御座

ホシセミホウボウ
Dactyloptena peterseni
(Nyström 1887)

台湾からオーストラリア北西岸の西太平洋および南アフリカに分布する。国内では北海道白尻以南に生息する。三重県では尾鷲市から標本が得られている。本種は長い遊離棘と棘条背鰭の間に1本の短い遊離棘がないこと、吻が比較的短く先端は尖らないこと、体側の鱗には1本の隆起線があることで日本産同科他種と区別できる。なお、本種の属名はFricke et al. (2025) にしたがった。
 (大島夢加)



ホシセミホウボウ *Dactyloptena peterseni*, FRLM 34508, 278 mm SL, 尾鷲市

ヒメジ亜目 (新称) Suborder Mulloidei

ヒメジ科 Family Mullidae Rafinesque 1815

アカヒメジ属 Genus *Mulloidichthys* Whiteley 1929

モンツキアカヒメジ
Mulloidichthys flavolineatus
***flavolineatus* (Lacepède 1801)**

インドー太平洋に分布。神奈川県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、伊豆諸島、小笠原諸島から記録がある。三重県では熊野灘の定置網で数個体の標本が得られている。体高が低く、体長の21-25%であること、第1背鰭の下方に縦帯状に1暗色斑があること(不明瞭な場合もある)で日本産同属他種と区別することができる。興奮すると体の地色が白色から濃桃色に変化する。(宿女太志)



モンツキアカヒメジ *Mulloidichthys flavolineatus flavolineatus*, FRLM 63049 154 mm SL, 尾鷲市

アカヒメジ
Mulloidichthys vanicolensis
(Valenciennes 1831)

インドー太平洋に分布。日本では山口県日本海沿岸，千葉県以南の太平洋沿岸，瀬戸内海，大隅諸島以南，小笠原諸島から記録がある。三重県では熊野灘沿岸域の定置網で漁獲されている。体高が高く，体長の26-30%であること，体側に黒色斑がないこと，生時，体側に黄色1縦帯があり，鰭膜は暗褐色であることで日本産同属他種と区別できる。しばしば色彩がよく似たヨスジフエダイ *Lutjanus kasmira* (Fabricius 1775)



アカヒメジ *Mulloidichthys vanicolensis*, FRLM 65326, 189 mm SL, 尾鷲市

と混群を形成することが知られている。
 (宿女太志)

ウミヒゴイ属 Genus *Parupeneus* Bleeker 1863

インドヒメジ
Parupeneus barberinoides
(Bleeker 1852)

インドー西太平洋に分布。日本では山口県日本海側，福岡県，千葉県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南，八丈島，小笠原諸島から記録がある。三重県での生息数は多くはないが，志摩市の定置網から標本が得られている。体側は前半が暗褐色で後半が淡褐色の特徴的な体色であることで日本産同属他種と区別できる。
 (宿女太志)



インドヒメジ *Parupeneus barberinoides*, FRLM 37165, 90 mm SL, 志摩市志摩町御座

オオスジヒメジ
Parupeneus barberinus
(Lacepède 1801)

インドー太平洋に分布。日本では神奈川県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南，八丈島，小笠原諸島から記録がある。三重県では志摩市から標本が得られている。体側上方に黒色の1縦帯があること，尾柄部の側線上に1黒褐色斑があることで日本産同属他種と区別できる。(宿女太志)



オオスジヒメジ *Parupeneus barberinus*, FRLM 51933, 82 mm SL, 英虞湾内座賀島

ミナベヒメジ
Parupeneus biaculeatus
(Richardson 1846)

中国，ベトナムなどの東シナ海・南シナ海沿岸に分布。日本では山口県日本海側，長崎県，三重県以南の太平洋沿岸，種子島・屋久島から記録がある。三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りで漁獲される。オキナヒメジ *Parupeneus spilurus* (Bleeker 1854) とハウライヒメジ *Parupeneus ciliatus* (Lacepède 1802) に似るが，ひげが白色であること，第2背鰭と臀鰭に白色斑がないこと，および尾柄部に黒斑鞍状斑がないことで区別できる。
 (宿女太志)



ミナベヒメジ *Parupeneus biaculeatus*, FRLM 56080, 260 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

ウミヒゴイ

Parupeneus chrysopleuron
(Temminck & Schlegel 1843)

東インド洋，西太平洋に分布．日本では山口県日本海側，東シナ海沿岸，青森県，千葉県以南の太平洋沿岸，瀬戸内海，大隅諸島以南，小笠原諸島から記録がある．三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りで漁獲される．ひげは鰓蓋後縁下に達しないこと，体側に1黄色縦帯があること，尾柄部に斑紋がないことで日本産同属他種と区別できる．成魚では他のウミヒゴイ属魚類と比較し頭部が非常に大きくなる．（宿女太志）



ウミヒゴイ *Parupeneus chrysopleuron*, FRLM 55562, 194 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

ハウライヒメジ

Parupeneus ciliatus
(Lacepède 1802)

インドー太平洋に分布．日本では山形県，福井県，兵庫県，山口県日本海側，福岡県，千葉県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南，八丈島，小笠原諸島から記録がある．三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りでよく漁獲される．ひげは黄色で鰓蓋後縁下に達しないこと，頭部から体側にかけて2暗赤色縦帯があり，尾柄部の黒色鞍状斑は側線を大きく越えることで日本産同属他種と区別できる．（宿女太志）



ハウライヒメジ *Parupeneus ciliatus*, FRLM 54660, 236 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

タカサゴヒメジ

Parupeneus heptacanthus
(Lacepède 1802)

インドー西太平洋に分布．日本では京都府，山口県日本海側，東シナ海沿岸，宮城県，千葉県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南から記録がある．三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りでよく漁獲される．ひげは長く，鰓蓋後端に達し，吻の背面は急峻，第1背鰭下方に暗赤褐色の斑点があることで日本産同属他種と区別できる．死後，暗赤褐色は退色することが多い．（宿女太志）



タカサゴヒメジ *Parupeneus heptacanthus*, FRLM 36801, 102 mm SL, 志摩市志摩町御座

コバンヒメジ

Parupeneus indicus
(Shaw 1803)

インドー西太平洋に分布．日本では山口県日本海沿岸，東シナ海沿岸，千葉県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南，八丈島から記録がある．三重県では熊野灘沿岸で幼魚が見られることが多い．体側に楕円形の1黄色斑があり暗色横帯がなく，尾柄部の側線上に1黒褐色斑があることで日本産同属他種と区別できる．（宿女太志）



コバンヒメジ *Parupeneus indicus*, FRLM 51885, 64 mm SL, 英虞湾内座賀島

オジサン

***Parupeneus multifasciatus*
(Quoy & Gaimard 1825)**

東インド洋，太平洋に分布。日本では山口県日本海側，東シナ海沿岸，千葉県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南，八丈島，小笠原諸島から記録がある。三重県ではやや稀。第2背鰭下と尾柄部背面に2暗色横帯があること，ひげは長く前鰓蓋骨後端をはるかに超え色は白から黄色であることで日本産同属他種と区別できる。
(宿女太志)



オジサン *Parupeneus multifasciatus*, FRLM 45182, 84 mm SL, 尾鷲市九鬼町

オキナヒメジ

***Parupeneus spilurus*
(Bleeker 1854)**

東インド洋，西太平洋に分布。日本では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸，青森県，岩手県，茨城県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南，八丈島，小笠原諸島から記録がある。三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りによく漁獲される。ハウライヒメジ *Parupeneus ciliatus* (Lacepède 1802) とよく似るが，臀鰭が低いこと，尾柄部の黒色鞍状斑は左右に分かれることが多く，側線を越えないことで区別することができる。
(宿女太志)



オキナヒメジ *Parupeneus spilurus*, FRLM 56115, 296 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

ヒメジ属 Genus *Upeneus* Cuvier 1829

サクヤヒメジ

***Upeneus itoui*
Yamashita, Golani &
Motomura 2011**

台湾などの東シナ海沿岸に分布。日本では三重県，愛媛県，高知県，宮崎県，鹿児島県，種子島，沖縄県から記録がある。ヨメヒメジ *Upeneus tragula* Richardson 1846 によく似るが，ひげが白いことで区別できる。近年記載された種であり，三重県では尾鷲市から標本が得られている。
(宿女太志)



サクヤヒメジ *Upeneus itoui*, FRLM 63036, 114 mm SL, 尾鷲市

ヒメジ

***Upeneus japonicus*
(Houttuyn 1782)**

中国，台湾，韓国などの東シナ海沿岸に分布。日本では北海道以南の日本海・東シナ海沿岸・太平洋沿岸，瀬戸内海，大隅諸島以南，小笠原諸島から記録がある。三重県では全域で見られ，小型の定置網や底曳網でよく漁獲される。ひげは黄色く，尾鰭上葉に2-4本の暗色帯があり，生時，体側に縦帯がないことで日本産同属他種と区別できる。
(宿女太志)



ヒメジ *Upeneus japonicus*, FRLM 50670, 119 mm SL, 尾鷲市

キスジヒメジ
Upeneus moluccensis
(Bleeker 1855)

インドー西太平洋に分布。日本では三重県、高知県、宮崎県、鹿児島県、大隅諸島以南から記録がある。三重県では熊野灘沿岸域の定置網で漁獲されている。尾鰭上葉に6-7本の暗色帯があること、生時、体側に明るい黄色の1縦帯があること、第1背鰭は8棘(最前端の1棘は小さい)であることで日本産同属他種と区別できる。幼魚では体側の1縦帯が橙色がかり、細いことが多い。

(宿女太志)

ヨメヒメジ
Upeneus tragula
Richardson 1846

インドー西太平洋に分布。日本では福井県、兵庫県、山口県日本海側、東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、大隅諸島以南、八丈島から記録がある。三重県では全域で見られ、定置網で漁獲される。ひげは黄色で短く、尾鰭両葉に複数の暗色帯があること、体側に1暗色縦帯があり黒褐色斑点が散在することで日本産同属他種と区別できる。

ミナミヒメジ
Upeneus vittatus
(Forsskal 1775)

インドー太平洋に分布。日本では千葉県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南から記録がある。三重県では熊野灘沿岸域の定置網で漁獲されている。尾鰭両葉に複数の暗色帯があり中央部の幅は特に広いこと、体側に複数の黄色縦帯があり、斑点がないこと、第1背鰭の先端は黒いことで日本産同属他種と区別できる。

(宿女太志)



キスジヒメジ *Upeneus moluccensis*, FRLM 43168, 96 mm SL, 志摩市志摩町御座



ヨメヒメジ *Upeneus tragula*, FRLM 42351, 163 mm SL, 尾鷲市
 単独または少ない個体数で浅場に生息していることが多い。(宿女太志)



ミナミヒメジ *Upeneus vittatus*, FRLM 61737, 156 mm SL, 尾鷲市

ネズッポ亜目 Suborder Callionymoidei

ネズッポ科 Family Callionymidae Bonaparte 1831

トンガリヌメリ属 Genus *Bathycallionymus* Nakabo 1982

ソコヌメリ
Bathycallionymus sokonumeri
(Kamohara 1936)

現在のところ日本のみ、国内では宮崎県から愛知県、山口県に分布。三重県では熊野灘の底曳網で採集された。尾鰭中央部の2軟条は不分枝、背鰭最後軟条は基部で分枝するのみに先端近くで分枝することはない、雄の背鰭第1棘は伸長しない、雌の背鰭の黒斑は円形に近い。

(木村清志)



ソコヌメリ *Bathycallionymus sokonumeri*, FRLM 63182, 78 mm SL, 熊野灘

ヨメゴチ属 Genus *Calliurichthys* Jordan & Fowler 1903

ヨメゴチ *Calliurichthys japonicus* (Houttuyn 1782)

インドネシア，タイから日本に至る西太平洋．日本では鹿児島県から千葉県・新潟県に分布する．三重県では熊野灘の定置網で漁獲される．左右の側線は尾柄部背面で連結する，後頭部に骨質隆起がある，雌と幼魚の第1背鰭に眼状斑がある，雄の第1，2棘は伸長する．

(木村清志)



ヨメゴチ *Calliurichthys japonicus*

上 ♂, FRLM 26534, 212 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

下 ♀, FRLM 41721, 130 mm SL, 志摩市志摩町御座

オオクチヌメリ属 Genus *Eleutherochir* Bleeker 1879

バケヌメリ *Eleutherochir mirabilis* (Snyder 1911)

中国黄海，渤海，日本．日本では宮崎県・新潟県から北海道．三重県では伊勢湾や鳥羽湾で採集された．第1背鰭がなく，背鰭は軟条のみからなる．

(木村清志)



バケヌメリ *Eleutherochir mirabilis*, 鈴鹿市 (津本欣吾氏撮影)

ベニテグリ属 Genus *Foetorepus* Whitley 1931

ベニテグリ *Foetorepus altivelis* (Temminck & Schlegel 1845)

インドネシアからフィリピン，日本に至る東インド洋，西太平洋．日本では鹿児島県から静岡県・兵庫県に分布．三重県では熊野灘の底曳網で漁獲される．第2背鰭軟条はほぼすべて分枝する，臀鰭最後軟条は基部と先端部で分枝する，生鮮時の体色は茶褐色から赤橙色．

(木村清志)



ベニテグリ *Foetorepus altivelis*, 熊野灘

上 ♂, FRLM 61379, 143 mm SL

下 ♀, FRLM 61380, 136 mm SL

コウワンテグリ属 Genus *Neosynchiropus* Nalbant 1979

ヤマドリ

Neosynchiropus ijimai
(Temminck & Schlegel 1845)

現在のところ日本のみ。国内では宮崎県から千葉県，長崎県から北海道に分布する。三重県では志摩市で採集された。背鰭軟条の先端は2分枝，臀鰭軟条は最後を除いて不分枝，前鰓蓋骨棘基部に前向棘がある。

(木村清志)



ヤマドリ *Neosynchiropus ijimai*, FRLM 54867, 83 mm SL, 志摩市志摩町御座

ハナビヌメリ属 Genus *Paradiplogrammus* Nakabo 1982

ハナビヌメリ

Paradiplogrammus enneactis
(Bleeker 1879)

シンガポールからソロモン諸島，日本，ニューカレドニアに至る東インド洋，西太平洋。日本では沖縄県から千葉県，長崎県から兵庫県に分布する。三重県では志摩市の海岸で採集された。前鰓蓋骨棘の内向棘は3本で外側基部にある前向棘は強大。

(木村清志)



ハナビヌメリ

Paradiplogrammus enneactis

上 ♂, FRLM 56093, 75 mm SL

英虞湾内座賀島

中 ♀, FRLM 41466, 42 mm SL

英虞湾内座賀島

下 ♂, FRLM 48727, 37 mm SL

沖縄県西表島

ネズッポ属

Genus *Repomucenus* Whitley 1931

トビヌメリ

Repomucenus beniteguri
(Jordan & Snyder 1900)

中国南シナ海・東シナ海, 黄海から台湾, 韓国, 日本に至る北西太平洋. 日本では宮崎県・長崎県から北海道に分布する. 三重県では伊勢湾や熊野灘沿岸の砂底に多い. 雄成魚の臀鰭に細い暗色斜帯がある, 第1背鰭に眼状斑がない, 幼魚と雌成魚の腹側面の白斑は小円形.

(木村清志)



トビヌメリ *Repomucenus beniteguri*

上 ♂, FRLM 49053, 112 mm SL, 志摩市浜島町

下 ♀, FRLM 37789, 94 mm SL, 志摩市志摩町御座

ネズミゴチ

Repomucenus curvicornis
(Valenciennes 1837)

ベトナム北部から中国南シナ海・東シナ海沿岸, 韓国, 日本に至る北西太平洋. 日本では鹿児島県から北海道に分布する. 三重県では伊勢湾や熊野灘沿岸の砂泥底に多い. 雄成魚の体腹側面に暗色斜線がある, 雌と幼魚の第1背鰭に明瞭な眼状斑がある.

(木村清志)



ネズミゴチ *Repomucenus curvicornis*

上 ♂, FRLM 40904, 150 mm SL, 志摩市志摩町御座

下 ♀, FRLM 40303, 99 mm SL, 英虞湾

ヤリヌメリ

Repomucenus huguenini
(Bleeker 1858)

中国南シナ海・東シナ海・黄海, 韓国, 日本に至る北西太平洋. 日本では鹿児島県から北海道に分布する. 三重県では熊野灘の定置網で漁獲される. 前鰓蓋骨棘は細長く, 内向棘は小さく鋸歯状.

(木村清志)



ヤリヌメリ *Repomucenus huguenini*

上 ♂, FRLM 45831, 124 mm SL, 熊野市二木島町

下 ♀, FRLM 40701, 112 mm SL, 南伊勢町奈屋浦

ヌメリゴチ

***Repomucenus lunatus*
(Temminck & Schlegel 1845)**

中国東シナ海・黄海，台湾，韓国，日本に至る北西太平洋．日本では鹿児島県から北海道に分布する．三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網，底曳網で漁獲される．雄の第1棘は伸長し，第1背鰭後部に黒斑がある，雌の第1背鰭はほぼ一様に黒色．
(木村清志)

ヌメリゴチ *Repomucenus lunatus*

上 ♂, FRLM 51086, 85 mm SL, 志摩市志摩町御座

下 ♀, FRLM 36884, 89 mm SL, 南伊勢町宿浦

セトヌメリ

***Repomucenus ornatipinnis*
(Regan 1905)**

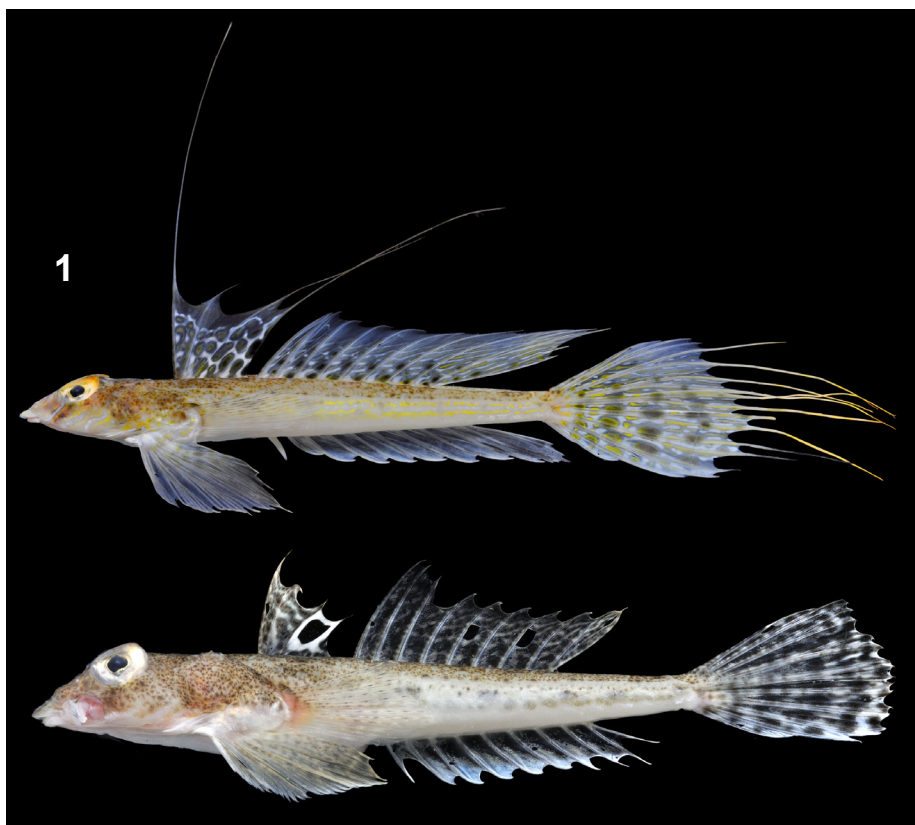
中国東シナ海・黄海，台湾，韓国，日本に至る北西太平洋．日本では三重県から北海道，有明海，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網で漁獲される．雄の臀鰭は一様に淡灰色，雌の第1背鰭後部は黒い，幼魚と雌成魚の腹側面の白斑は長円形．
(木村清志)

セトヌメリ *Repomucenus ornatipinnis*, FRLM 20645, 98 mm SL, 志摩市志摩町御座

ハタタテヌメリ

***Repomucenus valencienni*
(Temminck & Schlegel 1845)**

中国南シナ海・東シナ海，韓国，日本に至る北西太平洋．日本では鹿児島県から北海道に分布する．三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網などで漁獲される．泥底に多い．尾鰭のほぼ全域に黒斑が散在する，雄では背鰭棘や尾鰭軟条が糸状に伸長する，幼魚と雌成魚の第1背鰭後部に明瞭な眼状斑がある．
(木村清志)

ハタタテヌメリ *Repomucenus valencienni*

上 ♂, FRLM 45464, 106 mm SL, 英虞湾内座賀島

下 ♀, FRLM 49049, 79 mm SL, 志摩市志摩町御座

ホロヌメリ
Repomucenus virgis
(Jordan & Fowler 1903)

中国東シナ海，韓国，日本に至る北西太平洋．日本では宮崎県から福島県，長崎県から青森県に分布する．三重県では伊勢湾口の砂底域で採集された．尾鰭のほぼ全域に黒斑が散在する，雄の第1背鰭は著しく大きい，雌の第2背鰭はほとんど斑紋がない．
 (木村清志)



ホロヌメリ♂ *Repomucenus virgis*, FRLM 39017, 50 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

ヨウジウオ亜目 Suborder Syngnathoidei

ヘラヤガラ科 Family Aulostomidae Rafinesque 1815

ヘラヤガラ属 Genus Aulostomus Lacepède 1803

ヘラヤガラ
Aulostomus chinensis
(Linnaeus 1766)

ハワイ諸島を含むインドー太平洋に広く分布する．国内では主に小笠原諸島，九州南岸以南に生息するが，相模湾以南の太平洋沿岸や若狭湾でも確認される．本科は国内では本種1種のみ．吻と頭部は著しく側扁する．三重県では稀．
 (大島夢加)



ヘラヤガラ *Aulostomus chinensis*, FRLM 63037, 495 mm SL, 尾鷲市

ヤガラ科 Family Fistulariidae Stark 1828

ヤガラ属 Genus Fistularia Linnaeus 1758

アオヤガラ
Fistularia commersonii
Rüppell 1838

紅海およびハワイ諸島を含むインドー太平洋に広く分布する．国内では小笠原諸島を含む北海道以南に生息する．三重県では熊野灘に分布し，伊勢湾からも標本が得られている．本科魚類はヘラヤガラ *Aulostomus chinensis* (Linnaeus 1766) と形態が似



アオヤガラ *Fistularia commersonii*, FRLM 29172, 343 mm SL, 志摩市志摩町御座上
 FRLM 29172, 343 mm SL, 志摩市志摩町御座上
 下 FRLM 57406, 142 mm SL, 英虞湾内座賀島

るが，体型が円筒であることや尾鰭 できる．
 中央軟条が糸状に伸びることで区別
 (大島夢加)

アカヤガラ
Fistularia petimba
Lacepède 1803

紅海およびハワイ諸島を含むインドー太平洋に広く分布する．国内では小笠原諸島を含む北海道以南に生息する．アオヤガラ *Fistularia commersonii* Rüppell 1838 よりも沖合に生息し，生時の体色が赤いこと，



アカヤガラ *Fistularia petimba*, FRLM 31582, 579 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

背中線上に鱗がないこと，尾柄部の 別できる．
 側線鱗に鋭い後向棘が無いことで区
 (大島夢加)

サギフエ科 Family Macroramphosidae Bleeker 1879

サギフエ属 Genus *Macroramphosus* Lacepède 1803

ダイコクサギフエ *Macroramphosus japonicus* (Günther 1861)

中国東シナ海・黄海、韓国、日本の北西太平洋。日本では沖縄県から岩手県、新潟県に分布。三重県では熊野灘や伊勢湾の定置網や底曳網などで漁獲される。背鰭第2棘の後縁はほぼ円滑で、先端は第2背鰭基底後端を越えない。なお Koeda (2019) は台湾南部産の本種（あるいは本種の類似種）に対して *Macroramphosus scolopax* (Linnaeus 1758) の学名を適用している。サギフエ科はヘコアユ科 Centriscidae Bonaparte 1831 内の亜科とされることも多いが、ここでは科とした。（木村清志）



ダイコクサギフエ *Macroramphosus japonicus*, FRLM 33585, 159 mm SL, 熊野灘



サギフエ *Macroramphosus sagifue*, FRLM 33584, 112 mm SL, 熊野灘

サギフエ *Macroramphosus sagifue* Jordan & Starks 1902

日本、東シナ海、鹿児島県から北海道に分布する。主に熊野灘の底曳網で漁獲される。体長 50 mm 以上

の個体では背鰭第2棘の後縁に鋸歯があり、また体長 120 mm 以上の個体では背鰭第2棘の先端は尾鰭基底に達する。（木村清志）

ヨウジウオ科 Family Syngnathidae Bonaparte 1831

イシヨウジ属 Genus *Corythoichthys* Kaup 1853

イシヨウジ *Corythoichthys haematopterus* (Bleeker 1851)

アフリカ東岸からバヌアツ、ニューカレドニア、日本に至るインド-西太平洋。日本では沖縄県から神奈川県、新潟県に分布。三重県で



イシヨウジ *Corythoichthys haematopterus*, FRLM 45829, 126 mm SL, 熊野市二木島町

は尾鷲市の熊野灘沿岸で採集された。吻は比較的短く、躯幹輪数は通常 17、背鰭に暗色斑がない。（木村清志）

ウミヤッコ属 Genus *Halicampus* Kaup 1856

ホシヨウジ *Halicampus punctatus* (Kamohara 1952)

日本、長崎県から山形県、鹿児島県から神奈川県。三重県では志摩市阿児町安乗沖の砂底で採集された。躯幹部腹側面に眼状斑が並ぶ。背鰭



ホシヨウジ *Halicampus punctatus*, FRLM 39016, 95 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

基底部の体輪は盛り上がる、体輪数 14-15 + 33-35。（木村清志）

カワヨウジ属 Genus *Hippichthys* Bleeker 1849

カワヨウジ *Hippichthys spicifer* (Rüppell 1838)

紅海、アフリカ東岸からサモア、日本、オーストラリアに至るインド-太平洋。日本では沖縄県から千葉県、河川下流域などに生息する。三



カワヨウジ *Hippichthys spicifer*, FRLM 42582, 128 mm SL, 尾鷲市

重県では英虞湾や尾鷲市で採集された。躯幹部の腹面に白色黄帯が並ぶ。躯幹部中央隆起線の後端は下方に屈曲する。背鰭始部は第2尾輪上あるいはそれより後方に位置する。（木村清志）

ガンテンイシヨウジ
Hippichthys penicillus
(Cantor 1849)

ペルシャ湾からニューギニア、日本、オーストラリアに至るインド-西太平洋。日本では、鹿児島から静岡県、石川県に分布する。藻場や河川下流域に生息する。三重県では英



ガンテンイシヨウジ *Hippichthys penicillus*, FRLM 50812, 114 mm SL
 英虞湾内座賀島

虞湾や伊勢湾流入河川下流部で採集されている。腹部の中央隆起線はよく発達する。軀幹部中央隆起線後端は直線状。
 (木村清志)

タツノオトシゴ属 Genus *Hippocampus* Rafinesque 1810

タツノオトシゴ
Hippocampus coronatus
Temminck & Schlegel 1850

中国東シナ海、黄海、渤海沿岸、韓国および日本。日本では鹿児島県から青森県に分布。三重県では伊勢湾口から熊野灘沿岸に広く分布する。軀幹輪数 10, 頂冠の先端は後方に曲がる。
 (木村清志)



タツノオトシゴ *Hippocampus coronatus*
 FRLM 53269, 58 mm H
 志摩市志摩町越賀



サンゴタツ *Hippocampus mohnikei*,
 FRLM 55992, 41 mm H
 英虞湾内座賀島

ハナタツ
Hippocampus sindonis
Jordan & Snyder 1901

広島県、山口県、和歌山県から千葉県の日本。三重県では熊野灘沿岸のエビ刺網で混獲される。軀幹輪数 10 でタツノオトシゴ *Hippocampus coronatus* Temminck & Schlegel 1850 によく似るが、頂冠の先端が後方に曲がることはなく、頂冠の左右の縁辺が棘状になることで区別できる。
 (木村清志)



ハナタツ *Hippocampus sindonis*
 FRLM 44075, 80 mm H
 志摩市志摩町御座



タカクラタツ *Hippocampus trimaculatus*
 FRLM 58527, 116 mm H
 英虞湾内座賀島

タカクラタツ
Hippocampus trimaculatus
Leach 1814

南インドからソシエテ諸島、日本、オーストラリアに至る東インド洋、西太平洋。日本では沖縄から北海道に分布する。三重県では熊野灘沿岸で採集される。軀幹輪数 11, 頂冠は不明瞭、背鰭軟条 18-22, 胸鰭軟条 15-20, 通常軀幹部背側に 3 黒斑をもつ。
 (木村清志)

タニヨウジ属 (新称) Genus *Lophocampus* Dawson 1984

タニヨウジ *Lophocampus retzii* (Bleeker 1856)

インドネシアからサモア, 日本に至る西太平洋, 中部太平洋. 日本では八重山諸島, 奄美大島, 種子島, 宮崎県, 和歌山県, 三重県, 静岡県



タニヨウジ *Lophocampus retzii*, KPM-NI 49567, 83 mm SL, 石垣島 (瀬能 宏氏撮影)

から記録がある. 三重県では南部の河川から記録された (酒井, 2021). 本種は河川淡水域に生息する. 軀幹

部と尾部の下隆起線は不連続, 軀幹部は尾部より短い, 軀幹輪数 15-27. 環境省絶滅危惧 IA 類. (木村清志)

カンムリヨウジ属 Genus *Micrognathus* Duncker 1912

カンムリヨウジ *Micrognathus andersonii* (Bleeker 1858)

紅海, アフリカ東岸から日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋. 日本では琉球列島から静岡県に分布する. 三重県では尾鷲市で採集



カンムリヨウジ *Micrognathus andersonii*, FRLM 64549, 35 mm SL, 尾鷲市九鬼町

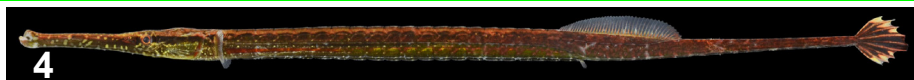
された. 軀幹部と尾部の上下隆起線は不連続, 軀幹部は尾部より短い, 背鰭軟条数 17-24, 軀幹輪数通常

16-17, 尾部後方の隆起線は棘状にならない. (木村清志)

テングヨウジ属 Genus *Microphis* Leach 1814

テングヨウジ *Microphis brachyurus* (Bleeker 1854)

インドからソシエテ諸島, 日本, ニューカレドニアに至る東インド洋, 西太平洋. 日本では琉球列島から茨城県. 河川下流域から汽水域に生息する. 三重県では伊勢湾, 熊野灘沿岸の河川下流や河口で採集された. 軀幹部と尾部の下隆起線は不



テングヨウジ *Microphis brachyurus*, FRLM 57397, 146 mm SL, 英虞湾内座賀島

連続, 軀幹部は尾部より長い, 吻長は頭長の 55-67%, 軀幹輪数 19-22. *Microphis brachyurus* は生息域によって, 東太平洋 - *Microphis brachyurus aculeatus* (Kaup 1856), 東インド洋から西太平洋 - *M. brachyurus brachyurus*, 西大西洋 - *Microphis*

brachyurus lineatus (Kaup 1856), 西インド洋 - *Microphis brachyurus millepunctatus* (Kaup 1856) の 4 亜種に分けられることもあるが, ここでは Kuitert (2009) や Fricke et al. (2025) にしたがって, それぞれを種とした. (木村清志)

トゲヨウジ属 Genus *Syngnathoides* Linnaeus 1758

トゲヨウジ *Syngnathoides biaculeatus* (Bloch 1785)

紅海, アフリカ東岸からサモア, 日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋. 日本では琉球列島から茨城県, 兵庫県. 三重県では伊勢湾, 熊野灘沿岸から採集された. 尾鰭がない, 頭部はほぼ体軸と同一線上に



トゲヨウジ *Syngnathoides biaculeatus*, FRLM 41753, 233 mm TL, 英虞湾内座賀島

ある, 軀幹部と尾部の上隆起線は連続する. (木村清志)

ヨウジウオ属 Genus *Syngnathus* Linnaeus 1758

ヨウジウオ *Syngnathus schlegelii* Kaup 1853

ベトナム北部, 中国南シナ海から台湾, 朝鮮半島, 日本, 沿海州に至る北西太平洋. 日本では鹿児島県から北海道に分布する. 内湾の藻場な



ヨウジウオ *Syngnathus schlegelii*, FRLM 50776, 186 mm SL, 英虞湾内座賀島

どでよくみられる. 三重県では伊勢湾や熊野灘の沿岸で普通にみられる. 軀幹部と尾部の上隆起線は不連

続で下隆起線は連続, 体の各隆起線は鋸歯状でなく, 鰓蓋の隆起線は未発達 (稚魚を除く). (木村清志)

ヒフキョウジ属 Genus *Trachyrhamphus* (Temminck & Schlegel 1850)

ヒフキョウジ *Trachyrhamphus serratus* (Temminck & Schlegel 1850)

パキスタンから日本までのインドー西太平洋。日本では鹿児島県から岩手県、新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網などで採集され



ヒフキョウジ *Trachyrhamphus serratus*, FRLM 41969, 207 mm SL, 志摩市志摩町御座

た。軀幹部は尾部より短い、体輪 眼の後縁ー胸鰭基底中央間よりも短
数 21-21 + 41-50, 吻は短く、吻長は い。(木村清志)

オクヨウジ属 Genus *Urocampus* Günther 1870

オクヨウジ *Urocampus nanus* Günther 1870

中国北東部、朝鮮半島および日本。日本では鹿児島県から北海道に分布する。内湾アマモ場でよくみられる。



オクヨウジ *Urocampus nanus*, FRLM 50813, 118 mm SL, 英虞湾内座賀島

三重県では英虞湾や松阪市で採集され続する。吻長は眼後頭長に等しい。
れた。軀幹部と尾部の上隆起線は連 (木村清志)

サバ目 Order Scombriformes

イボダイ亜目 Suborder Stromateoidei

イボダイ科 Family Centrolophidae Bonaparte 1846

メダイ属 Genus *Hyperoglyphe* Günther 1859

メダイ *Hyperoglyphe japonica* (Döderlein 1884)

台湾、韓国、日本。日本では奄美大島から北海道に分布。三重県では熊野灘の釣りで漁獲される。幼魚は流れ藻につき、定置網で採集される。体は暗色、頬部は無鱗、背鰭棘は短い。明瞭。(木村清志)



メダイ *Hyperoglyphe japonica*
上 FRLM 65641, 372 mm SL, 志摩市志摩町和具沖
左 幼魚, FRLM 37626, 48 mm SL, 志摩市志摩町御座

イボダイ属 Genus *Psenopsis* Gill 1862

イボダイ *Psenopsis anomala* (Temminck & Schlegel 1844)

ベトナム北部から中国南シナ海・東シナ海沿岸、台湾、韓国、日本、オーストラリア。日本では鹿児島県から北海道。三重県では伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網で漁獲される。体は銀灰色、頬部は無鱗、背鰭棘は不明瞭、側線鱗数 55-63。(木村清志)

イボダイ *Psenopsis anomala*,
FRLM 39798, 129 mm SL,
志摩市大王町波切



ニセイボダイ
Psenopsis shojimai
Ochiai & Mori 1965

マレーシア, ベトナム, 日本. 日本では九州から北海道. 三重県では熊野灘の定置網で採集された. 体は銀灰色, 頬部は無鱗, 背鰭棘は不明瞭, 側線鱗数 62-70, イボダイ *Psenopsis anomala* (Temminck & Schlegel 1844) に比べて吻がやや突出する. (木村清志)



ニセイボダイ *Psenopsis shojimai*, FRLM 55975, 199 mm SL, 志摩市志摩町和具

エボシダイ科 Nomeidae Günther 1860

ボウズコンニャク属 Genus *Cubiceps* Lowe 1843

オキメダイ
Cubiceps baxteri
McCulloch 1923

日本, オーストラリア, ロードハウ島, ハワイ諸島, 米国カリフォルニア南部からチリ南部, 東部大西洋. 日本では鹿児島県から神奈川県にかけて分布する. 三重県では南伊勢町 (Suzuki et al., 1995) や尾鷲市で採集された. 眼は大きく, 眼径は吻長より長い, 眼の上後方に無鱗域がない,



オキメダイ *Cubiceps baxteri*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

胸鰭は長く第2背鰭始部をとる垂線をはるかに越える, 胸鰭は一律に黒い. 写真は尾鷲市で漁獲されたもの. (木村清志)

ホソオキメダイ
Cubiceps pauciradiatus
Günther 1872

全世界の熱帯から暖海域. 日本では高知県から神奈川県, 小笠原諸島などから記録がある. 三重県では熊野灘の巻網で漁獲された. 眼の上後方に無鱗域がない, 胸鰭はやや短く第2背鰭始部をとる垂線に達しないかわずかに越える, 頬部の被鱗域は吻端近くに達する. (木村清志)



ホソオキメダイ *Cubiceps pauciradiatus*, FRLM 57217, 91 mm SL, 熊野灘 (頭部損傷)

ボウズコンニャク
Cubiceps whiteleggii
(Waite 1894)

アフリカ南岸・東岸からパプアニューギニア, 日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋. 日本では鹿児島県から北海道に分布する. 三重県では熊野灘の底曳網や巻網で漁獲される. 眼の上後方に無鱗域がない, 胸鰭はやや短く第2背鰭始部をとる垂線に達しないかわずかに越える, 頬部の被鱗域は眼の前縁近くに達する. (木村清志)



ボウズコンニャク *Cubiceps whiteleggii*
 上 FRLM 64592, 149 mm SL, 熊野灘
 右 FRLM 61745, 36 mm SL, 尾鷲市



エボシダイ属 Genus *Hyperoglyphe* Günther 1859

エボシダイ *Hyperoglyphe japonica* (Döderlein 1884)

全世界の熱帯から暖海域。日本では鹿児島県から福島県、長崎県に分布。三重県では熊野灘で採集された。眼は大きく、眼径は吻長より長い、眼の上後方に無鱗域がない、胸鰭は長く第2背鰭始部をとおる垂線をはるかに越える、胸鰭の大部分は黒いが下縁付近に白色域がある。

(木村清志)

エボシダイ *Hyperoglyphe japonica*, KAUM-I. 99408, 77 mm SL, 口永良部島



スジハナビラウオ属 Genus *Psenes* Valenciennes 1833

クラゲウオ *Psenes arafurensis* Günther 1889

全世界の熱帯から暖海域。日本では琉球列島から北海道に分布する。三重県では熊野灘の主に巻網で漁獲された。眼の上後方に無鱗域がある、吻は短い、側線鱗数 44-45。

(木村清志)

クラゲウオ *Psenes arafurensis*, FRLM 42119, 119 mm SL, 熊野灘



スジハナビラウオ *Psenes cyanophrys* Valenciennes 1833

全世界の熱帯から暖海域。日本では琉球列島から千葉県・石川県に分布する。三重県では幼魚は熊野灘の定置網で、成魚は巻網で漁獲された。眼の上後方に無鱗域がない、体は卵形。

(木村清志)

スジハナビラウオ *Psenes cyanophrys*, FRLM 57261, 141 mm SL, 熊野灘



シマハナビラウオ *Psenes maculatus* Lütken 1880

全世界の温帯域。日本では鹿児島県から千島列島、兵庫県に分布する。三重県では幼魚は熊野灘の定置網で、成魚は巻網で漁獲された。眼の上後方に無鱗域がある、成魚の吻はやや長い、側線鱗数 67-70。

(木村清志)

シマハナビラウオ *Psenes maculatus*
FRLM 44453, 133 mm SL, 熊野灘



ハナビラウオ
Psenes pellucidus
Lütken 1880

全世界の熱帯、亜熱帯域。日本では琉球列島から北海道に分布する。三重県では熊野灘の定置網で稚幼魚が、巻網で成魚が採集された。頭部背面の被鱗域は眼隔域に達しない。

(木村清志)

3



ハナビラウオ *Psenes pellucidus*

上 成魚, FRLM 60333, 375 mm SL, 熊野灘

左 稚魚, FRLM 63014, 58 mm SL, 尾鷲市

ドクウロコイボダイ科 Family Tetragonuridae Risso 1827

ドクウロコイボダイ属 Genus Tetragonurus Risso 1810

ツマリドクウロコイボダイ
Tetragonurus atlanticus
Lowe 1839

全世界の熱帯、温帯域。日本では三重県、神奈川県、東北太平洋岸、北海道から知られる。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。眼は大きく頭長の約 27%, 背鰭 XIV + I, 11.

(木村清志)

5



ツマリドクウロコイボダイ *Tetragonurus atlanticus*, FRLM 57266, 270 mm SL, 熊野灘 (左右反転)

ドクウロコイボダイ
Tetragonurus cuvieri
Risso 1810

全世界の熱帯、暖海域。日本では高知県から北海道に分布する。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された (Suzuki et al., 1995). 眼は小さく頭長の約 19%, 背鰭 XVI-XIX +12-13.

5



ドクウロコイボダイ *Tetragonurus cuvieri*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

写真は尾鷲に水揚げされたもの。
 (木村清志)

オオメメダイ科 Family Ariommatidae Haedrich 1967

オオメメダイ属 Genus Ariomma Jordan & Snyder 1904

ミナミメダイ
Ariomma brevipmanus
(Klunzinger 1884)

紅海、モザンビーク海峡からハワイ諸島、日本、フィジーに至るインドー太平洋。日本では沖縄県から神奈川県に分布する。三重県では熊野灘の定置網で採集された。体は細長い、眼は大きく頭長の約 1/3.

(木村清志)

5



ミナミメダイ *Ariomma brevipmanus*, FRLM 35561, 89 mm SL, 南伊勢町賛浦

マルイボダイ
***Ariomma indica* (Day 1871)**

アフリカ南岸・東岸からフィリピン、日本、オーストラリアに至るインド-西太平洋。日本では鹿児島県から神奈川県・若狭湾に分布する。三重県では1980年代に熊野灘沿岸の定置網でよく漁獲されたが、それ以後ほとんど出現しなくなった。体高は高く、体は卵形で側扁する。

(木村清志)



マルイボダイ *Ariomma indica*, FRLM 51290, 140 mm SL, ベトナム

オオメメダイ
Ariomma lurida
Jordan & Snyder 1904

モーリシャス、日本、ハワイ諸島、ケルマデク諸島、南東太平洋、大西洋熱帯域。日本では琉球列島から北海道まで分布する。三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲される。体は細長い、眼は小さく頭長の1/4以下。

(木村清志)



オオメメダイ *Ariomma lurida*, 尾鷲市
 上 FRLM 33359, 95 mm SL
 下 FRLM 61657, 38 mm SL



サバ亜目 Suborder Scombroidei

イレズミコンニャクアジ科 Family Icosteidae Jordan & Gilbert 1880

イレズミコンニャクアジ属 Genus *Icosteus* Lockington 1880

イレズミコンニャクアジ
Icosteus aenigmaticus
Lockington 1880

日本からオホーツク海、ベーリング海、アラスカ湾からカリフォルニアに至る北太平洋。日本では高知県から北海道に分布する。三重県では熊野灘での成魚の採集記録があり標本が TAMBL-P 2353 として残されている (Suzuki and Tsukada, 1994)。

(木村清志)

イレズミコンニャクアジ
Icosteus aenigmaticus, 北海道
 上 HUMZ 231169, 574 mm SL
 下 HUMZ 231396, 334 mm SL



サバ科 Family Scombridae Rafinesque 1815

カマスサワラ属 Genus *Acanthocybium* Gill 1862

カマスサワラ *Acanthocybium solandri* (Cuvier 1832)

世界中の熱帯から温帯域，日本では秋田県から長崎県の日本海・東シナ海，青森県八戸から九州南岸の太平洋，伊豆・小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は第1背鰭が23-28棘であること，第1背鰭が後半部まで低くならないことが特徴．



カマスサワラ *Acanthocybium solandri*, FRLM 61696, 652 mm SL, 尾鷲市（項部破損）

（笹木大地）

ソウダガツオ属 Genus *Auxis* Cuvier 1829

マルソウダ *Auxis rochei rochei* (Risso 1810)

東太平洋を除く世界中の熱帯から温帯域，日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋，小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘で普通にみられる．本種は同属のヒラソウダ *Auxis thazard thazard* (Lacepède 1800) に似るが鰓蓋上端の暗色斑は頭部背面の暗色域と連続すること，胸甲部は第2背鰭起部をはるかに超えることで区別できる．



マルソウダ *Auxis rochei rochei*, FRLM 36452, 302 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

ヒラソウダ *Auxis thazard thazard* (Lacepède 1800)

東太平洋を除く世界中の熱帯から温帯域，日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋，小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘で普通にみられる．本種は鰓蓋上端の暗色斑は頭部背面の暗色域から離れること，胸甲部は第1背鰭と第2背鰭の中間で急に狭くなることが特徴．



ヒラソウダ *Auxis thazard thazard*, FRLM 45855, 313 mm SL, 志摩市志摩町御座

スマ属 Genus *Euthynnus* Lütken 1883

スマ *Euthynnus affinis* (Cantor 1849)

インドー太平洋，日本では兵庫県浜坂から長崎県の日本海・東シナ海，相模灘から九州南岸の太平洋，小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は胸鰭下方に数個の黒斑があること，体側背部に斜走帯があることが特徴．



スマ *Euthynnus affinis*, FRLM 28223, 247 mm SL, 志摩市志摩町御座

イソマグロ属 Genus *Gymnosarda* Gill 1862

イソマグロ *Gymnosarda unicolor* (Rüppell 1836)

インドー西太平洋, 日本では新潟県佐渡, 長崎県野母崎, 相模灘から九州南岸の太平洋, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘でしばしば混獲される. 本種は側線が1本であり, 後半部で著しく波打つことが特徴.

(笹木大地)



イソマグロ *Gymnosarda unicolor*, FRLM 60754, 353 mm SL, 御浜町阿田和

カツオ属 Genus *Katsuwonus* Kishinouye 1915

カツオ *Katsuwonus pelamis* (Linnaeus 1758)

全世界の熱帯から温帯域, 日本でも全国各地でみられる. 三重県では一本釣り, 曳縄釣り, 定置網, まき網で漁獲され, 主要な漁獲物として熊野灘各地の港に水揚げされる. 本種は体側下部に縦縞があることが特徴.

(笹木大地)



カツオ *Katsuwonus pelamis*, FRLM 61690, 324 mm SL, 尾鷲市

グルクマ属 Genus *Rastrelliger* Jordan & Starks 1908

グルクマ *Rastrelliger kanagurta* (Cuvier 1816)

インドー西太平洋, 日本では日向灘から鹿児島県本土, 甌島列島および大隅諸島以南に分布する. 三重県では志摩市御座および南伊勢町賛浦から標本が得られた. 本種は体高が高く側扁すること, 第2背鰭と臀鰭に棘がないことが特徴.

(笹木大地)



グルクマ *Rastrelliger kanagurta*, FRLM 58338, 273 mm SL, 南伊勢町賛浦

ハガツオ属 Genus *Sarda* Cuvier 1829

ハガツオ *Sarda orientalis* (Temminck & Schlegel 1844)

インドー太平洋, 日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 東シナ海, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体がすべて小鱗に被われること, 体側上半部に縞模様があること, 体はやや側扁することなどが特徴.

(笹木大地)



ハガツオ *Sarda orientalis*, FRLM 29532, 227 mm SL, 志摩市志摩町御座

サバ属 Genus *Scomber* Linnaeus 1758

ゴマサバ *Scomber australasicus* Cuvier 1832

インドー太平洋, 日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では伊勢湾から熊野灘に分布し, 主要な漁獲対象種である. 本種はマサバに似るが, 体側下部に多くの小黑斑があること, 第1背鰭は通常11(11-12)棘であること, 背鰭第1-9棘の基底長は尾叉長の12%未満であることで区別できる. (笹木大地)



ゴマサバ *Scomber australasicus*, FRLM 29527, 415 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

マサバ *Scomber japonicus* Houttuyn 1782

インドー太平洋, 日本では北海道オホーツク海沿岸, 北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海, 大隅諸島に分布する. 三重県では伊勢湾から熊野灘に分布し, 主要な漁獲対象種である. 本種は体側下部に小黑斑がないこと, 第1背鰭は通常9(9-10)棘であること, 背鰭第1-9棘の基底長は尾叉長の12%以上であることが特徴. (笹木大地)



マサバ *Scomber japonicus*, FRLM 45066, 262 mm SL, 熊野灘

サワラ属 Genus *Scomberomorus* Lacepède 1801

ヨコシマサワラ *Scomberomorus commerson* (Lacepède 1800)

インドー西太平洋, 日本では新潟県佐渡, 山口県日本海側, 長崎県生月島・佐世保, 青森県, 岩手県, 日向灘, 鹿児島県本土, 奄美大島, 沖縄県から記録されている. 三重県では御浜町阿田和の定置網で漁獲された1標本があり, これは標本に基づく三重県からの初記録である. 本種は胸鰭後端が丸いこと, 体に多くの横縞があることで同属他種と区別できる. (笹木大地)



ヨコシマサワラ *Scomberomorus commerson*, FRLM 60637, 632 mm SL, 御浜町阿田和

サワラ *Scomberomorus niphonius* (Cuvier 1832)

ベトナムからロシアまでの北西太平洋, 日本では北海道南部から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海, 種子島, 沖縄島から記録されている. 三重県では伊勢湾から熊野灘に分布し重要な水産資源である. 本種は体に多くの暗色斑をもつこと, 第1背鰭は19-21棘であることから同属他種と区別できる. (笹木大地)



サワラ *Scomberomorus niphonius*, FRLM 36736, 329 mm SL, 志摩市志摩町御座

マグロ属 Genus *Thunnus* Cuvier 1829

ビンナガ *Thunnus alalunga* (Bonnaterre 1788)

世界中の熱帯から温帯域，日本でも全国各地でみられる．三重県では熊野灘に分布し，曳縄，延縄などで漁獲される．本種は尾鰭が暗色であり後縁は白いこと，成魚の胸鰭は著しく長く臀鰭基底後端を越えることで同属他種と区別できる．

(笹木大地)



ビンナガ *Thunnus alalunga*, FRLM 62980, 684 mm SL, 尾鷲市沖

キハダ *Thunnus albacares* (Bonnaterre 1788)

世界中の熱帯から温帯域，日本でも全国各地でみられる．三重県では熊野灘に分布し，一本釣り，まき網，定置網などで漁獲される．本種の成魚は第2背鰭と臀鰭が伸長すること，若魚の体側下部には小白斑が斜めの列をなして並ぶか，白斑が連続し数本の斜線となること，胸鰭後端が丸いことで同属他種と区別できる．

(笹木大地)



キハダ *Thunnus albacares*, FRLM 31405, 370 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

メバチ *Thunnus obesus* (Lowe 1839)

世界中の熱帯から温帯域，日本でも全国各地でみられる．三重県では熊野灘に分布し，延縄，一本釣りなどで漁獲される．本種は眼が大きいこと，胸鰭は長く第2背鰭起部に達するか越えること，若魚の体側下部に体軸に垂直な数本の白線があることで同属他種と区別できる．

(笹木大地)



メバチ *Thunnus obesus*, 南伊勢町 (岡田 誠撮影)

クロマグロ *Thunnus orientalis* (Temminck & Schlegel 1844)

太平洋に分布し，日本では全国各地でみられる．三重県では熊野灘に分布し，稀に伊勢湾から幼魚の報告がある．本種は胸鰭が短くその先端は第2背鰭起部に達しないことが特徴．また，幼魚はキハダに似るが胸鰭先端が尖ることで区別できる．

(笹木大地)



クロマグロ *Thunnus orientalis*, FRLM 53267, 254 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

コシナガ
Thunnus tonggol
(Bleeker 1851)

インドー西太平洋, 日本では富山県から九州西側の日本海・東シナ海沿岸, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘に分布し, 定置網でしばしば混獲される. 胸鰭は長く第2背鰭起部に達するか越えること, 体側下部に体軸方向に伸長した小判形白斑が密に分布する(個体によっては白斑が連続し横帯になる)ことで同属他種と区別できる.

(笹木大地)



コシナガ *Thunnus tonggol*, FRLM 61258, 350 mm SL, 志摩市志摩町片田

シマガツオ科 Family Bramidae Bonaparte 1831

シマガツオ属 Genus *Brama* Bloch & Schneider 1801

ヒメシマガツオ
Brama dussumieri
Cuvier 1831

インドー太平洋および大西洋の暖海域に広く分布する. 日本の太平洋側では相模湾以南, 日本海側では京都府舞鶴以南, 沖ノ島島周辺に分布する. 三重県では熊野灘の旋網で採集されている. 幼魚では体は菱形に近い楕円形で, 成長に伴い水平方向に伸長する. 鱗が小さく, 縦列鱗数は57-65. 尾鰭は大きく, 上葉は下葉よりも伸長する. (日比野友亮)



ヒメシマガツオ *Brama dussumieri*, FRLM 45338, 128 mm SL, 熊野灘

シマガツオ
Brama japonica
Hilgendorf 1878

台湾, 朝鮮半島, 日本, ピョートル大帝湾および北東太平洋に分布し, 国内では北海道から種子島, 小笠原諸島, 九州ーパラオ海嶺に広く分布する. 三重県では熊野灘の旋網で採集されているが稀. 鱗が細かく, 縦列鱗数は65-75. 頭部背縁前方は大きく突出する. (日比野友亮)



シマガツオ *Brama japonica*, FRLM 40689, 431 mm SL, 熊野灘

マルバラシマガツオ
Brama orcini
Cuvier 1831

インドー太平洋の暖海域に広く分布し, 国内では相模湾および京都府舞鶴以南, 小笠原諸島に分布する. 三重県では熊野灘の旋網や定置網, 釣りで採集されている. 鱗はやや粗く, 縦列鱗数は48-55. 胸鰭基底下端と腹鰭始部の間隔は体長の12%以上. (日比野友亮)



マルバラシマガツオ *Brama orcini*, FRLM 42112, 216 mm SL, 熊野灘

オオバンシマガツオ
Brama pauciradiata
Moteki, Fujita & Last 1995

フィリピン, 日本, オーストラリア北西部と南東部, ハワイ諸島近海に分布し, 国内では三重県と鹿児島県に分布する (畑ほか, 2015). 三重県では熊野灘の旋網によって採集されており, 三重県産の標本に基づいて日本初記録として報告された (Hibino et al., 2014). 体は比較的細長く, 腹部は顕著に突出しない. 同属種の中で背鰭と臀鰭の鰭条数をもっとも少ない. 小型種で体長 150 mm 程度で成熟する. (日比野友亮)



オオバンシマガツオ *Brama pauciradiata*, FRLM 42111, 155 mm SL, 熊野灘

チカメエチオピア属 Genus *Eumegistus* Jordan & Jordan 1922

チカメエチオピア
Eumegistus illustris
Jordan & Jordan 1922

オーストラリア北西沿岸 (東インド洋) から中央太平洋の暖海域に分布する. 日本の太平洋側では相模湾, 日本海側では京都府舞鶴以南, 九州-パラオ海嶺に分布する (荻野ほか, 2019). 背鰭と臀鰭の前方は弱い鎌状. 成長に伴って尾鰭形状が変化し, 幼魚では円形, 成魚では二重湾形, さらに大型の成魚では上, 下葉が伸長して湾入形に近くなる.

(日比野友亮)



チカメエチオピア *Eumegistus illustris*, FRLM 35886, 329 mm SL, 熊野灘

ベンテンウオ属 Genus *Pteraclis* Gronow 1772

ベンテンウオ
Pteraclis aesticola
(Jordan & Snyder 1901)

日本からオーストラリア南東岸, ハワイ諸島, 東太平洋沿岸にかけて分布し, 日本の太平洋側では岩手県以南, 日本海側では新潟県から山口県に分布する. 三重県では熊野市遊木町で採集されている. 扇状の背鰭と臀鰭は体のかなり前方から始まり, 背鰭の始部は吻の中央直上に位置する.

(日比野友亮)

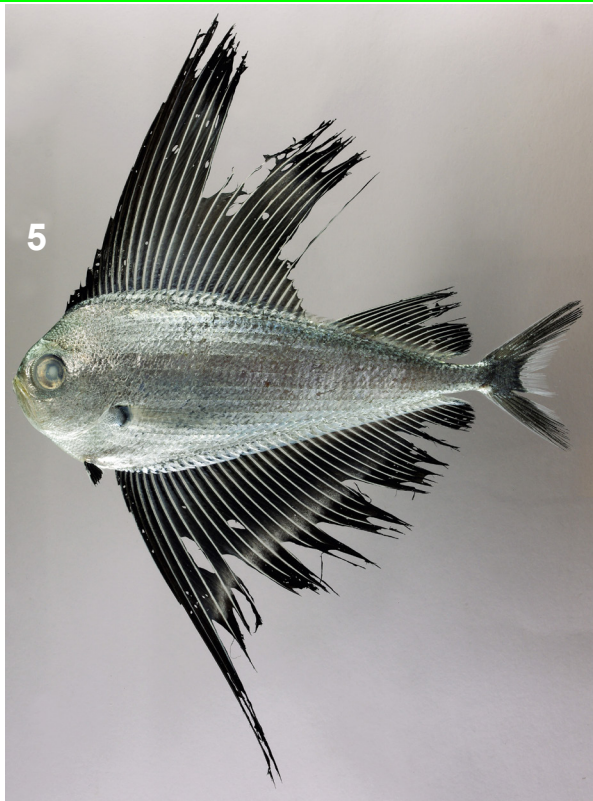


ベンテンウオ *Pteraclis aesticola*, 熊野市遊木町 (長野 淳氏撮影)

リュウグウノヒメ属 Genus *Pterycombus* Fries 1837

リュウグウノヒメ *Pterycombus petersii* (Hilgendorf 1878)

西インド洋から中央太平洋，および西大西洋に分布し，日本の太平洋側では東北地方，日本海側では北海道以南に分布する．三重県では御浜町で採集されたことが報告されている（赤崎，1982）．扇状の背鰭と臀鰭は体のかなり前方から始まり，背鰭の始部は眼の後端よりも後方に位置する．体に対する鰭の大きさは成長に伴い小さくなる．（日比野友亮）



リュウグウノヒメ *Pterycombus petersii*, KAUM-I. 101850, 158 mm SL, 鹿児島県

マンザイウオ属 Genus *Taractes* Lowe 1843

マンザイウオ *Taractes asper* Lowe 1843

三大洋のすべて（西大西洋を除く）に分布し，日本の太平洋側では北海道から土佐湾，日本海側では北海道から新潟県にかけて分布する．三重県では体長 64 mm の稚魚がメバチ *Thunnus obesus* (Lowe 1839) の吐出物として採集されているのみ．側線が前方で急激に下方に湾曲し，その後再び直走することや臀鰭軟条数が多いことなどでツルギエチオピア *Taractes rubescens* (Jordan & Evermann 1887) と区別される (Maul and Mead, 1958)．（日比野友亮）



マンザイウオ *Taractes asper*, FRLM 63316, 64 mm SL, 熊野灘

ツルギエチオピア *Taractes rubescens* (Jordan & Evermann 1887)

三大洋のすべてに分布し，日本の太平洋側では宮城県から高知県，日本海側では津軽海峡から山口県，東シナ海，琉球列島に分布する（飯野ほか，2022）．三重県では体長 97 mm の稚魚が熊野灘での旋網で採集されているのみ．本種の成魚の尾柄中央には他に比べて顕著に大きな鱗が発達するが，本標本でもこの特徴が確認された．（日比野友亮）



ツルギエチオピア *Taractes rubescens*, FRLM 46329, 97 mm SL, 熊野灘

ヒレジロマンザイウオ属 Genus *Taractichthys* Mead & Maul 1958

ヒレジロマンザイウオ *Taractichthys steindachneri* (Döderlein 1883)

東インド洋とインドー太平洋の暖海域に広く分布し、日本の太平洋側では宮城県、日本海側では北海道以南、九州ーパラオ海嶺に分布する。三重県では熊野灘での旋網のほか、マグロ類を対象とした延縄での混獲が多い。背鰭と臀鰭の前方が鎌状に伸長する。尾鰭は大きく二叉し、中央後縁は白色。チカメエチオピア *Eumegistus illustris* Jordan & Jordan 1922 とは縦列鱗数が 34-38 と少ないことで区別される。(日比野友亮)



ヒレジロマンザイウオ *Taractichthys steindachneri*, 熊野灘
上 FRLM 44514, 422 mm SL
左 FRLM 41794, 115 mm SL



クロタチカマス科 Family Gempylidae Gill 1862

アオスミヤキ属 Genus *Epinnula* Poey 1854

アオスミヤキ *Epinnula rex* Ho, Motomura, Hata & Chiang 2022

ニュージーランド、台湾、日本、ハワイに分布する (Ho et al., 2017). 国内では東北太平洋沖、神奈川県、東京湾外海、愛知県、三重県、高知県、トカラ列島平島、与論島、石垣島に分布する。三重県では紀北町および尾鷲市から記録されている (Kamohara, 1938 ; Matsubara and Iwai, 1952 ; 久保ほか, 2012). 本種は側線が胸鰭上方で分岐すること、鋤骨に歯がないこと、腹鰭は胸鰭より長いことが特徴。(笹木大地)

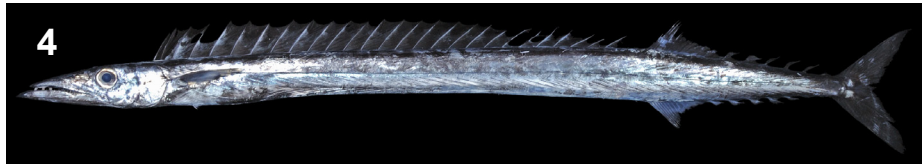


アオスミヤキ *Epinnula rex*, FRLM 57292, 319 mm SL, 沖ノ島島沖

クロタチカマス属 Genus *Gempylus* Cuvier 1829

クロタチカマス *Gempylus serpens* Cuvier 1829

世界中の熱帯から温帯域，日本では兵庫県香住，青森県から鹿児島県本土の太平洋沿岸，大隅諸島以南に分布する．三重県では伊勢湾口沖および熊野灘沖から標本が得られてい



クロタチカマス *Gempylus serpens*, FRLM 65117, 664 mm SL, 御浜町阿田和沖

る．本種は体が細長く，側線が2本 退化的でないことなどが特徴．
であること，臀鰭軟条部の前方部は (笹木大地)

アブラソコムツ属 Genus *Lepidocybium* Gill 1862

アブラソコムツ *Lepidocybium flavobrunneum* (Smith 1843)

世界中の熱帯から温帯域，日本では相模湾から土佐湾の太平洋沿岸，種子島，沖縄県から記録されている．三重県では熊野灘に分布する．本種は尾柄部中央に1隆起線があり，後半部の上下に各1本ずつ副隆起線があること，側線が著しく波打つことが特徴． (笹木大地)



アブラソコムツ *Lepidocybium flavobrunneum*, FRLM 40511, 743 mm SL, 熊野灘

フウライカマス属 Genus *Nealotus* Johnson 1865

フウライカマス *Nealotus tripes* Johnson 1865

世界中の熱帯から温帯域，日本では兵庫県浜坂，山口県日本海側，東北地方から九州南岸の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆から記録されている．三重県では熊野灘に分布する．本種は側線が1本であること，側線は胸鰭上方で湾曲しないこと，臀鰭の2



フウライカマス *Nealotus tripes*, FRLM 35851, 215 mm SL, 熊野灘

棘は顕著で軟条部から遊離することが特徴． (笹木大地)

トウヨウカマス属 Genus *Neopinnula* Matsubara & Iwai 1952

トウヨウカマス *Neopinnula orientalis* (Gilchrist & von Bonde 1924)

インドー西太平洋，日本では千葉県銚子沖，駿河湾，熊野灘，土佐湾，日向灘，大隅諸島，沖縄舟状海盆から記録されている．三重県では熊野灘から記録されている (Gray, 1953; 久保ほか, 2012)．本種は眼が吻長より小さいこと，第2背鰭と臀鰭の縁辺はほぼ直線状であること，下顎先端に肥大した犬歯がないことで同属のエラブスミヤキ *Neopinnula minetomai* Nakayama, Kimura &



トウヨウカマス *Neopinnula orientalis*, KAUM-I. 104901, 149 mm SL, 鹿児島県

Endo 2014 と区別できる (Nakayama et al., 2014)． (笹木大地)

クロシビカマス属 Genus *Promethichthys* Gill 1893

クロシビカマス *Promethichthys prometheus* (Cuvier 1832)

世界中の熱帯から温帯域，日本では山陰地方・隠岐の日本海，東北地方から九州南岸の太平洋沿岸，東シナ海，口永良部島，奄美諸島，沖縄県に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は側線が1本であること，側線は胸鰭上方で強く湾曲すること，臀鰭の2棘は小さく軟条部から遊離しないことが特徴．

(笹木大地)

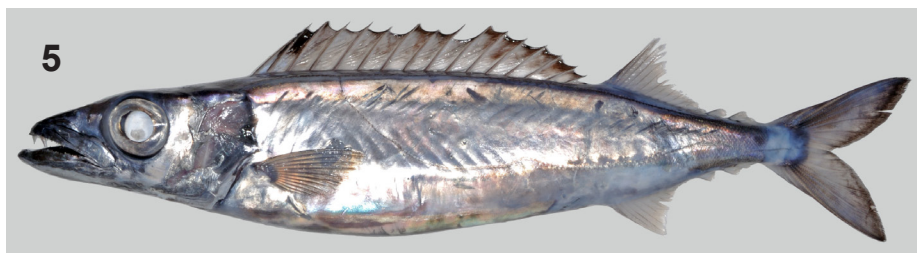


クロシビカマス *Promethichthys prometheus*, FRLM 39861, 227 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

カゴカマス属 Genus *Rexea* Waite 1911

オオメカゴカマス *Rexea nakamurai* Parin 1989

インドー西太平洋，日本では三重県，与論島，九州ーパラオ海嶺から記録されている．三重県では沖合底曳網によって紀伊長島沖から採集された記録がある（荻野・松沼，2018）．本種は側線下方分枝が体側中央よりやや下側を走り，大きく波打つこと，側線上方分枝は第2背鰭後端を越え，小離鰭に達すること，体側後半から尾柄にかけての鱗域は狭



オオメカゴカマス *Rexea nakamurai*, FRLM 42849, 359 mm SL, 与論島

いこと，眼径は頭長の25.0–27.2%であることで同属のカゴカマス *Rexea prometheoides* (Bleeker 1856) と区別できる．

(笹木大地)

カゴカマス *Rexea prometheoides* (Bleeker 1856)

インドー西太平洋，日本では新潟県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，東北地方から九州南岸の太平洋沿岸，東シナ海，種子島，奄美大島，沖縄県に分布する．本種はオオメカゴカマス *Rexea nakamurai* Parin 1989 に似るが，側線下方分枝はほぼ体側中央を走り，大きく波打たないこと，側線上方分枝は第2背鰭後端付近にしか達しないこと，体側後



カゴカマス *Rexea prometheoides*, FRLM 57085, 363 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

半から尾柄にかけての鱗域は変異があるものの広いこと，眼径は頭長の21.0–25.2%であることで区別できる．

(笹木大地)

バラムツ属 Genus *Ruvettus* Cocco 1833

バラムツ *Ruvettus pretiosus* Cocco 1833

世界中の熱帯から温帯域，日本では兵庫県浜坂，北海道太平洋沖，福島県南部から九州南岸の太平洋，東シナ海，九州ーパラオ海嶺，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は尾柄部に隆起線がないこと，腹部正中線に骨質隆起線があること，体側鱗に骨性の棘があることが特徴．

(笹木大地)



バラムツ *Ruvettus pretiosus*, FRLM 57414, 576 mm SL, 熊野灘

ナガタチカマス属 Genus *Thyrsitoides* Fowler 1929

ナガタチカマス *Thyrsitoides marleyi* Fowler 1929

インドー西太平洋, 日本では新潟県から山口県の日本海, 福島県から九州南岸の太平洋, 東シナ海, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘で操業するまき網と底曳網で2標本が得られている. 本種は体が細



ナガタチカマス *Thyrsitoides marleyi*, FRLM 64634, 371 mm SL, 熊野灘

長いこと, 腹鰭は顕著で1棘5軟条であることが特徴. (笹木大地)

タチウオ科 Family Trichiuridae Rafinesque 1810

ナガユメタチモドキ属 Genus *Assurger* Whitley 1933

ナガユメタチモドキ *Assurger anzac* (Alexander 1917)

西インド洋を除く全世界の熱帯域から暖海域. 日本では沖縄県から青森県・北海道に分布する. 三重県では熊野灘の定置網で漁獲された. 尾

鰭がある, 眼隔域に隆起縁がある, 背鰭 116–123, 臀鰭 I, 78–87. (木村清志)



ナガユメタチモドキ *Assurger anzac*, KAUM-I. 98082, 966 mm SL, 鹿児島県

タチモドキ属 Genus *Benthodesmus* Goode & Bean 1882

タチモドキ *Benthodesmus tenuis* (Günther 1877)

全世界の熱帯, 暖海域. 日本では沖縄県から北海道・青森県に分布する. 三重県では熊野灘で漁獲された. 稚魚も熊野灘で採集されている. 尾鰭がある, 眼隔域に隆起縁がない, 背鰭 120–133, 臀鰭 I, 70–76. (木村清志)



タチモドキ *Benthodesmus tenuis*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

ユメタチモドキ属 Genus *Evoxymetopon* Gill 1863

ヒレナガユメタチ *Evoxymetopon poeyi* (Günther 1887)

モーリシャスから台湾, 日本, イースター島に至るインドー太平洋. 日本では沖縄県から静岡県に分布する. 三重県では尾鷲市に水揚げされた記録がある. 尾鰭がある, 吻



ヒレナガユメタチ *Evoxymetopon poeyi*, NSMT-P 123144, 1700 mm SL, 奄美大島

から眼の直上までの頭部背縁は直線的, 眼隔域に隆起縁がある, 背鰭 120–133, 臀鰭 I, 70–76. (木村清志)

カンムリダチ属 Genus *Tentoriceps* Whitley 1948

カンムリダチ *Tentoriceps cristatus* (Klunzinger 1884)

紅海, アフリカ東岸からフィリピン, 日本, オーストラリアに至るインドー西太平洋. 日本では鹿児島県から神奈川県, 京都府に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や巻網で



カンムリダチ *Tentoriceps cristatus*, FRLM 63026, 838 mm TL, 尾鷲市

漁獲される. 尾鰭がない, 上顎大型犬歯は鉤状ではない, 頭部背縁は丸い. (木村清志)

タチウオ属 Genus *Trichiurus* Linnaeus 1758

タチウオ *Trichiurus japonicus* Temminck & Schlegel 1844

中国南シナ海・東シナ海・黄海・渤海から韓国, 日本, 日本では鹿児島県から北海道, 三重県では伊勢湾,

テンジクタチ *Trichiurus* sp.

沖縄県から神奈川県, 大阪湾から報告されているが, 恐らく東南アジアにも広く分布しているのではないと思われる。三重県では熊野灘の定置網で漁獲される。尾鰭がない, 上顎大型犬歯は鉤状, 臀鰭棘は皮下



1 タチウオ *Trichiurus japonicus*, FRLM 49289, 670 mm TL, 尾鷲市

熊野灘の底曳網や定置網, 巻網で漁獲される。尾鰭がない, 上顎大型犬歯は鉤状, 臀鰭棘は皮下に埋没する, 生鮮時背鰭は白色。(木村清志)



2 テンジクタチ *Trichiurus* sp., FRLM 55528, 529 mm TL, 志摩市志摩町御座

に埋没する, 生鮮時背鰭は黄色。(木村清志)

タウナギ目 Order Synbranchiformes

タウナギ亜目 Suborder Synbranchoidae

タウナギ科 Family Synbranchidae Bonaparte 1835

タウナギ属 Genus *Monopterus* Lacepède 1800

タウナギ *Monopterus albus* (Zuiew 1793)

国外外来種。原産地は東アジアから東南アジアの広域。三重県を含む国内各地に侵入している。ため池や水田, 水路に生息。細長いウナギ型の体形だが, 胸鰭や腹鰭がなく, 背鰭や臀鰭は鰭摺となって繋がり隆起するのみ。鱗は無く粘液に覆われ, 左右の鰓孔が繋がり腹面に開くなど, 特異な形態を有する。琉球列



4 タウナギ *Monopterus albus*, FRLM 41377, 183 mm TL, 津市一志町庄村

島には別種の在来集団 *Monopterus* sp. が分布している。(淀 太我)

キノボリウオ目 Order Anabantiformes

タイワンドジョウ亜目 Suborder Channoidei

タイワンドジョウ科 Family Channidae Fowler 1934

タイワンドジョウ属 Genus *Channa* Scopoli, 1777

カムルチー *Channa argus* (Cantor 1842)

国外外来種。原産地は朝鮮半島から中国, アムール川, 北海道から九州までの日本各地に侵入している。平野部の池沼や河川中下流域の緩流部, 水路など流れの緩やかな環境に生息する。頭部は長く縦扁し, 軀幹部はやや側扁する。基底の長い背鰭と臀鰭を持ち, 尾鰭後縁は丸い。また国内外来種として侵入している同属種とは, 体側斑紋は2列に並ぶ



3 カムルチー *Channa argus*, FRLM 63565, 183 mm SL, 津市芸濃町安濃川

ことや背鰭条数が45-54, 臀鰭条数が31-35と多いことでタイワンドジョウ *Channa maculata* (Lacepède 1801) と, 腹鰭をもつことでコウタイ *Channa asiatica* (Linnaeus 1758) と区別できる。(淀 太我)

アジ目 Order Carangiformes

アカメ亜目（新称） Suborder Centropomoidei

アカメ科 Family Latidae Jordan 1888

アカメ属 Genus *Lates* Cuvier 1828

アカメ

Lates japonicus
Katayama & Taki 1984

日本固有種で、東京湾から鹿児島県にかけての太平洋岸と種子島に分布する。三重県では1990年9月24日に尾鷲市九鬼の定置網で捕獲されたものが記録の残るものではもっとも古く（鳥羽水族館, 1993）、尾鷲市ではその後少なくとも四度漁獲されている。写真は2025年4月に漁獲された個体（笹木・木村, 2025）。また、2017年6月には南伊勢町でも漁獲された。ただしいずれも全長50 cmを超える個体で、稚魚～幼魚の採集記録はない。成魚の体は銀白色。幼魚は暗褐色の地色に淡黄色の斑紋をも



アカメ *Lates japonicus*, FRLM 65848, 587 mm SL, 尾鷲市九鬼町

ち、特に吻端から背鰭前方に伸びる縦帯が目立つ。眼は見る角度によっては赤く見える。インドー太平洋に広く分布する *Lates calcarifer* (Bloch

1790) とは側線有孔鱗数が60–63と多いことや胸鰭条数が16、鰓耙数が2+1+6–7と少ないことなどで区別される。（日比野友亮）

カマス科 Family Sphyraenidae Rafinesque 1815

カマス属 Genus *Sphyraena* Artedi 1793

ヤシャカマス

Sphyraena arabiansis
Abdussamad & Retheesh 2015

インド洋アラビア海南東部のラクシャデーブ諸島（Abdussamad et al., 2015）、南日本太平洋沿岸（相模湾、和歌山県白浜町、宮崎県門川町、日南市、鹿児島県笠沙、内之浦湾）、ニューカレドニアに分布する（森下ほか, 2020）。三重県では志摩市御座および南伊勢町賛浦の定置網から標本が得られている。本種はオニカマス *Sphyraena barracuda* (Edwards 1771) に似るが、側線有孔鱗数が



ヤシャカマス *Sphyraena arabiansis*, FRLM 60944, 757 mm SL, 南伊勢町賛浦

113–122であること、側線上方横列鱗数が13–15であること、側線下方横列鱗数が10–11であること、上顎

後端が眼の前縁に達しないことなどから区別できる（Abdussamad et al., 2015；森下ほか, 2020）。（笹木大地）

オニカマス

Sphyraena barracuda
(Edwards 1771)

世界中の熱帯から温帯域、日本では若狭湾から長崎県野母崎の日本海沿岸、茨城県、相模湾から九州南岸の太平洋沿岸、小笠原諸島、大隅諸島以南、南大東島に分布する。三重県では熊野灘および伊勢湾から幼魚の標本が得られている。本種はヤシャカマス *Sphyraena arabiansis* Abdussamad & Retheesh 2015 と似るが、側線有孔鱗数が76–82である



オニカマス *Sphyraena barracuda*, FRLM 53541, 130 mm SL, 英虞湾内座賀島

こと、側線上方横列鱗数が10–11であること、側線下方横列鱗数が9–10であること、上顎後端が眼の前縁に

達すること（ただし体長279 mm以上の個体）などから区別できる（森下ほか, 2020）。（笹木大地）

オオメカマス
Sphyraena forsteri
Cuvier 1829

インドー西太平洋, 山口県日本海側, 相模湾から鹿児島県本土の太平洋沿岸, 小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘の定置網でしばしば混獲される。本種は第1鰓弓の鰓耙は小棘をそなえたコブ状であること, 胸鰭腋部後方に1



オオメカマス *Sphyraena forsteri*, FRLM 58313, 328 mm SL, 南伊勢町宿浦

暗色斑があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)

イブリカマス
Sphyraena iburiensis
Doiuchi & Nakabo 2005

紅海, アンダマン海, 日本に分布する。国内では相模湾西部, 熊野灘から鹿児島県本土の太平洋沿岸, 八丈島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘の定置網で混獲される。本種は鰓耙数が2であることでアカカマス *Sphyraena pinguis* Günther 1874 およびタイワンカマス *Sphyraena obtusata* Cuvier 1829 に似



イブリカマス *Sphyraena iburiensis*, FRLM 46278, 175 mm SL, 志摩市志摩町御座

るが, 体の縦帯は2本で, 下方のものは胸鰭基底上端から始まること, 側線上方横列鱗数は8.5-9.5であること, 体下方の縦帯は側線の下方向を通り, 尾鰭基底中央より下に達することで区別できる。(笹木大地)

タイワンカマス
Sphyraena obtusata
Cuvier 1829

インドー西太平洋, 紅海から地中海, 黒海へ移入している。日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘に分布し定置網で漁獲される。本種は側線上方横列鱗数が5-7.5であること, 体下方の縦帯は尾柄上で側線に重なり, 尾鰭基底中央に達することで, 近縁のア



タイワンカマス *Sphyraena obtusata*, FRLM 36762, 265 mm SL, 志摩市志摩町御座

カカマス *Sphyraena pinguis* Günther 1874 およびイブリカマス *Sphyraena iburiensis* Doiuchi & Nakabo 2005 と区別できる。(笹木大地)

アカカマス
Sphyraena pinguis
Günther 1874

インドー西太平洋, 日本ではオホーツク海を除く北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 大隅諸島以南に分布する。三重県では伊勢湾から熊野灘に分布し, 重要な漁獲対象種である。本種はイブリカマス *Sphyraena iburiensis* Doiuchi & Nakabo 2005 およびタイワンカマス *Sphyraena obtusata* Cuvier



アカカマス *Sphyraena pinguis*, FRLM 36805, 212 mm SL, 志摩市志摩町御座

1829 に似るが主鰓蓋骨後端が尖ること, 体の縦帯は1本で胸鰭基底上端より上方から始まることで区別できる。(笹木大地)

オオカマス
Sphyraena putnamae
Jordan & Seale 1905

インドー西太平洋, 日本では相模湾以南の太平洋沿岸, 大隅諸島以南に分布する。本標本は紀宝町の鶴殿港内で釣獲され, これは三重県からの初記録である。本種は体側の暗色横帯が体側下部まで伸長することでトラカマス *Sphyraena jello* Cuvier 1829 およびタツカマス *Sphyraena genie* Klunzinger 1870 に似るが, 前



オオカマス *Sphyraena putnamae*, FRLM 63002, 206 mm SL, 紀宝町鶴殿

者とは尾鰭が暗色(トラカマスでは黄色)であること, 後者とは体色の横帯が17-20(タツカマスでは18-22)であること, 前鰓蓋骨中央の縦列鱗列が11-15(19-20), 前鰓蓋骨下方の縦列鱗列が15-20(25-27)であることで区別できる(Morishita et al., 2020)。(笹木大地)

ホソカマス *Sphyraena stellata* Morishita & Motomura 2020

インドー太平洋, 日本では山口県日本海側, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 本種は鰓耙が1本であること, 上顎後端は鼻孔下に達しないこと, 体側に2本の黄褐色縦帯があることから同属他種と区別できる. (笹木大地)

ヤマトカマス *Sphyraena* sp.

香港から日本, 朝鮮半島東岸南部の東アジア, 日本では新潟県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 北海道から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 小笠原諸島, 大隅諸島, 奄美大島に分布する. 三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する. 夏から秋に沿岸の定置網で漁獲される. 本種の学名は *Sphyraena japonica* Bloch & Schneider 1801 が用いられていたが, 同学名は無効名であり, 現在ヤ



ホソカマス *Sphyraena stellata*, FRLM 39640, 305 mm SL, 志摩市志摩町御座



ヤマトカマス *Sphyraena* sp., FRLM 46115, 258 mm SL, 志摩市志摩町御座

マトカマスに適用できる学名はない (Motomura, 2023). 本種は鰓耙が1本であることでホソカマス *Sphyraena stellata* Morishita & Motomura 2020 およびオオヤマトカマス *Sphyraena africana* Gilchrist & Thompson 1909 に似るが, ホソカマスとは上顎後端

が鼻孔下に達すること, 体側下部の縦帯が不明瞭であるか1本あることで区別でき, オオヤマトカマスとは腹鰭基底近くの体側に1暗色斑がないこと, 腹鰭基部は第1背鰭起部のわずかに後方であることから区別できる. (笹木大地)

カレイ亜目 Suborder Pleuronectoidei 亜目

ツバメコノシロ科 Family Polynemidae Rafinesque 1815

ツバメコノシロ属 Genus *Polydactylus* Lacepède 1803

ツバメコノシロ *Polydactylus plebeius* (Broussonet 1782)

アフリカ東岸からマルケサス諸島にかけての紅海, ペルシャ湾を除くインドー西太平洋. 国内では福島県以南の太平洋沿岸, 若狭湾以南の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 南西諸島および小笠原諸島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は胸鰭遊離軟条が5本であることにより, 日本産同科他種と区別できる. (鈴木 啓)



ツバメコノシロ *Polydactylus plebeius*, FRLM 57399, 127 mm SL, 志摩市志摩町御座



志摩市志摩町御座漁港
やまみ大敷
2009年7月
(淀 太我撮影)

コケビラメ科 Family Citharidae de Buen 1935

コケビラメ属 Genus *Citharoides* Hubbs 1915

コケビラメ *Citharoides macrolepidotus* Hubbs 1915

フィリピンから日本，韓国までの北西太平洋，日本では兵庫県および駿河湾から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．本科魚類は腹鰭が1棘5軟条であること，左右の鰓膜が癒合しないことが特徴であり，本種は眼が体の左側にあること，背鰭と臀鰭の基底後端にそれぞれ1黒斑があることで同科他種と容易に区別できる．
(笹木大地)



コケビラメ *Citharoides macrolepidotus*, FRLM 64602, 201 mm SL, 熊野灘

ダルマガレイ科 Family Bothidae Smitt 1892

ナガダルマガレイ属 Genus *Arnoglossus* Bleeker 1862

ナンヨウダルマガレイ *Arnoglossus polyspilus* (Günther 1880)

インドー西太平洋，日本では山口県日本海側，駿河湾，土佐湾，沖縄舟状海盆から記録されている．三重県では尾鷲市から標本が得られている．本種は尾鰭の上下端の2軟条の先端は分枝しないことが特徴．
(笹木大地)



ナンヨウダルマガレイ *Arnoglossus polyspilus*, FRLM 35054, 150 mm SL, 熊野灘

ナガダルマガレイ *Arnoglossus tenuis* Günther 1880

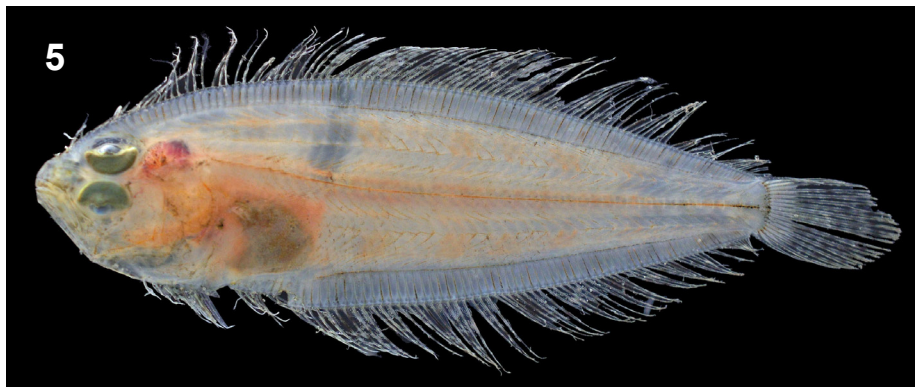
西太平洋，日本では島根県敬川沖，山口県日本海沿岸，長崎県，遠州灘，紀伊水道，土佐湾，伊予灘，鹿児島県本土から記録されている．三重県では伊勢湾および志摩市御座から標本が得られている．本種は側線鱗数が少なく49-53であること，背鰭軟条が90-95であること，臀鰭軟条が70-74であることから同属他種と区別できる．
(笹木大地)



ナガダルマガレイ *Arnoglossus tenuis*, FRLM 36289, 81 mm SL, 伊勢湾

トウカイナガダルマガレイ
Arnoglossus yamanakai
Fukui, Yamada & Ozawa 1988

ミャンマーおよび南シナ海から日本の北東インド洋および北西太平洋、日本では日本海南西海域から九州西岸の東シナ海、駿河湾から九州南岸の太平洋沿岸、東シナ海大陸棚縁辺域、種子島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は吻端が尖らないこと、第1鰓弓の鰓耙は長く、その小棘は櫛状であること、有眼側の胸鰭は11-13軟条であることが特徴。
 (笹木大地)



トウカイナガダルマガレイ *Arnoglossus yamanakai*, FRLM 46410, 46 mm SL
 南伊勢町賛浦沖

ホシダルマガレイ属 Genus *Bothus* Rafinesque 1810

トゲダルマガレイ
Bothus pantherinus
(Rüppell 1830)

インドー太平洋、日本では島根県敬川沖、相模湾から鹿児島県本土、伊豆・小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では志摩市和具(熊野灘)および英虞湾の座賀島から標本が得られている。本種は口が大きく後端は下眼の前縁を越えること、有眼側の鱗は側線鱗を除いて櫛鱗であること、眼の前方の頭部背縁はくぼまずに丸いこと、背鰭は88-93軟条であること、臀鰭は65-72軟条であることが特徴。
 (笹木大地)



トゲダルマガレイ *Bothus pantherinus*, FRLM 55752, 35 mm SL, 英虞湾内座賀島

ザラガレイ属 Genus *Chascanopsetta* Alcock 1894

ザラガレイ
Chascanopsetta lugubris lugubris
Alcock 1894

インドー西太平洋、日本では福島県小名浜から鹿児島県本土、東シナ海、大隅諸島、沖縄舟状海盆から記録されている。三重県では熊野灘で操業する沖合底曳網で混獲される。本種は上顎後端が下眼の後端を越えること、下顎は上顎よりわずかに前に出ること、背鰭は111-127軟条であること、臀鰭は76-88軟条であることで同属他種と区別できる。
 (笹木大地)



ザラガレイ *Chascanopsetta lugubris lugubris*, 熊野灘
 上 FRLM 64616, 258 mm SL
 下 FRLM 33754, 250 mm SL

コウベダルマガレイ属 Genus *Crossorhombus* Regan 1920

カネコダルマガレイ *Crossorhombus azureus* (Alcock 1889)

インドー西太平洋, 日本では山口県日本海沿岸, 長崎県, 薩摩半島西岸, 土佐湾, 宮崎県から記録されている. 三重県では志摩市御座の定置網で1標本が得られている. 本種は胸鰭が短く最上部軟条の先端は糸状にならないこと, 背鰭・臀鰭の縁辺は暗色ではないこと, 尾鰭に暗色横帯があること, 雄の無眼側の濃紫色斑は小さいことで同属他種と区別できる. (笹木大地)



カネコダルマガレイ *Crossorhombus azureus*, FRLM 32358, 83 mm SL
志摩市志摩町御座

コウベダルマガレイ *Crossorhombus kobensis* (Jordan & Starks 1906)

東シナ海から日本, 韓国の東アジア, 日本では新潟県から長崎県の日本海・東シナ海, 千葉県銚子から鹿児島県本土の太平洋, 瀬戸内海東部, 大隅諸島に分布する. 三重県では伊勢湾口から熊野灘に分布する. 本種は胸鰭が糸状に伸長し, 頭長より長いこと, 尾鰭に2本の幅広い暗色帯がないこと, 背鰭と臀鰭の縁辺は暗色であること, 尾鰭の上下3軟条は分枝しないこと, 雄の無眼側の濃紫色斑の前縁の切れ込みは小さいか, ほとんどないことで同属他種と区別できる (尼岡, 2016). (笹木大地)



コウベダルマガレイ *Crossorhombus kobensis*, FRLM 52921, 140 mm SL
志摩市志摩町御座

カチドキダルマガレイ *Crossorhombus valderostratus* (Alcock 1890)

インドー西太平洋, 日本では宮崎県南部, 薩摩半島西岸, 種子島から記録されている. 三重県では志摩市和具沖の刺し網で採集された. 本種は胸鰭が糸状に伸長し, 頭長より長いこと, 尾鰭に2本の幅広い暗色帯がないこと, 背鰭と臀鰭の縁辺は暗色ではないこと, 尾鰭の上下2軟条は分枝しないこと, 雄の無眼側の濃紫色斑の前縁は深く切れ込み, 横V字状であることで同属他種と区別できる (尼岡, 2016). (笹木大地)



カチドキダルマガレイ *Crossorhombus valderostratus*, KAUM-I. 145241
89 mm SL, 宮崎県
上 有眼側
左 無眼側



ダルマガレイ属 Genus *Engyprosopon* Regan 1920

ダルマガレイ

Engyprosopon grandisquama
(Temminck & Schlegel 1846)

インドー西太平洋, 日本では兵庫県香住から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 種子島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は尾鰭に1対の黒点があること, 第1鰓弓下枝の鰓耙数は5-8であること, 両眼間隔が広いこと, 側線鱗数は37-43であること, 体高は体長の50%以上であることから同属他種と区別できる.
(笹木大地)

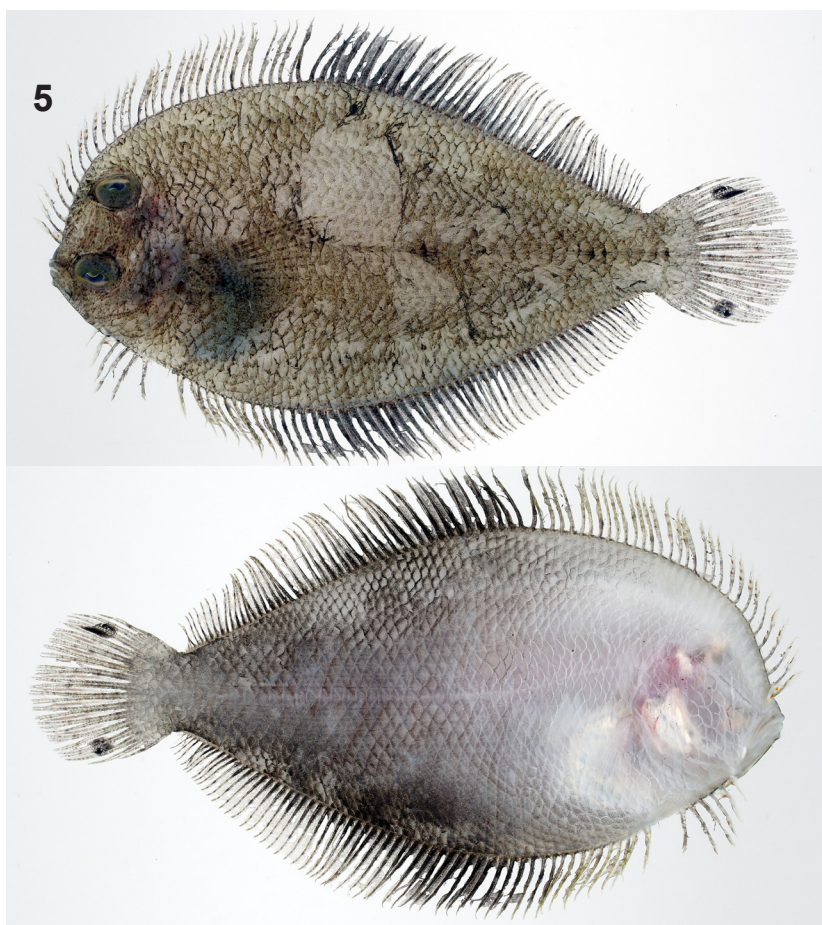


ダルマガレイ *Engyprosopon grandisquama*, FRLM 25914, 74 mm SL, 英虞湾内座賀島

チカメダルマガレイ

Engyprosopon multisquama
Amaoka 1963

ベトナムから台湾, 日本の北西太平洋, 日本では, 青森県日本海沿岸, 山形県から山口県の日本海沿岸, 薩摩半島西岸, 千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸, 奄美大島に分布する. 三重県では志摩市御座の定置網で標本が得られている. 本種は尾鰭に1対の黒点があること, 第1鰓弓下枝の鰓耙数は5-8であること, 両眼間隔が狭いこと, 側線鱗数は45-50であること, 体高は体長の50%以下であることから同属他種と区別できる.
(笹木大地)



チカメダルマガレイ
Engyprosopon multisquama
KAUM-I. 8715, 74 mm SL, 高知県
上 有眼側
左 無眼側

ヒナダルマガレイ属 Genus *Japonolaeops* Amaoka 1969

ヒナダルマガレイ

Japonolaeops gracilis
(Fowler 1934)

インドー西太平洋, 日本では山口県日本海側, 愛知県, 土佐湾, 種子島, 沖縄舟状海盆から記録されていた. 三重県では熊野灘で操業する底曳網で採集された. 本種は両顎歯が有眼側・無眼側ともにあること, 口は小さく下眼の眼径より短いこと, 臀鰭が90-101軟条であることで同科他種と区別できる.
(笹木大地)



ヒナダルマガレイ *Japonolaeops gracilis*, FRLM 64609, 153 mm SL, 熊野灘

ヤリガレイ属 Genus *Laeops* Günther 1880

ヤリガレイ *Laeops parviceps* Günther 1880

インドー西太平洋，日本では青森県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸，沖縄舟状海盆から記録されている．三重県では熊野灘から標本が得られている．本種は両顎歯が無眼側のみにあることでホシヤリガレイ *Laeops nigromaculatus* von Bonde 1922 に似るが，体に小黑斑が散在しないこと，背鰭第1・2軟条が他から少し離れ，低い鰭膜で連続すること，前鰓蓋下縁は膨出しないことで区別できる．（笹木大地）



ヤリガレイ *Laeops parviceps*
上 FRLM 39049, 93 mm SL
南伊勢町賛浦
右 FRLM 54441, 123 mm SL, 熊野灘



オオクチヤリガレイ属 Genus *Neolaeops* Amaoka 1969

オオクチヤリガレイ *Neolaeops microphthalmus* (von Bonde 1922)

インドー西太平洋，日本では三重県尾鷲から九州南岸の太平洋沿岸，東シナ海に分布する．本標本は南伊勢町古和浦から紀北町長島の沖合で操業する沖合底曳網から得られた．本種は両顎歯が有眼側・無眼側ともにあること，吻の背縁は著しく窪むこと，口は大きく下眼の眼径よりも長いことなどが特徴．（笹木大地）



オオクチヤリガレイ *Neolaeops microphthalmus*, FRLM 61389, 109 mm SL, 熊野灘

イイジマダルマガレイ属 Genus *Psettina* Hubbs 1915

イイジマダルマガレイ *Psettina iijimae* (Jordan & Starks 1904)

西太平洋，日本では新潟県から長崎県の日本海・東シナ海，駿河湾から九州南岸の太平洋に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は体の背縁と腹縁にある半輪状黒斑は背鰭と臀鰭にまで及ぶこと，尾鰭に暗色横帯があること，第1鰓弓の上枝に2-5本の鰓耙があることから同属他種と区別できる．（笹木大地）



イイジマダルマガレイ *Psettina iijimae*, FRLM 34096, 69 mm SL, 熊野灘

トサダルマガレイ
Psettina tosana
Amaoka 1963

台湾から日本，韓国の東アジア，国内では新潟県柏崎沖，島根県敬川沖，山口県日本海側，土佐湾から大隅半島東岸の太平洋，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する．三重県では熊野灘で操業するまき網から1標本が得られている．本種は尾鰭に暗色横帯がないこと，両顎と吻端が黒くないことで同属他種と区別できる．

(笹木大地)



トサダルマガレイ *Psettina tosana*, FRLM 20005, 67 mm SL, 東シナ海

ヒラメ科 Family Paralichthyidae Regan 1910

ヒラメ属 Genus *Paralichthys* Girard 1858

ヒラメ
Paralichthys olivaceus
(Temminck & Schlegel 1846)



ヒラメ *Paralichthys olivaceus*
 上 FRLM 54571, 12 mm SL
 英虞湾内座賀島
 右 FRLM 39908, 278 mm SL
 志摩市阿児町安乗

ベトナムからロシアまでの北西太平洋，日本では北海道オホーツク海，北海道から九州南岸の日本海・東シ



ナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，種子島，屋久島に分布する．三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する．刺し網，底曳網，定置網などで漁獲され

る．本種は無眼側の胸鰭中央部軟条の先端は分枝すること，有眼側の後頭部に背鰭基底に向かう側線分枝がないことが特徴．

(笹木大地)

ガンゾウビラメ属 Genus *Pseudorhombus* Bleeker 1862

テンジクガレイ
Pseudorhombus arsius
(Hamilton 1822)

インドー西太平洋，日本では若狭湾，長崎県，神奈川県三崎，紀伊水道から鹿児島県本土，大隅諸島以南に分布する．三重県では南伊勢町賛浦から写真記録がある．本種は有眼側の側線上に3つの黒斑がある（ただし，最後部のものは小さく不明瞭なこともある）ことでマルガンゾウビラメ *Pseudorhombus elevatus* Ogilby 1912 に似るが，下肢鰭耙数が8-15（マルガンゾウビラメでは14-24）であること，両顎前方の歯は大きな犬歯（両顎歯は小さい）であることで区別できる（Matsunuma et al., 2024）．

(笹木大地)



テンジクガレイ *Pseudorhombus arsius*, 南伊勢町賛浦（岡田 誠撮影）

ガンゾウビラメ
Pseudorhombus cinnamoneus
(Temminck & Schlegel 1846)

東インドから西太平洋，日本では青森県から長崎県の日本海・東シナ海，千葉県銚子から日向灘の太平洋，鹿児島県，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する．三重県では伊勢湾口から志摩市で標本が得られている．本種は有眼側の側線の湾曲部に1黒斑があること，有眼側の体側鱗はすべて櫛鱗であることから同属他種と区別できる．
 (笹木大地)



ガンゾウビラメ *Pseudorhombus cinnamoneus*, FRLM 36810, 279 mm SL
 志摩市志摩町和具

タマガンゾウビラメ
Pseudorhombus ocellifer
Regan 1905

西太平洋，日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する．三重県では伊勢湾口から熊野灘に分布する．本種は有眼側に5個の黒斑があることでヘラガンゾウビラメ *Pseudorhombus oculocirris* Amaoka 1969 およびフタツボシガンゾウビラメ *Pseudorhombus quinquocellatus* Weber & de Beaufort 1929 に似るが，前者とは背鰭前部の軟条は短く，糸状に伸びないことで区別でき，後者とは鰓孔に2個の黒色皮弁をもたないことなど



タマガンゾウビラメ *Pseudorhombus ocellifer*, FRLM 39932, 100 mm SL
 志摩市志摩町御座

から区別できる (Matsunuma et al., 2024).
 (笹木大地)

ヘラガンゾウビラメ
Pseudorhombus oculocirris
Amaoka 1969

ベトナムから日本の北西太平洋，国内では新潟県柏崎，若狭湾，熊本県湯島，相模湾から鹿児島県本土，奄美大島に分布する．三重県では志摩市御座および熊野市波田須から標本が得られている．本種は有眼側に5個の黒斑があることでタマガンゾウビラメ *Pseudorhombus ocellifer* Regan 1905 およびフタツボシガンゾウビラメ *Pseudorhombus quinquocellatus* Weber & de Beaufort 1929 に似るが，背鰭前部の軟条は長

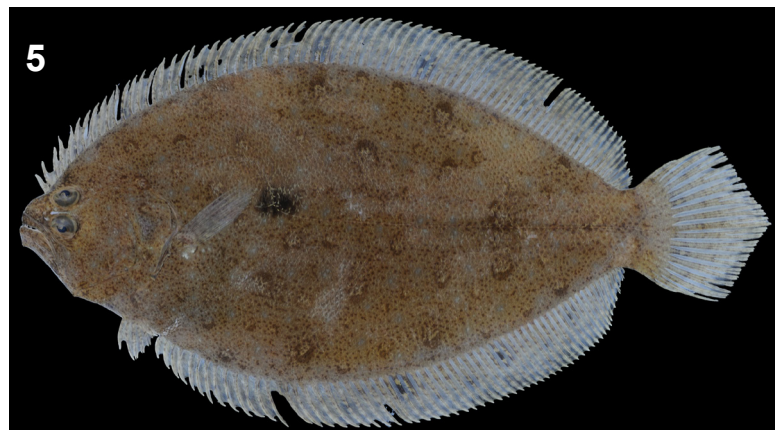


ヘラガンゾウビラメ *Pseudorhombus oculocirris*, FRLM 49946, 207 mm SL, 熊野市波田須町

く，少し糸状に伸びることで区別できる (Matsunuma et al., 2024).
 (笹木大地)

ナンヨウガレイ
Pseudorhombus oligodon
(Bleeker 1854)

ベトナムから日本の北西太平洋，国内では若狭湾および和歌山県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海から記録されている．三重県では御浜町沖で採集された．本種は胸鰭下方の鰓孔に沿って2個の黒点があること，無眼側の体側鱗が櫛鱗であることから同属他種と区別できる．
 (笹木大地)



ナンヨウガレイ *Pseudorhombus oligodon*, FRLM 64651, 191 mm SL, 御浜町

アラメガレイ属 Genus *Tarphops* Jordan & Thompson 1914

ユメアラメガレイ *Tarphops elegans* Amaoka 1969

日本および韓国に分布する。国内では新潟県および千葉県銚子から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸に分布する。三重県では志摩市安乗沖から採集された。本種は有眼側がほぼ一様に淡褐色であること、体はやや低く、体長は体高の2.12-2.42倍であること、臀鰭軟条数は52-56であること、側線鱗数は44-48であること、体側鱗は脱落しやすいことでアラメガレイ *Tarphops*



ユメアラメガレイ *Tarphops elegans*, FRLM 23127, 60 mm SL, 志摩市阿児町安乗(固定標本)
oligolepis (Bleeker 1858) と区別できる。(笹木大地)

アラメガレイ *Tarphops oligolepis* (Bleeker 1858)

ベトナムから日本、韓国の北西太平洋、日本では北海道石狩湾から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、青森県津軽海峡沿岸、茨城県から九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する。本種は有眼側に淡褐色斑が散在すること、体はやや高く、体長は体高の1.72-2.0倍であること、臀鰭軟条数は48-52であること、側線鱗数は40-45であること、体側鱗は脱落しにくいことが特徴。

(笹木大地)



アラメガレイ *Tarphops oligolepis*, FRLM 35901, 42 mm SL, 志摩市志摩町御座

カレイ科 Family Pleuronectidae Rafinesque 1815

サメガレイ属 Genus *Clidoderma* Bleeker 1862

サメガレイ *Clidoderma asperrimum* (Temminck & Schlegel 1846)

日本、朝鮮半島からベーリング海、カリフォルニアの北太平洋、日本では北海道全沿岸、青森県から九州北西岸の日本海・東シナ海沿岸、青森県から千葉県銚子、神奈川県三崎、熊野灘の太平洋、鹿児島県本土、東シナ海に分布する。三重県では熊野灘から1標本が得られている。本種は有眼側の体にいぼ状突起が密に分布することが特徴。(笹木大地)



サメガレイ *Clidoderma asperrimum*, KAUM-I. 48307, 250 mm SL, 鹿児島県
上 有眼側
左 無眼側



ミギガレイ属 Genus *Dexistes* Jordan & Starks 1904

ミギガレイ *Dexistes rikuzenius* Jordan & Starks 1904

日本および韓国釜山の東アジア，国内では北海道渡島半島から九州北岸の日本海沿岸，北海道噴火湾から千葉県銚子，駿河湾，土佐湾の太平洋沿岸，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域に分布する．三重県では熊野灘で操業する沖合底曳網で漁獲される．本種は眼上に鱗があること，側線鱗数は57-67であること，側線はほぼ直走することが特徴．
(笹木大地)



ミギガレイ *Dexistes rikuzenius*, FRLM 58352, 141 mm SL, 熊野灘

ムシガレイ属 Genus *Eopsetta* Jordan & Goss 1885

ムシガレイ *Eopsetta grigorjewi* (Herzenstein 1890)

日本，渤海，黄海，朝鮮半島全沿岸，上海近海，ピョートル大帝湾の北西太平洋，日本では北海道から長崎県および土佐湾の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は有眼側に側線をはさんで3対の玉状の斑紋があることが特徴．
(笹木大地)



ムシガレイ *Eopsetta grigorjewi*, FRLM 34494, 272 mm SL, 志摩市志摩町沖

ヒレグロ属 Genus *Glyptocephalus* Gottsche 1835

ヤナギムシガレイ *Glyptocephalus kitaharae* (Jordan & Starks 1904)

日本，渤海南部，黄海，東シナ海北東部，韓国济州島の東アジア，日本では北海道積丹半島から九州北西岸の日本海沿岸，北海道噴火湾から日向灘の太平洋沿岸，鹿児島県本土，大隅諸島黒島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は体が細長いこと，無眼側の頭部にくぼみがないこと，眼上に鱗があることなどが特徴．
(笹木大地)



ヤナギムシガレイ *Glyptocephalus kitaharae*, FRLM 58353, 156 mm SL, 熊野灘

ババガレイ属 Genus *Microstomus* Gottsche 1835

ババガレイ *Microstomus achne* (Jordan & Starks 1904)

日本，朝鮮半島南岸・東岸，黄海，ピョートル大帝湾，サハリン，千島列島南部の北西太平洋，日本では北海道全沿岸，青森県から対馬の日本海沿岸，青森県から千葉県外房，神奈川県三崎，愛知県に分布する．三重県では志摩市波切の定置網，尾鷲市の定置網および底曳網で標本が得られている．本種は有眼側の鰓孔上端は胸鰭上端とほぼ同じ高さであること，両顎歯は有眼側には0-1本しかないこと，眼上に鱗がないことなどが特徴．
(笹木大地)



ババガレイ *Microstomus achne*, FRLM 40738, 346 mm SL, 志摩市大王町波切

ヌマガレイ属 Genus *Platichthys* Girard 1854

イシガレイ *Platichthys bicoloratus* (Basilewsky 1855)



イシガレイ *Platichthys bicoloratus*
上 FRLM 54562, 50 mm SL
松阪市松名瀬
右 FRLM 49405, 286 mm SL
志摩市大王町波切



日本，渤海，黄海，朝鮮半島全沿岸，サハリン，千島列島の北西太平洋，日本では北海道全沿岸，青森県から九州西岸および日向灘の日本海・東

シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾に多く，熊野灘でもみられる．本種は体に鱗

がなく円滑であること，成魚では石状骨質板が背側部，側線付近，腹側部に並ぶことが特徴．
(笹木大地)

メイタガレイ属 Genus *Pleuronichthys* Girard 1854

ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys cornutus* (Temminck & Schlegel 1846)

北海道余市から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，北海道知内，岩手県宮古から九州南岸の太平洋沿岸，瀬戸内海西部，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種はメイタガレイ *Pleuronichthys lighti* Wu 1929 に似るが，体の鱗は円形で，やや不規則配列をとること，有眼体側に黒色の小円形の斑点があり，斑点の周囲が滑らかなこと，側頭部の側線は背鰭の前部下方で分枝することで区別できる．
(笹木大地)



ナガレメイタガレイ *Pleuronichthys cornutus*, FRLM 55980, 126 mm SL
志摩市志摩町和具

メイタガレイ
Pleuronichthys lighti
Wu 1929

香港から日本，朝鮮半島の東アジア，日本では秋田県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸，仙台湾から豊後水道の太平洋沿岸，鹿児島県本土，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾から熊野灘で普通にみられる．本種はナガレメイタガレイ *Pleuronichthys cornutus* (Temminck & Schlegel 1846) に似るが，体の鱗は楕円形で，やや規則的配列をとること，有眼体側に黒色斑の不定形で周囲は角張ること，側頭部の側線は背鰭の前部下方で分枝しないことで区別できる．

(笹木大地)



メイタガレイ *Pleuronichthys lighti*, FRLM 45279, 167 mm SL, 伊勢湾口

マガレイ属 Genus *Pseudopleuronectes* Bleeker 1862

マコガレイ
Pseudopleuronectes yokohamae
(Günther 1877)

日本，朝鮮半島全沿岸，渤海から東シナ海北部の東アジア，日本では北海道西岸から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸，北海道南岸から土佐湾の太平洋沿岸，大隅半島，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾に多く，熊野灘にも分布する．本種は同属のマガレイ *Pseudopleuronectes herzensteini* (Jordan & Snyder 1901) に似るが，無眼側の尾柄部周辺は黄色くないこと，両眼間隔は有鱗であることで区別できる． (笹木大地)



マコガレイ *Pseudopleuronectes yokohamae*, FRLM 51887, 222 mm SL
 英虞湾内座賀島

マツカワ属 Genus *Verasper* Jordan & Gilbert 1898

ホシガレイ
Verasper variegatus
(Temminck & Schlegel 1846)

日本，渤海，黄海，東シナ海北部，朝鮮半島全沿岸，ピョートル大帝湾の東アジア，日本では北海道積丹半島から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸，宮城県気仙沼から豊後水道の太平洋沿岸，鹿児島県本土，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾から伊勢湾口に分布し，熊野灘でも稀にみられる．本種はマツカワ *Verasper moseri* Jordan & Gilbert 1898 に似るが，背鰭と臀鰭に黒色斑がある（マツカワでは黒色帯）ことで区別できる．環境省準絶滅危惧種．

(笹木大地)



ホシガレイ *Verasper variegatus*, FRLM 55540, 212 mm SL, 三重県

ベロガレイ科 Family Samaridae Jordan & Goss 1889

ハタタテガレイ属 Genus *Samaris* Gray 1831

ハタタテガレイ

Samaris cristatus Gray 1831

紅海，アフリカ東岸からフィリピン，日本，オーストラリア，ソロモン諸島に至るインドー西太平洋。日本では鹿児島県から三重県に分布する。三重県では熊野灘の底曳網で漁獲された。背鰭前部の軟条が伸長する，尾鰭軟条はすべて不分枝。

(木村清志)



ハタタテガレイ *Samaris cristatus*

上 FRLM 55274, 118 mm SL, マレーシア

左 FRLM 56355, 82 mm SL, ベトナム

ツキノワガレイ属 Genus *Samariscus* Gilbert 1905

ツキノワガレイ

Samariscus japonicus Kamohara 1936

日本，東シナ海中部に分布する。国内では新潟県，島根県敬川沖，山口県の日本海，九州西方の東シナ海，熊野灘，土佐湾，豊後水道から記録されている。写真は沖合底曳網で混獲され尾鰭市場に水揚げされた個体である。本種は胸鰭が5軟条であること，体長は体高の2.5-3.1倍であること，有眼側の体側中央に明瞭な斑紋がないことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



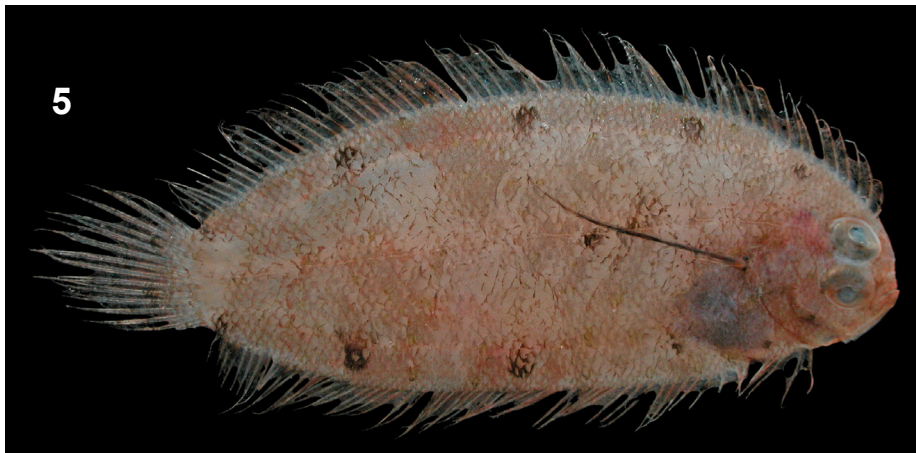
ツキノワガレイ *Samariscus japonicus*, FRLM 40498, 72 mm SL, 熊野灘

ツマリツキノワガレイ

Samariscus latus Matsubara & Takamuki 1951

台湾，日本に分布する。国内では若狭湾から山口県の日本海沿岸，熊野灘，土佐湾，日向灘に分布する。本種は尾鰭市から得られた標本に基づいて，Matsubara and Takamuki (1951) によって新種記載された。本種は胸鰭が頭長より著しく長いこと，胸鰭に数本の暗色帯があることで同属他種と区別できる。

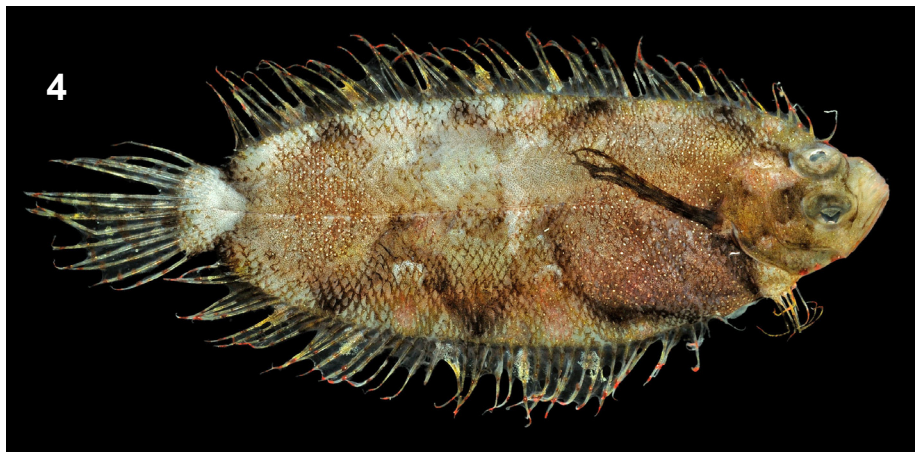
(笹木大地)



ツマリツキノワガレイ *Samariscus latus*, FRLM 32266, 69 mm SL, 台湾

コツキノワガレイ
Samariscus xenicus
Ochiai & Amaoka 1962

若狭湾, 山口県日本海側, 東京湾, 土佐湾, 愛媛県愛南沖から記録されている。三重県では志摩市安乗沖から標本が得られている。本種は胸鰭が4軟条であること, 体長は体高の2.2-2.6倍であること, 有眼側の体側中央に明瞭な斑紋がないことで同属他種と区別できる。(笹木大地)



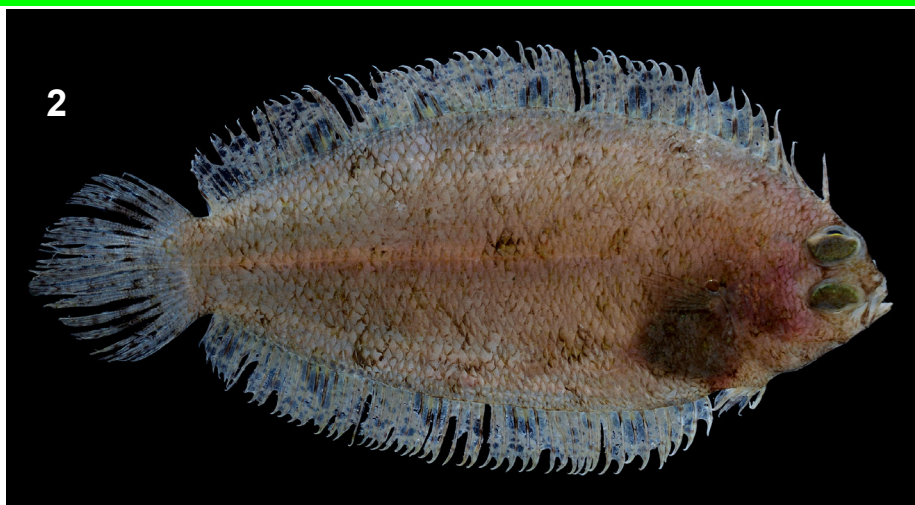
コツキノワガレイ *Samariscus xenicus*, FRLM 39008, 37 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

カワラガレイ科 Family Poecilopsettidae Norman 1934

カワラガレイ属 Genus Poecilopsetta Günther 1880

カワラガレイ
Poecilopsetta plinthus
(Jordan & Starks 1904)

海南島, 台湾, 東シナ海, 日本に分布する。国内では新潟県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 岩手県沖, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は無眼側に胸鰭があること, 尾鰭に2個の大きな黒斑があること, 有眼側の側線は胸鰭上方で大きく湾曲することが特徴。(笹木大地)



カワラガレイ *Poecilopsetta plinthus*, FRLM 46402, 105 mm SL, 南伊勢町賛浦沖

ササウシノシタ科 Family Soleidae Bonaparte 1833

ツノウシノシタ属 Genus Aesopia Kaup 1858

ツノウシノシタ
***Aesopia cornuta* Kaup 1858**

インドー西太平洋, 日本では山口県日本海側, 長崎県, 千葉県銚子から鹿児島県本土に分布する。三重県では志摩市御座および尾鷲市から標本が得られている。本種は背鰭第1軟条が太くて延長すること, 両眼間隔は盛り上がり, 鱗がないことが特徴。(笹木大地)



ツノウシノシタ *Aesopia cornuta*, FRLM 35276, 109 mm SL, 尾鷲市

トビササウシノシタ属 Genus *Aseraggodes* Kaup 1858

トビササウシノシタ *Aseraggodes kobensis* (Steindachner 1896)

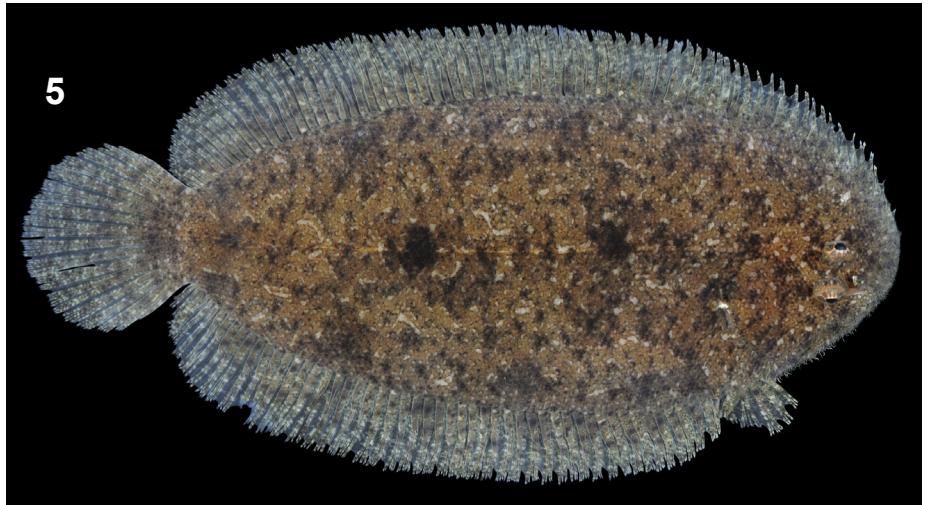
インドー西太平洋, 日本では新潟県および相模湾から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘に分布する。本種は有眼側の前鼻管は短く下眼の前縁を越えないこと, 有眼側の体はほぼ一様に茶褐色で, その上にいくつかの輪郭が不明瞭な濃褐色斑があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



トビササウシノシタ *Aseraggodes kobensis*, FRLM 37381, 59 mm SL
志摩市志摩町御座

ムスメウシノシタ *Aseraggodes* sp.

島根県から山口県の日本海沿岸, 相模湾から鹿児島県本土, 八丈島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では南伊勢町奈屋浦および尾鷲市九鬼から標本が得られている。本種は有眼側の体軸に沿って, 輪郭のやや不明瞭な黒褐色斑があること, 臀鰭は51-54軟条であることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ムスメウシノシタ *Aseraggodes* sp., FRLM 63572, 82 mm SL, 尾鷲市九鬼町

ワモンウシノシタ属 Genus *Brachirus* Swainson 1839

ワモンウシノシタ *Brachirus annularis* Fowler 1934

インドー西太平洋, 日本では土佐湾から記録されている。三重県では尾鷲市場に水揚げされた1標本が得られており, これは国内における土佐湾以外から得られた初の標本である。本種は有眼側の体面にいくつかの大きな輪状斑があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



ワモンウシノシタ *Brachirus annularis*, FRLM 35878, 137 mm SL, 熊野灘

ササウシノシタ属 Genus *Heteromycteris* Kaup 1858

ササウシノシタ *Heteromycteris japonicus* (Temminck & Schlegel 1846)

中国, 日本, 韓国の東アジア, 日本では青森県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 茨城県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 種子島に分布する. 三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する. 本種は黒褐色および白色の小斑点が散在することで同属他種と区別できる.

(笹木大地)



ササウシノシタ *Heteromycteris japonicus*, FRLM 35898, 58 mm SL
志摩市志摩町御座

セトウシノシタ属 Genus *Pseudaesopia* Chabanaud 1934

セトウシノシタ *Pseudaesopia japonica* (Bleeker 1860)

台湾, 日本, 朝鮮半島南岸の東アジア, 日本では北海道室蘭, 新潟県佐渡から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸, 津軽海峡から東北地方, 千葉県館山から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海沿岸大陸棚域に分布する. 三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する. 本種は背鰭・臀鰭と尾鰭は起部付近で連続すること, 背鰭は71-81軟条であること, 臀鰭は59-67軟条であることが特徴.

(笹木大地)



セトウシノシタ *Pseudaesopia japonica*, FRLM 45674, 92 mm SL, 南伊勢町

シマウシノシタ属 Genus *Zebrias* Jordan & Snyder 1900

シマウシノシタ *Zebrias zebrinus* (Temminck & Schlegel 1846)

ベトナムから日本の北西太平洋. 日本では青森県津軽海峡沿岸, 青森県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸, 福島県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 種子島, 東シナ海大陸棚域に分布する. 三重県では伊勢湾口から熊野灘に分布する. 本種に近縁とされたオビウシノシタ *Zebrias fasciatus* (Basilewsky 1855) は本種の新参シノニムとされたため (Wang et al., 2014), 国内における本属魚類は本種のみである. 本種は背鰭・臀鰭と尾鰭は連続し, 切れ込みがないこと, 両眼間隔は盛り上がりず鱗があることが特徴. (笹木大地)



シマウシノシタ *Zebrias zebrinus*, FRLM 36245, 208 mm SL, 志摩市志摩町御座

ウシノシタ科 Family Cynoglossidae Jordan 1888

イヌノシタ属 Genus Cynoglossus Hamilton 1822

ゲンコ

Cynoglossus interruptus Günther 1880

西太平洋，日本では京都府舞鶴，長崎県橘湾，有明海，千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸，鹿児島県本土，瀬戸内海，東シナ海，奄美大島に分布する．三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する．本種は有眼側の側線が2本であること，吻は丸くて短いこと，背鰭と臀鰭の鰭条に茶褐色点があり，鰭膜は淡色であること，背鰭は105-114軟条であること，臀鰭は81-91軟条であることから同属他種と区別できる．（笹木大地）



ゲンコ *Cynoglossus interruptus*, FRLM 45278, 112 mm SL, 伊勢湾口

ミナミアカシタビラメ *Cynoglossus itinus* (Snyder 1909)

インドー西太平洋，日本では福岡県津屋崎，長崎県橘湾，三浦半島西岸から九州南岸の太平洋沿岸，瀬戸内海，沖縄島に分布する．三重県では志摩市安乗および御座から標本が得られている．本種は有眼側の側線が3本であること，鼻孔が1個であることで同属他種と区別できる．（笹木大地）



ミナミアカシタビラメ *Cynoglossus itinus*, FRLM 37814, 96 mm SL, 志摩市志摩町御座

アカシタビラメ *Cynoglossus joyneri* Günther 1878

中国から日本，韓国の東アジア，日本では新潟県および北海道南部から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾および志摩市安乗，御座から標本が得られている．本種は有眼側の側線が3本であること，



アカシタビラメ *Cynoglossus joyneri*, FRLM 45003, 177 mm SL, 松阪市

鼻孔は2個であること，第1と第2口の后端は下眼後縁を越えることで同属他種と区別できる．（笹木大地）

ヒレグロゲンコ *Cynoglossus nigropinnatus* Ochiai 1963

中国，台湾，日本の東アジア，日本では若狭湾，熊野灘から九州南岸の太平洋沿岸に分布する．本種は尾鰭市から得られた標本に基づいて，Ochiai (1963) によって新種記載された．本種は有眼側の側線が3本であること，口の后端は下眼後縁に達しないこと，背鰭と第1側線間の鱗数が5-7であること，有眼側の背鰭と臀鰭は全体的に灰黒色であることで同属他種と区別できる．（笹木大地）



ヒレグロゲンコ *Cynoglossus nigropinnatus*, KAUM-I.53513, 200 mm SL, 高知県

オキゲンコ
Cynoglossus ochiaii
 Yokogawa, Endo & Sakaji 2008

フィリピンから日本の北西太平洋、日本では石川県金石、兵庫県香住、島根県隠岐、山口県、長崎県島原、薩摩半島の日本海・東シナ海沿岸、愛知県渥美半島沖から九州南岸の太平洋沿岸、東シナ海に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は有眼側の側線が3本であること、口の後端は下眼後縁に達しないこと、



オキゲンコ *Cynoglossus ochiaii*, FRLM 46628, 165 mm SL, 熊野灘
 背鰭と第1側線間の鱗数が3-4であること、有眼側の背鰭と臀鰭は全体的に濃褐色であることで同属他種と区別できる。(笹木大地)

オオシタビラメ
Cynoglossus quadrilineatus
 (Bleeker 1851)

インド-西太平洋、日本では福岡県津屋崎、三浦半島から九州南岸の太平洋沿岸、広島県尾道、種子島に分布する。三重県では尾鷲湾の定置網および熊野市二木島から標本が得られている。本種は無眼側にも側線有孔鱗があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



オオシタビラメ *Cynoglossus quadrilineatus*
 上 FRLM 45846, 467 mm SL
 左 FRLM 45987, 19 mm SL
 熊野市二木島町



イヌノシタ
Cynoglossus robustus
 Günther 1873

中国から日本、韓国の東アジア、日本では新潟県および相模湾から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、東シナ海中央部大陸棚域に分布する。三重県では伊勢湾から伊勢湾口域に分布する。本種は有眼側の側線が2本であること、吻はやや長いこと、第1と第2の側線間の鱗数は10-11であること、無眼側の背鰭の色はほぼ一様であること



イヌノシタ *Cynoglossus robustus*, FRLM 45785, 281 mm SL, 伊勢湾
 とで同属他種と区別できる。(笹木大地)

タイワンシタビラメ属 Genus *Paraplagusia* Bleeker 1865

クロウシノシタ
Paraplagusia japonica
 (Temminck & Schlegel 1846)

中国から日本、韓国の東アジア、日本では瀬戸内海を含む北海道から九州南岸の日本各地に分布する。本種は有眼側の側線が3本であること、無眼側の背鰭、臀鰭は黒いことで同属他種と区別できる。(笹木大地)



クロウシノシタ *Paraplagusia japonica*
 上 FRLM 36952, 269 mm SL, 志摩市大王町波切
 左 FRLM 54563, 67 mm SL, 松阪市松名瀬町



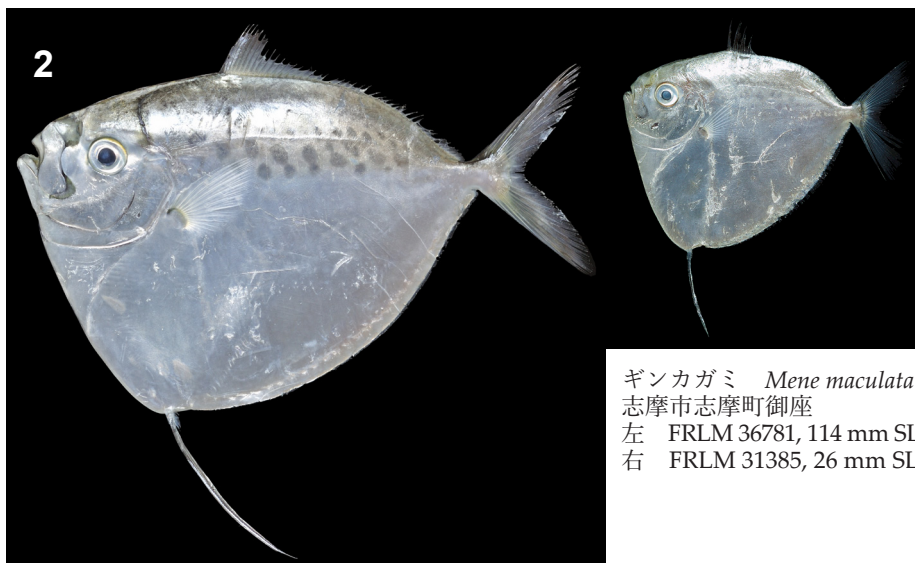
ギンカガミ亜目 (新称) Suborder Menoidei

ギンカガミ科 Family Menidae Fitzinger 1873

ギンカガミ属 Genus *Mene* Lacepède 1803

ギンカガミ *Mene maculata* (Bloch & Schneider 1801)

インドー西太平洋に分布。日本では青森県以南の日本海沿岸（少ない）、長崎県、茨城県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、大隅諸島以南から記録がある。体は著しく側扁、体は無鱗、腹縁は薄くて鋭く、前下方に張り出すことなどで特徴付けられる。本種が属するギンカガミ科は現在1属1種のみで構成される。三重県では定置網や巻網で漁獲されることがある。
(宿女太志)



ギンカガミ *Mene maculata*
志摩市志摩町御座
左 FRLM 36781, 114 mm SL
右 FRLM 31385, 26 mm SL

メカジキ科 Family Xiphiidae Rafinesque 1815

メカジキ属 Genus *Xiphias* Linnaeus 1758

メカジキ *Xiphias gladius* Linnaeus 1758

世界中の熱帯から温帯域に広く分布する。日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋、大隅諸島以南に分布し、瀬戸内海からの記録もある。三重県では熊野灘に分布し、延縄やまき網で混獲される。本種は腹鰭がないこと、体がほとんど側扁しないこと、体に鱗がないことが特徴。
(笹木大地)



メカジキ *Xiphias gladius*, FRLM 54857, 690 mm SL, 熊野灘

マカジキ科 Family Istiophoridae Rafinesque 1815

シロカジキ属 Genus *Istiompax* Whitley 1931

シロカジキ *Istiompax indica* (Cuvier 1832)

インドー太平洋、日本では富山県、石川県、若狭湾、山口県、長崎県生月島・福江島の日本海・東シナ海、北海道から九州南岸の太平洋、琉球列島に分布する。三重県では定置網やまき網で混獲されることがある。写真は南伊勢町に水揚げされた個体である。本種は胸鰭が固定されて動かないことが特徴である。
(笹木大地)

シロカジキ *Istiompax indica*
南伊勢町 (佐口智之氏撮影)



バシヨウカジキ属 Genus *Istiophorus* Lacepède 1801

バシヨウカジキ *Istiophorus platypterus* (Shaw 1792)

インドー太平洋, 日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は第1背鰭が大きく, 後半部で高くなるのが特徴。(笹木大地)



バシヨウカジキ *Istiophorus platypterus*, FRLM 29126, 453 mm SL, 志摩市志摩町御座

マカジキ属 Genus *Kajikia* Marshall & Palmer 1950

マカジキ *Kajikia audax* (Philippi 1887)

インドー太平洋, 日本では北海道日本海沿岸, 富山湾から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋, 琉球列島に分布する。三重県では熊野灘に分布し, 写真は紀北町島勝浦の定置網で漁獲された個体である。本種はクロカジキ *Makaira nigricans* Lacepède 1802 に似るが, 側線が直線状であること, 第1背鰭高は体高より高いことで区別できる。(笹木大地)



マカジキ *Kajikia audax*
紀北町島勝浦 (笹木大地撮影)



クロカジキ *Makaira nigricans*
紀北町島勝浦 (笹木大地撮影)

クロカジキ属 Genus *Makaira* Lacepède 1802

クロカジキ *Makaira nigricans* Lacepède 1802

インドー太平洋, 日本では富山湾, 石川県, 京都府, 山口県, 長崎県生月島・福江島の日本海・東シナ海, 青森県から日向灘の太平洋, 琉球列島に分布する。本種は側線が網目状であること, 第1背鰭高は体高より低いことが特徴。(笹木大地)



尾鷲港, 2018年3月 (松尾 怜撮影)

アジ亜目 Suborder Carangoidei

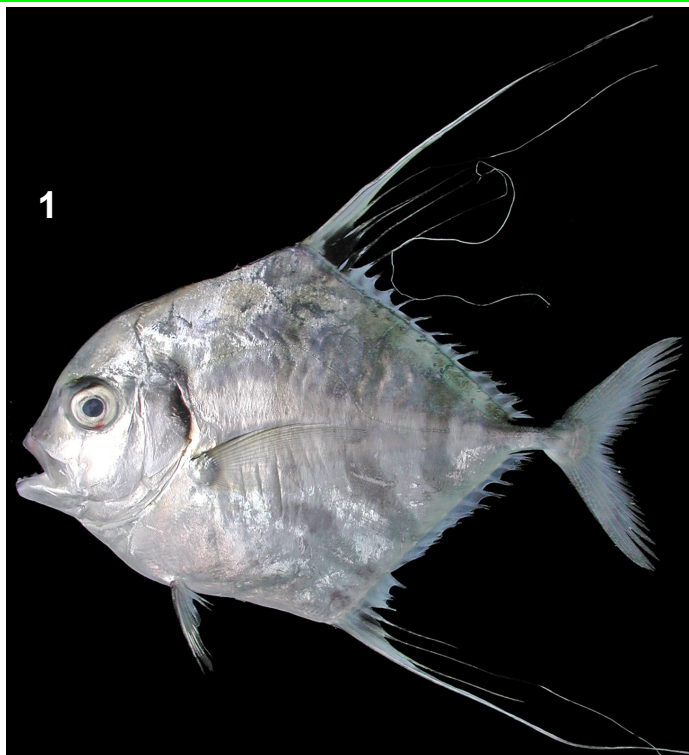
アジ科 Family Carangidae Rafinesque 1815

イトヒキアジ属 Genus *Alectis* Rafinesque 1815

イトヒキアジ *Alectis ciliaris* (Bloch 1787)

世界中の熱帯から温帯域に分布し、日本では北海道から琉球列島まで分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて幼魚がしばしば漁獲されるほか、成魚も稀に漁獲される。他のアジ科の種とは背鰭棘が著しく短く棘間に鰭膜がないか皮下に埋没して外からは見えないことと目の前方の頭部背縁はわずかに凸出することで区別できる。(武内 俊)

イトヒキアジ *Alectis ciliaris*
FRLM 25965, 176 mm SL
志摩市志摩町御座



クボアジ属 Genus *Atropus* Oken 1817

クボアジ *Atropus atropus* (Bloch & Schneider 1801)

ペルシャ湾からフィリピン、日本に至るインド-西太平洋。日本では宮崎県から神奈川県、兵庫県日本海岸から富山湾に分布する。三重県では尾鷲市で採集された。腹鰭は長く、成魚でも黒い。(木村清志)

クボアジ *Atropus atropus*, FRLM 44041
134 mm SL, マレーシア



リュウキュウヨロイアジ *Atropus hedlandensis* (Whitley 1934)

インド-西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では相模湾以南の太平洋沿岸、山口県の日本海沿岸以南と九州、琉球列島に分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。他のアジ科の種とは脂腺が発達しないこと、稜鱗は側線直走部全体を覆わないこと、腹鰭は短く淡色であること、吻長は眼径に等しいかまたは短いこと、背鰭および臀鰭の少なくとも最前部が糸状に伸びること、第1鰓弓の下枝鰓耙数は14-17であることなどで区別できる。(武内 俊)

リュウキュウヨロイアジ
Atropus hedlandensis, FRLM 39743
148 mm SL, 志摩市志摩町御座

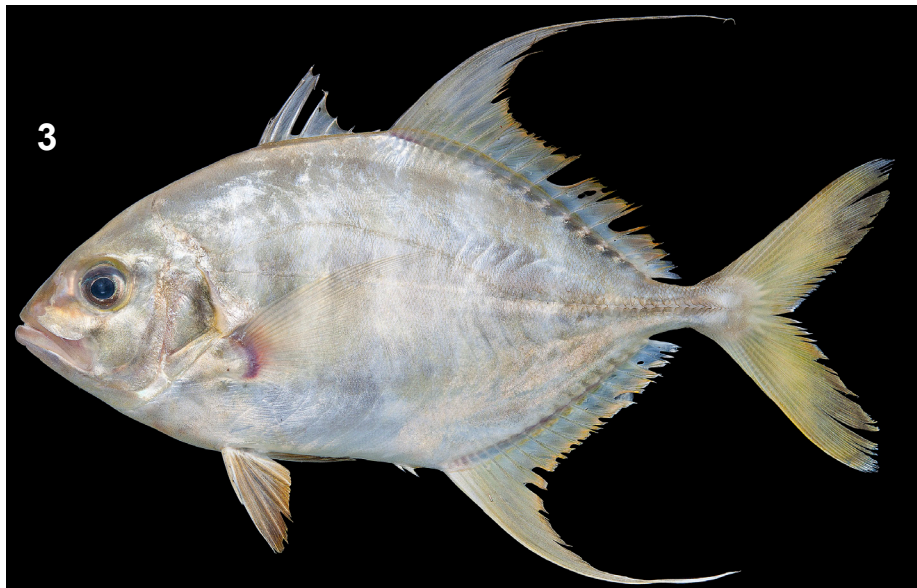


イトヒラアジ属 Genus *Carangichthys* Bleeker 1853

イトヒラアジ *Carangichthys dinema* (Bleeker 1851)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では相模湾以南の太平洋沿岸、新潟県以南の日本海沿岸と九州、琉球列島に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて定置網で漁獲された標本が得られている。同属のテンジクアジ *Carangichthys oblongus* (Cuvier 1833) によく似るが、背鰭基底に沿って黒色斑列があることで区別できる。

(武内 俊)



イトヒラアジ *Carangichthys dinema*, FRLM 36756, 150 mm SL, 志摩市志摩町御座

テンジクアジ *Carangichthys oblongus* (Cuvier 1833)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では太平洋側は相模湾以南、日本海側は山口県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて定置網で漁獲された標本が得られている。同属のイトヒラアジ *Carangichthys dinema* (Bleeker 1851) とは背鰭基底に沿って黒色斑列がないことで区別できる。

(武内 俊)



テンジクアジ *Carangichthys oblongus*, FRLM 37150, 169 mm SL, 志摩市志摩町御座

ギンガメアジ属 Genus *Caranx* Lacepède 1803

イトウオニヒラアジ *Caranx heberi* (Bennett 1830)

インドー西太平洋に分布。日本では三重県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県から記録がある。日本産ギンガメアジ属魚類のうちオニヒラアジ *Caranx papuensis* Alleyne & Macleay 1877 とよく似るが、側線始部の白色点がないこと、背鰭軟条数と臀鰭軟条数の合計が通常 34-37 本であること、および上顎後端は瞳孔後縁の下方に達することで区別することができる。日本では個体数は多くなく、稀に定置網などで漁獲される。三重県では熊野灘沿岸域から少数の標本が得られている。

(宿女太志)



イトウオニヒラアジ *Caranx heberi*, FRLM 37222, 220 mm SL, 志摩市志摩町御座

ロウニンアジ
Caranx ignobilis
(Forsskål 1775)

インドー太平洋に分布。日本では京都府、東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、小笠原諸島、沖縄県でも記録がある。胸部に無鱗域があり、吻背縁と体軸がなす角度は60–70度、体高は高く、幼魚では体長の41.0–42.7%であることで日本産同属他種と区別することができる。非常に大型になる種であるが、三重県で見られる個体は幼魚から若魚が多く、熊野灘沿岸域でよく漁獲される。
 (宿女太志)



ロウニンアジ *Caranx ignobilis*, FRLM 31572, 169 mm SL, 志摩市志摩町御座

カスミアジ
Caranx melampygus
Cuvier 1833

インドー太平洋に分布。日本では東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、南大東島、伊豆諸島、小笠原諸島から記録がある(外山, 2024)。胸部は完全に鱗でおおわれ、稜鱗は淡色、鰓蓋上部に黒斑がなく(幼魚を除く)、主上顎骨後端は眼の中央直下に達しないことで日本産同属他種と区別することができる。幼魚の胸鰭は鮮やかな黄色で、成長に従い背面や各鰭が青色を帯びる。三重県で見られる個体は幼魚から若魚が多く、ほかのギンガメアジ属魚類に混ざり熊野灘沿岸域でよく漁獲される。
 (宿女太志)



カスミアジ *Caranx melampygus*, FRLM 58306, 209 mm SL, 南伊勢町宿浦

オニヒラアジ
Caranx papuensis
Alleyne & Macleay 1877

インドー西太平洋に分布。日本では茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、小笠原諸島から記録がある(外山, 2024)。胸部に無鱗域があり、背縁と体軸がなす角度は約50度、幼魚では体長の35.8–39.5%、側線始部に明瞭な三角形の大きな白色斑があることで日本産同属他種と区別することができる。三重県では頻繁に漁獲されるギンガメアジ属魚類3種[ロウニンアジ *Caranx ignobilis* (Forsskål 1775), カスミアジ *Caranx melampygus* Cuvier 1833, ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* (Quoy & Gaimard 1825)]と比較すると、個体数は多くない。
 (宿女太志)



オニヒラアジ *Caranx papuensis*, FRLM 55556, 141 mm SL, 和歌山県

ギンガメアジ
Caranx sexfasciatus
Quoy & Gaimard 1825

インドー太平洋に分布。日本では福井県以南の日本海沿岸，東シナ海沿岸，青森県以南の太平洋沿岸，瀬戸内海，大隅諸島以南，南大東島，伊豆諸島，小笠原諸島から記録がある。胸部は完全に鱗で覆われ，鰓蓋上部に瞳孔の約2分の1より小さい明瞭な1黒斑があることで日本産同属他種と区別することができる。ギンガメアジ属魚類のうち，本種は三重県で最も頻繁にみられ，伊勢湾内より熊野灘沿岸域で多く見らる。本属魚類は「かめあじ」と呼ばれることがある。（宿女太志）



ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus*, FRLM 55742, 210 mm SL, 志摩市志摩町御座

ミナミギンガメアジ
***Caranx tille* Cuvier 1833**

インドー西太平洋に分布。日本では三重県，宮崎県，鹿児島県，種子島，奄美大島，沖縄県から記録がある。日本産ギンガメアジ属魚類のうち，ギンガメアジ *Caranx sexfasciatus* (Quoy & Gaimard 1825) とよく似るが，眼の前方の頭部背縁は丸く凸状で，吻端のなす角度は鈍いことおよび鰓蓋上部の黒斑は瞳孔の約1/2より大きいことで区別することができる。三重県のみならず日本での記録は少ない。三重県では熊野灘沿岸域から少数の標本が得られている。（宿女太志）



ミナミギンガメアジ *Caranx tille*, FRLM 37217, 174 mm SL, 志摩市志摩町御座

インドカイワリ属 Genus *Craterognathus* Kimura, Takeuchi & Yadome 2022

インドカイワリ
Craterognathus plagiotenia
(Bleeker 1857)

インドー太平洋に分布。日本では静岡県，三重県，鹿児島県，奄美大島以南，小笠原諸島から記録がある。脂鰭の発達が弱いこと，前鰓蓋骨後縁は明瞭に黒いこと，下顎は頑強であることの特徴を持つことで他のアジ科魚類と区別することができる。三重県では志摩市の定置網で稚魚の標本が得られている。（宿女太志）



インドカイワリ
Craterognathus plagiotenia
 上 FRLM 37736, 291 mm SL, 沖縄県
 左 FRLM 36869, 39 mm SL
 志摩市志摩町御座（固定標本）



ムロアジ属 Genus *Decapterus* Bleeker 1851

アカアジ *Decapterus akaadsi* Abe 1958

ミャンマー、タイ、インドネシア、日本の東インド洋、西太平洋。日本では沖縄県から北海道に分布する。三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲される。尾鰭は赤い、胸鰭後端は第2背鰭始部を通る垂線に達するか越える、側直走部は完全に稜鱗で覆われる、稜鱗数 26-29、頭長は体長の 16.6-23.0%。(木村清志)



アカアジ *Decapterus akaadsi*, FRLM 61400, 222 mm SL, 尾鷲市早田町

キツネアカアジ *Decapterus kurroides* Bleeker 1855

紅海、アフリカ東岸からインドネシア、日本、オーストラリアに至るインド-西太平洋。日本では沖縄県、宮崎県、三重県。三重県では熊野灘の巻網や定置網で漁獲された。尾鰭は赤い、胸鰭後端は第2背鰭始部を通る垂線に達するか越える、側直走部は完全に稜鱗で覆われる、稜鱗数 30-32、頭長は体長の 26.7-30.1%。(木村清志)



キツネアカアジ *Decapterus kurroides*, FRLM 55815, 304 mm SL, 南伊勢町賛浦

クサヤモロ *Decapterus macarellus* (Cuvier 1833)

全世界の熱帯、亜熱帯域。日本では沖縄県から茨城県、北海道に分布する。三重県では主に熊野灘の定置網で漁獲される。新鮮な個体では体側中線付近に青白色の縦帯がある、生鮮時の尾鰭は黄色、赤みを帯びる場合もある、側線直走部の前部約半分程度は円鱗で覆われる、体長 250 mm 程度以上の個体では尾鰭基底直



クサヤモロ *Decapterus macarellus*, FRLM 34569, 291 mm SL, 志摩市志摩町和具

前の側線上下に隆起縁をもつ。
(木村清志)

モロ *Decapterus macrosoma* Bleeker 1851

紅海、アフリカ南岸・東岸からハワイ諸島、日本、韓国、オーストラリア、トンガに至るインド-太平洋およびバハカルフォルニアからガラパゴス諸島、ペルーに至る東太平洋。日本では沖縄県から北海道まで分布する。三重県では主に熊野灘の定置網で漁獲される。生鮮時尾鰭は黄色、吻は丸みを帯びる、上顎後縁は明瞭



モロ *Decapterus macrosoma*, FRLM 61688, 247 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

に湾入し、後端下部は丸く膨らむ、われる、頭部背面の鱗域は眼の中央を結ぶ直線に達しない。(木村清志)

マルアジ

***Decapterus maruadsi*
(Temminck & Schlegel 1843)**

ベトナム中部から韓国, 日本に至る北西太平洋. 日本では沖縄県から北海道まで分布する. 三重県では主に熊野灘の定置網や巻網で漁獲される. 生鮮時尾鰭は黄色, 側線直走部は完全に稜鱗で覆われる, 頭部背面の鱗域は眼の中央を結ぶ直線よりも前方に達する, 下枝鰓耙数 33–38.
(木村清志)



マルアジ *Decapterus maruadsi*, FRLM 34119, 252 mm SL, 尾鷲市

ムロアジ

***Decapterus muroadsi*
(Temminck & Schlegel 1844)**

アフリカ東岸からハワイ, イースター島, 韓国, 日本, オーストラリアに至るインド太平洋, カルフォルニアからペルー, ガラパゴスに至る東部太平洋, 中部大西洋のセントヘレナ島. 日本では沖縄県から北海道に分布する. 三重県では主に熊野灘の定置網で漁獲される. 生鮮時尾鰭上葉は黄色で下葉は灰色で赤みを



ムロアジ *Decapterus muroadsi*, FRLM 29529, 270 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

帯びる場合もある, 体側中線付近に黄色縦帯がある, 側線直走部の前部約 1/4 は円鱗で覆われる. 頭部背面の鱗域は眼の中央を結ぶ直線よりも前方に達する.
(木村清志)

インドマルアジ

***Decapterus russelli*
(Rüppell 1830)**

紅海, アフリカ南岸・東岸からフィジーから日本, ニューカレドニアに至るインド太平洋. 日本では沖縄県, 鹿児島県, 宮崎県, 三重県(北限)に分布する. 三重県では志摩市志摩町の定置網で採集された. 側線直走部は完全に稜鱗で覆われる, 頭部背面の鱗域は眼の中央を結ぶ直線



インドマルアジ *Decapterus russelli*, FRLM 52991, 227 mm SL, 西表島

に達しない, 下枝鰓耙数 29–37.
(木村清志)

サクラアジ

***Decapterus smithvanizi*
Kimura, Katahira & Kuriwa 2013**

ミャンマーからインドネシア, 日本に至る東インド洋, 西太平洋. 日本では鹿児島県と三重県(北限)から記録されている. 三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲される. 生鮮時尾鰭は赤い, 胸鰭後端は第1背鰭始部をとる垂線に達するか越える, 側線直走部は完全に稜鱗で



サクラアジ *Decapterus smithvanizi*, FRLM 55724, 179 mm SL, 南伊勢町阿曽浦

覆われるか前部に数枚の円鱗が存在する, 体は細長く体高は体長の 19.4–22.5%.
(木村清志)

オアカムロ

***Decapterus tabl* Berry 1968**

東部太平洋を除く全世界の熱帯, 暖海域. 日本では沖縄県から北海道に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲されている. 生鮮時尾鰭は赤い, 胸鰭後端は第1背鰭始部をとる垂線に達しない, 側線直走部は完全に稜鱗で覆われるか前部に数枚の円鱗が存在する, 体は細長く体高は体長の 16.6–23.0%, 体長 150 mm 以上になると上顎の先端が伸び鉤状になる, 体長 200 mm 以上



オアカムロ *Decapterus tabl*, FRLM 39735, 329 mm SL, 志摩市志摩町和具沖
では鰓蓋膜の後縁の一部が鋸歯状になる.
(木村清志)

ツムブリ属 Genus *Elagatis* Bennett 1840

ツムブリ *Elagatis bipinnulata* (Quoy & Gaimard 1825)

世界中の熱帯から温帯域に分布し、日本では青森県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸でみられ、数は多くないが食用でも流通する。他のアジ科の種とは側線に稜鱗がないことと尾柄部に小離鰭があることで区別できる。(武内 俊)



ツムブリ *Elagatis bipinnulata*, FRLM 37248, 242 mm SL, 志摩市志摩町御座

ナンヨウカイワリ属 Genus *Ferdauia* Jordan, Evermann & Wakiya 1927

クロヒラアジ *Ferdauia ferdau* (Fabricius 1775)

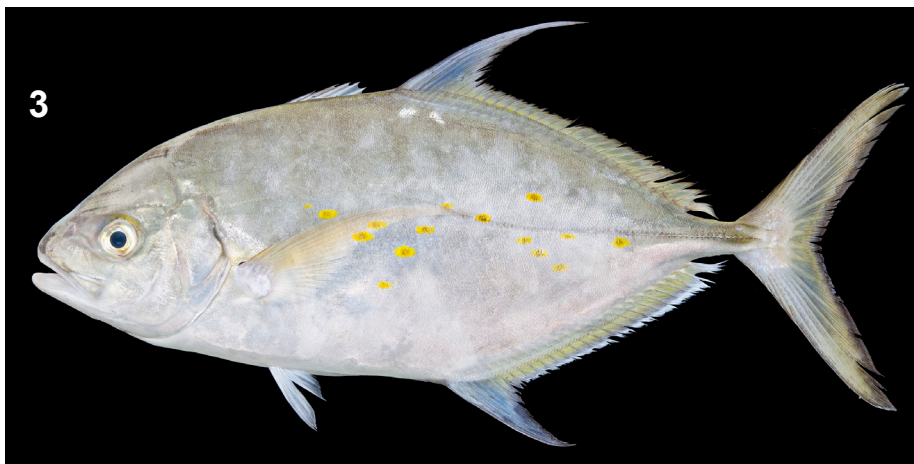
インドー太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では太平洋側は相模湾以南、日本海側は山口県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて定置網でしばしば漁獲される。他のアジ科の種とは体に幅が広い後ろ向きに屈曲する暗色横帯があることで区別できる。(武内 俊)



クロヒラアジ *Ferdauia ferdau*, FRLM 37031, 207 mm SL, 志摩市志摩町御座

ナンヨウカイワリ *Ferdauia orthogrammus* (Jordan & Gilbert 1882)

インドー太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では新潟県佐渡以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から定置網で漁獲された標本が得られている。他のアジ科の種とは脂鰭が発達しないこと、稜鱗は側線直走部全体を覆わないこと、第2背鰭と臀鰭の前部が鎌状に伸長すること、生鮮時体側に黄色点が発散することなどで区別できる。(武内 俊)



ナンヨウカイワリ *Ferdauia orthogrammus*, FRLM 41754, 248 mm SL
志摩市志摩町御座



御浜町阿田和定置網, 2025年3月
(笹木大地撮影)



カイワリ属 Genus *Kaiwarinus* Suzuki 1962

カイワリ

Kaiwarinus equula
(Temminck & Schlegel 1844)

インドー西太平洋に分布。日本では北海道以南の日本海・東シナ海沿岸、太平洋沿岸、瀬戸内海、種子島・屋久島、伊豆諸島、小笠原諸島から記録がある。体は菱形に近く、強く側扁し、背鰭と臀鰭の軟条は伸長せず、最終軟条は小離鰭状でないこと、体側中央に黄色縦帯がないことなどで他のアジ科魚類と区別することができる。三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りによく漁獲される。

(宿女太志)



カイワリ *Kaiwarinus equula*, FRLM 29818, 125 mm SL, 志摩市志摩町御座

オニアジ属 Genus *Megalaspis* Bleeker 1851

オニアジ

Megalaspis cordyla
(Linnaeus 1758)

インドー西太平洋に分布。日本では青森県、新潟県、兵庫県、山口県日本海側、長崎県、神奈川県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海、大隅諸島以南から記録がある。複数の小離鰭があり、発達した稜鱗が側線直走部の全体を覆うことで他のアジ科魚類と区別することができる。遺伝的にギンガメアジ属魚類に近縁である (Kimura et al., 2022)。三重県では主に熊野灘沿岸域の定置網で漁獲されるが、伊勢湾で釣獲された標本も得られている。

(宿女太志)



オニアジ *Megalaspis cordyla*, FRLM 37152, 212 mm SL, 志摩市志摩町御座

ブリモドキ属 Genus *Naucrates* Rafinesque 1810

ブリモドキ

Naucrates ductor
(Linnaeus 1758)

世界中の熱帯から温帯域に分布し、日本では北海道以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸でみられる。他のアジ科の種とは側線に稜鱗がないことと背鰭棘は鰭膜で連結しないこと、体側に明瞭な暗色横帯があることで区別できる。

(武内 俊)



ブリモドキ *Naucrates ductor*, FRLM 33835, 181 mm SL, 尾鷲市

クロアジモドキ属 Genus *Parastromateus* Bleeker 1864

クロアジモドキ *Parastromateus niger* (Bloch 1795)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布する。日本では青森県以南に分布するが数は少ない。三重県では南伊勢町宿浦および御浜町阿田和から定置網で漁獲された標本が得られている。他のアジ科の種とは腹鰭がないことと背鰭棘部は皮下に埋没することで区別できる。

(武内 俊)

5



クロアジモドキ *Parastromateus niger*, FRLM 60783, 181 mm SL, 南伊勢町宿浦

シマアジ属 Genus *Pseudocaranx* Bleeker 1863

シマアジ *Pseudocaranx dentex* (Bloch & Schneider 1801)

東太平洋を除く全世界の温帯域に分布（ただし局所的）。日本では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸、青森県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、伊豆諸島、小笠原諸島から記録がある。体はやや長く、強く側偏し、背鰭と臀鰭の最終軟条は小離鰭状であること、両顎歯は1列であること、生時、体側中央に黄色縦帯があることで他の日本産アジ科魚類と区別することができる。三重県では熊野灘沿岸域の定置網や釣りで漁獲され、市場価値が非常に高い。（宿女太志）

2



シマアジ *Pseudocaranx dentex*, FRLM 61398, 239 mm SL, 尾鷲市

イケカツオ属 Genus *Scomberoides* Lacepède 1801

イケカツオ *Scomberoides lysan* (Fabricius 1775)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布する。日本では太平洋側は茨城県以南、日本海側は能登半島以南、瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて定置網で漁獲される。体の暗色斑点は2列であることで同属他種と区別できる。

(武内 俊)

3



イケカツオ *Scomberoides lysan*, FRLM 57400, 116 mm SL, 志摩市志摩町御座

ミナミイケカツオ
Scomberoides tol
(Cuvier 1832)

インドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布する。日本では日本海側は佐渡以南、太平洋側は茨城県以南と瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて定置網で漁獲されるが同属のイケカツオ *Scomberoides lysan* (Fabricius 1775) より数は少ない。上顎の後端が瞳孔の後縁下に達すること、体の暗色斑点は1列であることで同属他種と区別できる。(武内 俊)



ミナミイケカツオ *Scomberoides tol*, FRLM 36880, 154 mm SL, 志摩市志摩町御座

メアジ属 Genus *Selar* Bleeker 1851

メアジ
Selar crumenophthalmus
(Bloch 1793)

全世界の熱帯・亜熱帯海域に分布。日本では東シナ海沿岸、茨城県以南の太平洋沿岸、大隅諸島以南、伊豆諸島、小笠原諸島から記録がある。尾柄部に小離鰭がなく、肩帯下部に突起を持つことで他の日本産アジ科魚類と区別できる。同属のテルメアジ *Selar boops* (Cuvier 1833) とは側線が第1背鰭の下方で強くS字状に湾曲しないこと、直走部は湾曲部に対して明らかに長くないことで区別することができる(宮本ほか, 2011)。



メアジ *Selar crumenophthalmus*, FRLM 35323, 227 mm SL, 志摩市志摩町御座

三重県では熊野灘沿岸域の定置網でよく漁獲される。(宿女太志)

ブリ属 Genus *Seriola* Cuvier 1816

ヒラマサ
Seriola aureovittata
Temminck & Schlegel 1845

北西太平洋の韓国、日本、ロシアとハワイ諸島に分布し、日本では北海道以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網で主に4-5月に漁獲される。眼を通る暗色斜走帯がないこと、上顎背後角が丸いこと、胸鰭が腹鰭より短いことで同属他種と区別できる。(武内 俊・笹木大地)



ヒラマサ *Seriola aureovittata*, FRLM 40951, 349 mm SL, 志摩市大王町波切

カンパチ
Seriola dumerili
(Risso 1810)

世界中の熱帯から温帯域に分布し、日本では北海道以南に分布する。三重県では伊勢湾と熊野灘沿岸で普通にみられ、熊野灘の定置網では重要な漁獲対象種である。眼を通る暗色斜走帯があること、眼の中心は吻端を通る軸線上にあること、第2背鰭前部が鎌状でないこと、尾鰭下葉先端が白いことで同属他種と区別できる。(武内 俊・笹木大地)



カンパチ *Seriola dumerili*, FRLM 42100, 267 mm SL, 志摩市大王町波切

ブリ

***Seriola quinqueradiata*
Temminck & Schlegel 1845**

西太平洋と中央太平洋の韓国，日本，ハワイ諸島に分布する．日本では北海道以南に分布する．三重県では伊勢湾と熊野灘沿岸で普通にみられる．熊野灘の大型定置網では冬春季における重要な漁獲対象種である．眼を通る暗色斜走帯がないこと，上顎背後角は角張ること，胸鰭は腹鰭とほぼ同長であること同属他種と区別できる．（武内 俊・笹木大地）

ブリ *Seriola quinqueradiata*

上 FRLM 25963, 317 mm SL, 志摩市志摩町御座

下 紀宝町鶴殿（笹木大地撮影）

ヒレナガカンパチ

***Seriola rivoliana*
Valenciennes 1833**

世界中の熱帯から温帯域に分布するし，日本では太平洋側は相模湾以南，日本海側は山口県以南に分布する．三重県では熊野灘沿岸でみられるが同属のカンパチより数は少ない．眼を通る暗色斜走帯があること，眼の中心は吻端を通る軸線上にあること，第2背鰭前部が鎌状であること，尾鰭下葉先端が白くないことで同属他種と区別できる．（武内 俊）

ヒレナガカンパチ *Seriola rivoliana*, FRLM 37551, 300 mm SL, 志摩市志摩町和具**アイブリ属 Genus *Seriolina* Wakiya 1924**

アイブリ

***Seriolina nigrofasciata*
(Rüppell 1829)**

南東大西洋の南アフリカ，紅海，インド-西太平洋の熱帯から温帯域に分布し，日本では太平洋側は茨城県以南，日本海側は新潟県以南に分布する．三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけてしばしば定置網で漁獲されるほか，伊勢湾から稚魚の標本が得られている．他のアジ科の種とは稜鱗がないこと，背鰭棘は鰭膜で連結すること，尾柄部に小離鰭がないこと，体に暗色斜走帯があること，吻は丸いことで区別できる．

（武内 俊）

アイブリ *Seriolina nigrofasciata*, FRLM 57401, 367 mm SL, 志摩市志摩町御座

コバンアジ属 Genus *Trachinotus* Lacepède 1801

コバンアジ *Trachinotus baillonii* (Lacepède 1801)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では太平洋側は相模湾以南、日本海側は新潟県佐渡以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸で見られる。吻がとがることと体に黒点があることとで同属他種と区別できる。ギンユゴイ *Kuhlia mugil* (Forster 1801) やギンガメアジ属幼魚と同一の群れを作ることがある。
(武内 俊)



コバンアジ *Trachinotus baillonii*, FRLM 39889, 181 mm SL, 南伊勢町奈屋浦

マルコバン *Trachinotus blochii* (Lacepède 1801)

紅海とインドー西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では主に屋久島以南に分布するが、宮城県名取川以南の太平洋沿岸から鹿児島県薩摩半島南岸まで散在的に記録がある。三重県では尾鷲市早田の定置網から成魚が、志摩市御座から幼魚の標本が得られているが数は少ない。吻が丸いこと、体に黒点がないこと、第2背鰭葉状部の長さは尾叉長の35-60%であることで同属他種と区別できる。
(武内 俊)



マルコバン *Trachinotus blochii*, FRLM 63084, 447 mm SL, 尾鷲市早田町

マアジ属 Genus *Trachurus* Rafinesque 1810

マアジ *Trachurus japonicus* (Temminck & Schlegel 1844)

中国、台湾、韓国などの東シナ海沿岸に分布。日本では北海道以南の日本海・東シナ海沿岸、太平洋沿岸、瀬戸内海、種子島・屋久島、数は少ないが沖縄県、小笠原諸島でも記録がある。小離鰭がなく、稜鱗は側線の全体にわたって発達することで他の日本産アジ科魚類と区別することができる。三重県では全域でよく漁獲される。地域によってさまざまな形で消費されており、三重県の魚食文化において非常に重要な種である。
(宿女太志)



マアジ *Trachurus japonicus*, FRLM 34746, 186 mm SL, 志摩市志摩町御座

ホシカイワリ属 Genus *Turrum* Whitley 1932

マルヒラアジ

Turrum coeruleopinnatum
(Rüppell 1830)

紅海とインド-西太平洋の熱帯から温帯域に分布し、日本では太平洋側は宮城県以南、日本海側は石川県七尾市以南に分布するが日本海側では稀。三重県では熊野灘沿岸で夏から冬にかけて定置網で幼魚がしばしば漁獲される。他のアジ科の種とは脂鰭が発達しないこと、稜鱗が側線直走部の全体を覆わないこと、背鰭軟条数が22-23であること、吻はややとがること、上唇結合部背縁はなだらかに突出すること、幼魚では第2背鰭および臀鰭の前部は糸状に伸長すること等で区別できる。

(武内 俊)

マルヒラアジ *Turrum coeruleopinnatum*
FRLM 56698, 164 mm SL
志摩市志摩町御座



オキアジ属 Genus *Uraspis* Whitley 1932

オキアジ

Uraspis helvola
(Forster 1801)

ほぼ世界中の熱帯から亜熱帯域に分布し、日本では北海道の太平洋沿岸と青森県以南に分布する。三重県では夏から冬にかけて熊野灘沿岸でみられる。他のアジ科の種とは稜鱗が強く発達しており前方に逆立つことで区別できる。幼魚期の第2背鰭、腹鰭、臀鰭は黒色で大きい。

(武内 俊)

オキアジ *Uraspis helvola*, FRLM 36905
178 mm SL, 熊野灘



インドオキアジ

Uraspis uraspis
(Günther 1860)

インド-西太平洋の熱帯から亜熱帯域と東はハワイ諸島まで分布し、日本では三重県、高知県土佐湾、宮崎県日向灘、鹿児島県薩摩半島と大隅半島、奄美大島、沖縄島から記録がある。三重県では志摩市御座の定置網から標本が得られている。他のアジ科の種とは稜鱗が強く発達していること、臀鰭遊離棘が皮下に埋没すること、胸部と胸鰭基底の無鱗域が連続することで区別できる。

(武内 俊)

インドオキアジ *Uraspis uraspis*
FRLM 33365, 127 mm SL
志摩市志摩町御座



コバンザメ科 Family Echeneidae Rafinesque 1810

コバンザメ属 Genus *Echeneis* Linnaeus 1758

コバンザメ *Echeneis naucrates* Linnaeus 1758

東太平洋を除く全世界の暖海域に広く分布し、日本では北海道から沖縄、三重県では熊野灘沿岸に分布する。他のコバンザメ科の種とは体が細長く縦帯があること、吸盤の板状体が18-28であることで区別できる。(武内 俊)



コバンザメ *Echeneis naucrates*, FRLM 45490, 525 mm SL, 尾鷲市早田町

スジコバン属 Genus *Phtheichthys* Gill 1862

スジコバン *Phtheichthys lineatus* (Menzies 1791)

朝鮮半島東岸、インド-西太平洋・大西洋の暖海域に分布し、日本では太平洋側は茨城県から高知県、日本海側は新潟県から五島灘の日本海・東シナ海沿岸、宮崎県、種子島に分布する。三重県では熊野灘沿岸から



スジコバン *Phtheichthys lineatus*, FRLM 38939, 88 mm SL, 尾鷲市 (左右反転) 記録がある。他のコバンザメ科の種 盤の板状体が9-11であることで区別できる。(武内 俊)

ナガコバン属 Genus *Remora* Gill 1862

クロコバン *Remora brachyptera* (Lowe 1839)

全世界の暖海域に分布し、日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸および小笠原諸島、豆南諸島に分布する。三重県では志摩市から御浜町に至る熊野灘で標本が得られている。他のコバンザメ科の種とは体が太短く縦帯がない



クロコバン *Remora brachyptera*, FRLM 64584, 205 mm SL, 御浜町阿田和 こと、吸盤の板状体は20以下であること、背鰭軟条数が27-37であること、成魚の尾鰭はほぼ截形であることで区別できる。(武内 俊)

ヒシコバン *Remora osteochir* (Cuvier 1829)

世界中の暖海域に分布し、日本では太平洋側は相模湾以南、日本海側は青森県深浦以南に分布する。三重県では志摩市と尾鷲市から標本が得られている。他のコバンザメ科の種とは体が太短く縦帯がないこと、吸



ヒシコバン *Remora osteochir*, FRLM 33437, 109 mm SL, 志摩市志摩町御座 盤の板状体が20以下であること、成 鰭軟条数が20-26であることで区別 魚の尾鰭はほぼ截形であること、背 できる。(武内 俊)

ナガコバン *Remora remora* (Linnaeus 1758)

世界中の暖海域に分布し、日本では太平洋側は北海道以南、日本海側は新潟県以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸から標本が得られている。他のコバンザメ科の種とは体が太短く縦帯がないこと、吸盤の板状体は20以下であること、尾鰭が湾入



ナガコバン *Remora remora*, FRLM 45211, 285 mm SL, 熊野灘

することで区別できる。(武内 俊)

スギ科 Family Rachycentridae Gill 1896

スギ属 Genus *Rachycentron* Kaup 1826

スギ

Rachycentron canadum (Linnaeus 1766)

インドー西太平洋、大西洋、地中海に分布し、日本ではオホーツク海沿岸を除く北海道以南に分布する。三重県では志摩市から標本が得られている。頭部はやや縦扁することや背鰭棘は鰭膜で連続せず互いに独立すること、体側中央に幅広い暗色縦帯があるなどの特徴がある。

(武内 俊)

4



スギ *Rachycentron canadum*, FRLM 29344, 617 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

シイラ科 Family Coryphaenidae Rafinesque 1815

シイラ属 Genus *Coryphaena* Linnaeus 1758

エビスシイラ

Coryphaena equiselis Linnaeus 1758

世界中の熱帯から亜熱帯域に分布し、日本では八丈島、兵庫県坂浜、島根県浜田、土佐湾、錦江湾、宇治群島、種子島、沖縄島、渡嘉敷島から記録がある。三重県では南伊勢町奈屋浦の巻き網から標本が得られている。同属のシイラ *Coryphaena hippurus* Linnaeus 1758 とは、体の背縁と腹縁が弧状であることや体高が腹鰭後方で最大になることで区別できる。

(武内 俊)

5



エビスシイラ *Coryphaena equiselis*, FRLM 58328, 450 mm SL, 熊野灘

シイラ

Coryphaena hippurus Linnaeus 1758

世界中の暖海域に分布し、日本では北海道から琉球列島まで分布する。三重県では伊勢湾から熊野灘の広範囲でみられる。同属のエビスシイラ *Coryphaena equiselis* Linnaeus 1758 とは体の背縁と腹縁は直線状であることや体高が腹鰭起部付近で最大になることで区別できる。

(武内 俊)

1



シイラ *Coryphaena hippurus*

上 FRLM 50968, 239 mm SL, 志摩市志摩町御座

下 FRLM 54897, 29 mm SL, 英虞湾内座賀島